SAP2015

International Forum for Sustainable Asia and the Pacific: ISAP 第7回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム





2015 28 × 29 July PACIFICO YOKOHAMA パシフィコ横浜 [神奈川県横浜市]

Solutions for Change:

Forging Multi-stakeholder Partnerships towards 2030

変革へのソリューション:2030年に向けた多様なパートナーとの連携強化



28 July (Tue) > 9:30-17:25 29 July (Wed) > 9:30-18:00

PACIFICO YOKOHAMA パシフィコ横浜(神奈川県横浜市みなとみらい地区)

Organisers Institute for Global Environmental Strategies (IGES)

United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

Collaborators United Nations Environment Programme (UNEP) / United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP) / Asian Development Bank (ADB) / Organisation for Economic Co-operation

and Development (OECD) / National Institute for Environmental Studies (NIES)

Supporters Ministry of the Environment, Japan / Kanagawa Prefectural Government / Hyogo Prefectural Government /
City of Yokohama / Kawasaki City / City of Kitakyushu / Japan International Cooperation Agency (JICA) /

The Energy and Resources Institute (TERI) / Yokohama National University / Global Cooperation Institute for Sustainable Cities, Yokohama City University /

Graduate School of Media and Governance, Keio University/Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)/

Sustainability Science Consortium / ICLEI Japan Office, ICLEI-Local Governments for Sustainability

主 催 公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

協力 国連環境計画(UNEP)、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、アジア開発銀行(ADB)、

経済協力開発機構(OECD)、国立環境研究所(NIES)

後 援 環境省、神奈川県、兵庫県、横浜市、川崎市、北九州市、国際協力機構(JICA)、エネルギー資源研究所 (TERI)、横浜国立大学、横浜市立大学グローバル都市協力研究センター、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科、 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム、イクレイ日本

目 次 Contents

開催にあたり Welcome to ISAP2015	
スケジュール Schedule	1
セッションアウトライン Session Outlines	
日本語版 Japanese	3
英語版 English	8
スピーカー略歴 Speaker Profiles	13
協力団体一覧 Partners / 展示団体一覧 Exhibitions	60

開催にあたり Welcome to ISAP2015

現在アジア太平洋地域では、経済発展著しい国々からの温室効果ガス排出量が増加する一方、地域全体がその影 響を大きく受けており、緩和策や適応策の強化に加え、持続可能な発展への道を拓いていくことが求められています。

また、国際社会においては、今年末の合意・策定に向けて、2020年以降の気候変動枠組み、そして2016年~ 2030年までのポスト2015年開発アジェンダにおける新たなグローバル開発目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」に 関する国際交渉が本格化しています。

ISAP2015では、気候変動問題とSDGsを持続可能な社会の構築に向けた包括的な目標としてとらえ、多様なパート ナー・関係者がどのように協力・連携していくべきなのか、専門家や企業、政府、自治体、国際機関、NGO関係者 とともに議論を深めていきます。

Asia and the Pacific have seen increased GHG emissions in recent years, with the impact being felt across the region. We must take action to mitigate these emissions and cope with the adverse effects of climate change, as well as securing a path to sustainable development for society as a whole.

This year, the global community expects to reach two major milestones for climate change and sustainable development - future climate regime and sustainable development goals (SDGs) until 2030.

ISAP2015 will invite leaders, experts and representatives for up-to-date discussions on how to forge multistakeholder partnerships which go beyond levels and sectors to meet the climate change targets and SDGs as one overarching goal. Partnerships can bring about innovative and practical solutions that enhance lifestyle changes as we move towards sustainable society.

スケジュール Schedule

※2つのテーマにてセッションを開催します SDGs 気候変動

[1日目]7月28日(火)						
9:30-9:55	オープニングセッション					
10:00-10:20	基調講演					
10:25-11:40	全体会合1 2030年までにすべての人により良い世界を: 2015年以降の開発目標に関する展望と見解 SDGS P-1					
11:40-11:50	休憩					
11:50-13:05	全体会合2 COP21でのより意欲的な合意に向けて:気候変動対策を促すダイナミックサイクルの構築 気候変動 P-2					
	休憩		ランチセッション			
13:05-14:25		13:15-14:15	COP21 に向けたアジアにおける低炭素技術協力:可能性と課題			
			気候変動 L-1			
14:25-15:40	全体会合3 新段階に入った気候政策に向けた日本・中国・韓国の役割 気候変動 P-3					
15:40-15:55	休憩					
	パラレルセッション					
15:55-17:25	アジア諸国はどのように SDGs を実施 するのか:各国の準備状況 気候変動の科学と国際協力: 温室効果ガスインベントリの役割と課題 神奈川からエネルギーを考える					
	SDGs PL-	-1	気候変動 PL-2 気候変動 PL-3			

[2日目]] 7月29日 (水)					
9:30-10:45	全体会合4 気候変動と持続可能な開発目標 (SDGs) をいかに結びつけるのか SDGs 気候変動 P-4					
10:45-11:00						
	パラレルセッション					
11:00-12:30	低炭素経済への移行のための 政策調和: OECD による提言と 日本を含めたアジア太平洋への含意	: OECD による提言と パートナー		アジアの廃棄物処理: 現場のニーズを踏まえた技術移転		
	気候変動 PL-4		気候変動 PL-5		SDGs PL-6	
	休憩		7	ランチセッション		
12:30-14:00		12:45-13:45	アジアにおける大気科学と 政策のインターフェイス強化	3	IGES白書V発表: いかにアジアの地域統合を人々 と環境への便益につなげるか	
			気候変動	L-2	L-3	
	パラレルセッション					
14:00-15:30	アジアの自治体によるレジリエント都市 構築に向けた取り組み SDGS PL-7	測定・報告・検証 (MRV) を通じた 緩和活動の促進 気候変動 PL-8		金融包摂と気候変動適応、 SDGsへの示唆 SDGs PL-9		
15:30-15:45	大憩					
.5.50 15.45	パラレルセッション					
15:45-17:15	気候変動の国際枠組みにおける都市の 役割: COP21後を見据えて 気候変動 PL-10	SATOYAMA	Aと持続可能な開発: 金支援と知識形成をつなぐ SDGs PL-11	持続	ア太平洋地域にふさわしい 可能な消費と生産への移行: 課題と機会 SDGs PL-12	
17:15-17:25	休憩					
17:25-18:00	閉会セッション					

▶ プレゼンテーション

7/28 13:05-14:25 沿岸海洋環境を理解する: 既存アプローチの到達点と課題 7/29 12:30-14:00 自然科学、社会科学、そして住民主体型管理の統合に向けて

(発表団体: LEAD-Japan API: Asia Pacific Initiative)

► ビデオセッション (ランチ休憩時)

7/28 IGESの森林ガバナンスに関するe-ラーニングシリーズの上映 7/29 森林のガバナンス、保全及び多様性に関するビデオの上映 *Sessions are under two themes over two days. SDGs Climate Change

[DAY 1] Tuesday, 28 July					
9:30-9:55	Opening Session			OP		
10:00-10:20	Keynote Speech					
10:25-11:40	Plenary Session 1 Achieving a Better World for All by 2030: Prospects and Perspectives on the Post-2015 Development Agenda SDGs P-1					
11:40-11:50	Break					
11:50-13:05	Plenary Session 2 New Climate Regime at COP21: Creating a Dynamic Cycle for Ratcheting up Climate Actions Climate Change P-2					
			Lunch Session			
13:05-14:25	Lunch Break	13:15-14:15 Low Carbon Technology Cooperation in Asia toward COP 2 Possibilities and Challenges				
				Climate Change L-1		
14:25-15:40	Plenary Session 3 Dialogue amongst Japan, China and Korea: Japan, China, Korea's Roles for Climate Policy — Partnership for a New Age					
15:40-15:55	Break					
	Parallel Session					
15:55-17:25	Implementing the Sustainable Development Goals (SDGs) in Asia: A Discussion on National Readiness	Cooperation Role and C	d International on on Climate Change: hallenges of National e Gas Inventories	Energy Revolution from Kanagawa		
	SDGs PL-1		Climate Change PL-2	Climate Change PL-3		

[DAY 2] Wednesday, 29 July						
9:30-10:45	Plenary Session 4 Bridging Climate Change and the SDGs SDGs Climate Change				SDGs Climate Change P-4	
10:45-11:00	Break					
	Parallel Session					
11:00-12:30	Aligning Policies for the Transition to a Low-carbon Economy: OECD Recommendations and Implications for Asia-Pacific Including Japan	Showcasing Successful Partnerships for Low Carbon Technology Transfer			Towards Holistic Waste Management in Asia Pacific	
	Climate Change PL-4		Climate Change PL-5		SDGs PL-6	
			L	unch :	Session	
12:30-14:00	Lunch Break	12:45-13:45	Strengthening the Interfact between Atmospheric Scienard Policy in Asia		The Launch of IGES White Paper V: How Regional Integration in Asia Can Benefit People and the Environment	
			Climate Change	L-2	L-3	
	Parallel Session					
14:00-15:30	Approaches by Asian Cities to Build Resilient Cities				Financial Inclusion, Climate Change Adaptation and SDGs	
	SDGs PL-7	Climate Change PL-8			SDGs PL-9	
15:30-15:45	Break					
	Parallel Session					
15:45-17:15	Role of Cities under International Framework beyond Paris COP21	"Satoyama" and Sustainable Development: Bridging Project Financing and Knowledge Generation		Facilitating Transition to SCP in Asia and the Pacific: Priorities and Opportunities		
	Climate Change PL-10		SDGs PL-11		SDGs PL-12	
17:15-17:25	Break					
17:25-18:00	Closing Session					

▶ Presentation

- 28 July 13:05-14:25 Understanding the coastal marine environment: What has been done so far and what should be done in future?
- **29 July** 12:30-14:00 Integrating natural, social science, and community-based governance

(LEAD-Japan API: Asia Pacific Initiative)

► Video Session (Lunch Time)

- 28 July: Video Premiere of IGES's Forest Governance e-Learning Series
- 29 July: Videos in Forest Governance, Conservation and Biodiversity

セッションアウトライン

1日目 7月28日(火)

10:25-11:40 全体会合 1

◆ 2030年までにすべての人により良い世界を: 2015年以降の開発目標に関する展望と見解

SDGs [P-1]

本年9月、世界のリーダーがニューヨークに集い、持続可能な開発目標 (SDGs) とポスト2015 開発アジェンダとして 知られる新しい国際開発目標を策定する。本セッションでは、この新しい目標や各国に対する重要性について解説し、 いかにして達成し得るかを議論する。 また、IGES SDGs プロジェクトによる新しい報告書 「SDGs の実現のために―目 標から実施へ」を紹介しつつ、国際的に重要な役割を担う国際機関の代表者や専門家を交えて日本を含むアジアに おけるSDGsの実施についての意見交換を行う。本セッションに引き続き、日本でSDGsの実施を促進していくため の主要なプラットフォームとして設立された 「持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) ジャパン」 の発足 式を行う。

11:50-13:05 全体会合2

COP21でのより意欲的な合意に向けて: 気候変動対策を促すダイナミックサイクルの構築

気候変動 [P-2]

本セッションでは、IGESが進める2015年合意に関する気候変動プロジェクトのキーメッセージを紹介・議論する。 まず、UNFCCCの第21回締約国会議 (COP21) 及びその2015年合意に向けた展望に始まり、1) 各国が自ら決定す る約束(貢献) に関して、2015年の第一回提出に続き、次回以降の検証及び提出の周期(サイクル) をどのように設 定すべきか、2) 2020年以降の気候変動枠組みにおける研究コミュニティの役割とは何か、等を紹介する。これらの キーメッセージを基に、より意欲的な2015年合意に向け、パネリストとの議論を行う。

ランチセッション

● COP21 に向けたアジアにおける低炭素技術協力:可能性と課題

気候変動 [L-1]

国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) とIGES 共催による本セッションでは、7月26日~27日に開催す る日、米、独、仏、英の低炭素技術分野の専門家による専門家会合の成果を報告すると共に、参加者と共に未来 の低炭素技術移転分野の可能性について議論を行う。低炭素技術普及策に関する課題や解決策、アジア途上国に おける低炭素技術普及に必要な枠組みやキーとなる専門機関、パリで行われるCOP21、そして未来に向けて必要な 取り組みなどを模索する。

14:25-15:40 全体会合3

●新段階に入った気候政策に向けた日本・中国・韓国の役割

気候変動 [P-3]

気候安定化のため、2050年温室効果ガス半減は自然の摂理から導かれる世界共通目標であり、 ときどきの国際政治 状況に左右されることなく現世代が着実に取り組むべき今世紀最大の挑戦といえる。こうした状況下で世界排出量の 30%を占める日中韓の役割は大きく、気候安定化のカギを握る。3か国はともに、低炭素社会づくりに真摯に取り組 んでおり、卓越した低炭素化技術と高効率の工業力、金融力をもって世界の経済を支えている。3か国が知識を共有し、 地域での協力による相乗効果を高めてゆけば、その蓄積をもってアジアをはじめ世界に大きく貢献することができる。 本セッションは、長期を見据えた識者による卓越したリードのもと、科学的気候政策を支援する各国中核研究機関に よる研究協力を進め、世界に発信する 「日中韓ハイレベル気候政策研究フォーラム (Japan-China-Korea Tripartite Climate Policy Research Forum)」の立ち上げを宣言するものである。

15:55-17:25 パラレルセッション

●アジア諸国はどのようにSDGsを実施するのか:各国の準備状況

SDGs [PL-1]

本パラレルセッションでは、各国がどのようにSDG実施のために適切な条件を醸成するかを議論するため、専門家 や政策立案者を招聘する。参加者は、非公式な立場で情報を提供しつつ議論をするというダボス・スタイルで開催 される。セッションは、二つの簡潔なフレーミングプレゼンテーションで開始される。専門家や政策立案者は、各国 がSDGs実施に備え何をする必要があるか独自の見解を示す。私たちはどのような短期的、実用的アクションを取る ことが可能か、また異なるタイプの国、非国家アクターが、どうSDGs実施に向けて各国が準備するのを支援できる かについてモデレーターの進行を交えオープンで重要な議論を展開する。

● 気候変動の科学と国際協力:温室効果ガスインベントリの役割と課題

気候変動 [PL-2]

本セッションは、2015年のCOP21で採択が予定されている、気候変動に関する2020年以降の枠組みに向けて、気 候変動対策に関する議論の促進を目的とする。特に、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第5次評価報告書 (AR5) の主要なメッセージを踏まえ、温室効果ガスインベントリの重要性やIPCC インベントリータスクフォースの 役割に関する理解を深める機会としたい。第1部は、専門家による次の3点に関する発表を行う。①IPCC AR5の主 要なメッセージ、②温室効果ガスインベントリの重要性とIPCCインベントリータスクフォースの役割、③気候変動枠 組条約 (UNFCCC) での交渉の中での温室効果ガスインベントリといった点。第2部では、低炭素で気候変動にレジ リエントな社会の構築に向け、効果的な気候変動政策をデザイン・実施するために、国レベルだけでなく、民間セ クターや地方自治体等の様々なレベルでの温室効果ガス排出の測定の重要性について、議論を行う。

○ 神奈川からエネルギーを考える

気候変動 [PL-3]

低炭素社会づくりには、自然災害に強い社会であることに加え、地方自治体のエネルギー政策や地域産業界による 自発的な活動がより重要である。地域の役割は、分散型や再生可能なエネルギーの観点からも大切であり、例とし てスマートグリッドが挙げられる。低炭素で強靭な地域のエネルギーシステムを構築するには、スマートグリッドは 要のインフラであり、その中では、電力自由化のもと、地域社会はエネルギー供給者にも消費者にもなり得る。 本セッ ションは東京工業大学の柏木教授による基調講演から始まる。それに続く神奈川県は意欲的にエネルギー革命の起 点になろうとしており、「かながわスマートエネルギー計画」とそれに伴う関連の活動を紹介する。その後地域産業界 から、Fuiisawa SSTマネジメント株式会社とほうとくエネルギー株式会社の2社が、市民協力のもと自発的にエネル ギーファンドを設立したといった自社活動の紹介を行う。IGESからは、海外のベストプラクティスの報告が行われ、 最後に柏木教授がセッションをまとめる。

2日目 7月29日(水)

9:30-10:45 全体会合4

● 気候変動と持続可能な開発目標 (SDGs) をいかに結びつけるのか

SDGs 気候変動 [P-4]

持続可能な開発目標(SDGs)における貧困の撲滅や万人の福祉の促進といった重要な目標は、加速を続ける気候 災害の中では実現不可能であるが、エネルギーといったいくつかのSDGsの主要分野で効果的な対策がなされれば、 壊滅的な気候変動を回避することにつながる。気候変動対策は、SDGsの達成につながり、逆もまたしかりである。 このように、この二つの議題には大きな相乗効果を生み出す可能性があり、その効果は適切な政策と技術的な選択 がなされれば、実現が可能である。本セッションでは、この二つの議題の相関性に焦点をあて、起こり得る相乗効 果やトレードオフについて意見交換を行い、それぞれの議題がこれまで別々に国際交渉を経てきた背景、また、こ れからの実施においていかに双方を結びつけていくべきであるかを議論する。

11:00-12:30 パラレルセッション

●低炭素経済への移行のための政策調和: OECDによる提言と日本を含めたアジア太平洋への含意

気候変動 [PL-4]

気候変動に関する国際交渉において、世界の平均気温の上昇を産業革命以前のレベルから摂氏2℃以内におさえる長期目標(2℃目標)について合意がなされているが、現時点では2℃目標を実現する経路に乗っておらず、気候変動対策を強化する必要がある。そのために、より強力な政策が必要であるだけではなく、低炭素政策とエネルギー政策、税や補助金といった財政・金融政策、あるいは貿易政策といった異なる政策間の不調和 (misalignment)を是正していくという新しい視点が必要である。本セッションでは、そのような取り組みとしてOECDが昨年より進めてきた「低炭素経済への移行のための政策調和」プロジェクトの主要メッセージを紹介するとともに、2℃目標達成に向けた低炭素政策という視点がメインストリーム化されていない我が国の現状と政策間調和の必要性について問題提起した上で、我が国及びアジア太平洋地域における政策間不調和の具体例や政策調和の可能性について、ADBなどの知見も踏まえて議論を深める。

● 低炭素技術移転を可能とするパートナーシップの成功の秘訣

気候変動 [PL-5]

本セッションでは、途上国に向けた低炭素技術移転プロジェクトの実施に際して、これまでのパートナーシップ成功例を基に、多国間、地域間、二国間という関係、そしてその中での公的民間部門の連携に関しどういったパートナーシップの機会があるのかについて、関係者間の議論を通じて特定することを目的としている。パネリストには、緑の気候基金(GCF)、アジア開発銀行(ADB)、国際協力機構(JICA)、二国間クレジット制度(JCM)ホスト国事務局、民間企業、大学・研究機関の関係者を迎え、パネルセッションを通じて具体的なパートナーシップのあり方を特定する。

●アジアの廃棄物処理:現場のニーズを踏まえた技術移転

SDGs [PL-6]

国連環境計画(UNEP)国際環境技術センターは、環境上適正な技術の途上国への普及促進のため、1992年に設立された。現在、あらゆる形態の廃棄物を対象とする「ホーリスティックな廃棄物管理」を中心に活動している。大阪にあるこの国際機関を最大限活用し、日本の技術を生かした環境問題の解決に寄与するため、2014年12月、UNEPとIGESは、環境省の専門家委員会の提言を受けて、「IGES・UNEP環境技術連携センター」の設立に合意した。本セッションは、同センターの設立を記念し、廃棄物管理におけるUNEPの活動を紹介するとともに、アジア太平洋諸国における廃棄物処理技術のニーズを展望し、これらのニーズに応えるための方策について議論する。

12:45-13:45 ランチセッション

●アジアにおける大気科学と政策のインターフェイス強化

気候変動 [L-2

アジア地域は、大気汚染対策強化によって年間数百万という人々の健康を改善し、同時に気候変動対策を促進した ことが多くの研究で示唆されている。しかし、大気科学と政策のギャップはこういった成果の把握を困難にしている。 本セッションでは、アジアにおける大気科学と政策のインターフェイス強化について専門家の見解を示し、ディスカッションを行う。

● IGES 白書 V 発表:いかにアジアの地域統合を人々と環境への便益につなげるか

[L-3

IGES白書V「Greening Integration in Asia: How Regional Integration Can Benefit People and the Environment」では、アジア太平洋地域の地域統合に向けた動きがどのようにグリーン経済と持続可能な開発の牽引力となり得るかについて、アジア太平洋地域の地域協力・統合に関するIGESの研究成果に基づき論じている。貿易と投資の自由化を通じた経済統合に焦点を置いた現在の地域統合プロセスに対し、本白書では「どのような地域統合のあり方が短期的・国益のみならず持続可能性の観点から利益をもたらすか」議論を促している。本セッションでは、アジアのグリーンな統合をどう実現していくのか、白書の著者からの主要メッセージを共有すると同時に議論を深めたい。

14:00-15:30 パラレルセッション

●アジアの自治体によるレジリエント都市構築に向けた取り組み

SDGs [PL-7]

近年、異常気象や気候変動による災害が各地で頻発・激甚化し、都市部における住民や資産の保護に関する脆弱 性を抱えるアジアの都市では、これらの予測を超えた規模の衝撃やストレスに耐え、速やかに回復するためのレジ リエント (強靭な) 都市構築への関心が高まっている。 本セッションでは、これらの外的ストレスに対しアジアの4都 市 (フィリピン・セブ市、タイ・ノンタブリ市、ベトナム・ホーチミン市、中国・上海市) が具体的にどのような対策 を立てているかを概観し、これらの都市が何を目的にどのような分野に注力し、どのような費用対効果の高い実践 的な取り組みを実施し、どのような技術がこれらの災害リスク軽減向上に有効であり、かつ、それを外部及び内部か らどのように効果的に支援可能か、について議論する。また、災害リスク軽減とレジリエント都市の概念をどのよう に都市計画・政策に織り込むことができるかを検討する。

● 測定・報告・検証 (MRV) を通じた緩和活動の促進

気候変動 [PL-8]

アジア地域における国・都市は気候変動に脆弱なため、中央及び地方政府政策担当者は持続可能な都市づくりの ために気候変動による影響へ対応するための解決策を模索している。また、都市化及び人口増加により、商業及び 産業セクターにおけるエネルギー需要は増加している状況にある。 本セッションでは、インドネシアで実施されてい る測定・報告・検証 (MRV) のための方法論開発に関する実地研究を参考にしながら、インドネシアにおける国レ ベル又は地域レベルでの緩和政策や行動の現状、今後の課題について状況の報告を行う。また、パネルセッション では、ボゴール市を対象事例として、科学に基づく政策支援のあり方や、都市レベルにおける産官学の連携を通じ た温室効果ガス排出量やエネルギー消費量削減のための戦略について検討する。

◆ 金融包摂と気候変動適応、SDGsへの示唆

SDGs [PL-9]

金融包摂とは、日常的に公的な金融サービスへのアクセスを有せずにいる低所得層の人々の為に、負担可能な価格 で融資を含めた様々な金融サービスを提供するという概念である。開発と気候変動に係る金融包摂の重要性につい ては、G20で「国内貯蓄の増大、世帯、国内及び財政部門のレジリエンスの強化、さらにビジネスや起業活動の活 性を助長する」と示されている。しかしながら、世界では約2.5億人または生産年齢人口の約半数が金融システムか ら排除されている状態である。本セッションでは、低所得世帯への金融サービス提供に関する課題について議論し、 気候変動適応とSDGsに対する金融の重要性及び如何にマイクロファイナンス機関が気候変動への適応を援助してい るかについて発表を行う。また、バングラデシュにあるInstitute of MicrofinanceとIGESによる共同研究の主な成果 に焦点をあて、適応と震災リスク削減におけるリスク保険の研究に関する情報共有を行う。 また、CGAP(Consultative Group to Assist the Poor: 貧困層支援協議グループ) が推進している金融包摂の活動について解説する。

15:45-17:15 パラレルセッション

● 気候変動の国際枠組みにおける都市の役割:COP21後を見据えて

気候変動 [PL-10]

現在、71%のエネルギー由来のCO,は都市で排出され、2050年には世界の人口の3分の2が都市部に住むと言われ ており、都市は低炭素及び気候に強靭な成長イニシアティブにおいて重要なアクターとなりつつある。 本セッション では、アジアの都市における気候変動の影響の科学的理解を基礎に、国際枠組みで都市や自治体がステークホルダー として認知されるようになった背景を共有する。また、都市間連携の促進や、都市による気候変動戦略の具現化に ついての報告を通じて、都市や自治体の役割を整理する。気候変動対策を通じた都市の経済成長や競争力の向上 の可能性についても議論し、都市が変革行動の主体としてイニチアチブを発揮するための条件を検討する。

● SATOYAMAと持続可能な開発:現場への資金支援と知識形成をつなぐ

SDGs [PL-11]

持続可能な開発目標(SDGs)が合意され、この達成に向けて国際社会が動き出す本年、自然環境の保全及び人々の生計向上については、これまでのアプローチのみでは十分ではなく、革新的なメカニズムが求められている。このひとつの重要な焦点となるのが、生物多様性と人々による生産活動がモザイク状に共存する、いわゆる社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(里山・里海)である。里山・里海はこれまで生物多様性や生産活動の持続のために重要な役割を果たしてきたが、今現在、多くの里山・里海が危機にさらされている。本セッションでは、SDGs実施及び関連する国際的な取り組みにおける里山・里海の重要性、ならびに里山保全支援メカニズム(SDM)や地球環境ファシリティ(GEF)による里山に関する新たな事業をはじめとする資源動員メカニズムに焦点を当てる。また、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム(IPBES)などへの知識形成による貢献も視野に入れ、現場への資金支援と知識形成をつなぐ効果的なデザインのあり方を探る。

●アジア太平洋地域にふさわしい持続可能な消費と生産への移行:優先課題と機会 SDGS [PL-12]

アジアの都市化と経済発展に伴い、資源効率型の発展、持続可能な消費と生産(SCP)が重要となってきている。 SDGs でも SCP は重要な目標として国際的に位置づけられており、欧州では SCP 政策研究が先行している。こうした中で、多様な経済を擁するアジアでは、持続可能性の目指すべきビジョンについて、より具体的なイメージの提供をすることが期待されており、その実現方策に関する研究が望まれる。本セッションでは、SCP 政策研究の課題及びアジアでの SCP 定着に向けた研究の方向性について議論する。

プレゼンテーション

7/28 13:05-14:25 ● 沿岸海洋環境を理解する: 既存アプローチの到達点と課題 7/29 12:30-14:00 ● 自然科学、社会科学、そして住民主体型管理の統合に向けて

(発表団体: LEAD-Japan API: Asia Pacific Initiative)

ビデオセッション (ランチ休憩時)

7/28 ● IGES の森林ガバナンスに関する e-ラーニングシリーズの上映 7/29 ● 森林のガバナンス、保全及び多様性に関するビデオの上映

IGESは、自然資源・生態系サービス領域が行った研究事業をもとに、森林ガバナンス基準に関する e-ラーニングシリーズを制作した。本研究事業は、ネパール森林部門のガバナンス基準の質向上を目的とし、グリフィス大学及びサザン・クイーンズランド大学(共にオーストラリア)と協力して行われたものである。研究から導かれたガバナンス基準はネパール政府によって公式採択され、本研究事業を成功裏に終えたIGESは、次の目標として、他国がそれぞれの国で各々のガバナンス基準を開発できるよう、得た知見や実践的なアプローチを共有したいと考えている。

Session Outlines

DAY 1: Tuesday, 28 July

10:25-11:40

Plenary Session 1

Achieving a Better World for All by 2030: Prospects and Perspectives on the Post-2015 Development Agenda

In September this year, world leaders will gather in New York to agree on a new development plan, incorporating the Sustainable Development Goals (SDGs) and the Post 2015 Development Agenda. This session introduces the new plan, explains its importance for all countries, including Japan, and discusses how countries can practically implement it. The session introduces messages from IGES new Flagship report "Governing the SDGs: From Aspiration to Action." A number of high level speakers from the international development community will reflect on the implications of the SDGs, focusing on how to implement the new goals across Asia. The session will be followed by the launch ceremony for the Japan chapter of the global Sustainable Development Solutions Network (SDSN), which is expected to become a key platform for regular discussions on SDGs implementation in Japan.

11:50-13:05

Plenary Session 2

○ New Climate Regime at COP21: Creating a Dynamic Cycle for Ratcheting up Climate Actions

This session will deliver key messages from the Climate Flagship Project on the 2015 Agreement. The session starts with prospects for the 21st session of the COP of the UNFCCC and its 2015 Agreement, followed by a presentation on the Flagship key messages, looking at how to create a cycle for reviewing and submitting subsequent nationally determined contributions after the initial submission in 2015 and what role the research community can play in the post-2020 climate regime. Based on the key messages, panelists will discuss a way towards an ambitious agreement at COP21.

13:15-14:15 Lunch Session

Low Carbon Technology Cooperation in Asia toward COP 21: **Possibilities and Challenges**

Climate Change [1-1]

This lunchtime session gives an overview of the Expert Meeting held on 26-27 July in Yokohama to discuss Low Carbon Technology Cooperation. It convenes experts from the US and Europe to discuss the challenges and possible solutions to promoting low-carbon technology. This is complemented with presentations on the Japanese perspective and followed by wide-ranging discussions on areas, organizations and mechanisms by which to enhance cooperation on promoting low-carbon technology to developing countries (with a focus on Asia). The ISAP lunchtime session provides an opportunity to present these findings to attendees from around the Asia-Pacific region and have a further discussion in order to solicit their inputs for consideration as the project develops towards COP-21 and beyond.

14:25-15:40

Plenary Session 3

Dialogue amongst Japan, China and Korea: Japan, China, Korea's Roles for Climate Policy — Partnership for a New Age

For climate stabilisation, our common target is to halve GHG emissions reduction in 2050. Indeed, this is the biggest challenge for the 21st century and one which the current generation should tackle steadily, independent from international political situations. Under such circumstances, Japan, China and Korea have substantial roles and hold the key to stablise climate, as the emissions from these three countries account for approx. 30% of global emissions. Currently, our three countries are very active in working towards forming a low-carbon society. We have prominent low-carbon technologies, high-efficient industries and robust finance, all helping to prop up the world economy. If our three countries make further advances in knowledge-sharing and increase synergies by promoting regional research cooperation, we can make a huge contribution not only to Asia, but also to the world, based on our accumulated knowledge. This session will declare the launch of the "Tripartite Climate Policy Research Forum" for Japan, China and Korea, led by key figures of the three countries who have long-term and broad perspectives, promoting joint research on science-based climate policies by core institutions in each country.

15:55-17:25

Parallel Session

Implementing the Sustainable Development Goals (SDGs) in Asia: A Discussion on National Readiness

SDGs [PI-1]

This parallel session brings together experts and policymakers to discuss how countries can institute the right conditions for SDG implementation. It will be organized in Davos Style as informal but informative discussion among participants. The session will start with two short framing presentations. The panel of experts and policy makers will then offer their views on what countries will need to do to get ready to take action on the SDGs. We can expect a facilitated but open and critical discussion on what practical actions can be taken in the short run, and how different types of state and non-state actors can assist readying countries to take action on the SDGs.

Science and International Cooperation on Climate Change: **Role and Challenges of National Greenhouse Gas Inventories**

This session aims to promote discussions on climate actions towards the post-2020 climate regime to be adopted at COP21. Bearing in mind key messages from the Inter-governmental Panel on Climate Change (IPCC) Fifth Assessment Report (AR5), the session will provide an opportunity to deepen the understanding of national greenhouse gas inventories and the role of IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories (TFI). The first part of the session will present 1) key messages from the IPCC AR5, 2) the importance of national greenhouse gas inventories and the role of IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories (TFI), 3) national greenhouse gas inventories in the context of UNFCCC negotiations. The second part discusses the importance of estimating GHG emissions not only at the national level but also at private and municipal levels etc. to design and implement successful climate change policies towards low-carbon and climate resilient societies.

Energy Revolution from Kanagawa

Climate Change [PL-3]

Energy policy of local governments and voluntary activities by local enterprises are set to play more important roles to achieve low-carbon societies. They also help develop communities that are resilient to natural disasters, in terms of deployment of de-centralised and/or renewable energy. Smart grid is the key infrastructure to achieve a low-carbon and resilient local energy system, and local communities can and should become energy-providers and end-users of the smart grid, taking into account the deregulation of electricity. Professor Kashiwagi, Tokyo Institute of Technology, will provide a key-note speech. Kanagawa Prefecture will present "Kanagawa Smart Energy Plan" and related advanced activities. Its ambitious intention is to start an energy revolution from Kanagawa. Two local enterprises will showcase activities including a voluntary energy fund in cooperation with local citizens. IGES will report on international best practices and finally Prof. Kashiwagi will summarise the session.

DAY 2: Wednesday, 29 July

9:30-10:45

Plenary Session 4

Bridging Climate Change and the SDGs

SDGs Climate Change [P-4]

Eradicating poverty and achieving well-being for all are key objectives of the Sustainable Development Goals (SDGs), but these will not be possible in a world of escalating climate-related disasters. Similarly, avoiding catastrophic climate change hinges upon effective action in several SDGs areas, including energy. Effective climate action can work as an essential means of implementation for the SDGs, and vice versa. This means that there are strong potential synergies between these two agendas. However, realising these changes depends on choices made regarding government policies and technological systems. This session will shed light on the complex relationship between Climate Change and SDGs. It will explain where major potential synergies and/or trade-offs exist, and discuss how to expand such synergies and avoid trade-offs. The session will also illustrate how the international negotiation processes on climate change and the SDGs have progressed separately and how they envisage convergence in on-the-ground implementation.

11:00-12:30 Parallel Session

Aligning Policies for the Transition to a Low-carbon Economy: OECD Recommendations and Implications for Asia-Pacific Including Japan

Parties to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) have agreed to work towards limiting the increase in global average temperature to 2°C above pre-industrial times, but the current emission path is not consistent with this 2°C target. Achieving the 2°C target requires not only stronger low carbon policies but also addressing various misalignment between policies, (e.g. between low-carbon policies and energy policies, fiscal and financial policies such as taxes and subsidies, and trade policies). This session introduces key messages of OECD's "Aligning policies for the transition to a low carbon economy" project, which is an effort to achieve the 2°C target, and also points out the necessity of policy alignment in Japan where the view of low carbon policies to achieve the 2°C target has not been mainstreamed. Following these presentations, implications of these messages to Asia-Pacific including Japan will be

Showcasing Successful Partnerships for **Low Carbon Technology Transfer**

Climate Change [PL-5]

This session aims to identify partnership opportunities for low-carbon technology transfer to developing countries through the successful collaboration between the public and private sectors. This will enable technology transfer at various levels – multilateral, regional, and bilateral – that has been supported by the transfer of low-carbon technologies on the ground. Panelists include the Green Climate Fund (GCF), the Asian Development Bank (ADB), Japan International Cooperation Agency (JICA), the secretariat of the Joint Crediting Mechanism (JCM) in Partner countries, private sector, and university/research institutions.

Towards Holistic Waste Management in Asia Pacific

SDGs [PL-6]

The UNEP International Environmental Technology Centre was established in 1992 to promote the application of environmentally sound technologies (ESTs) in developing countries. It now focuses on "holistic waste management", addressing all forms of waste including solid, liquid and gaseous forms. In order to maximise the value of this international organisation situated in Osaka, Japan, and to enhance the contribution to environmental challenges using Japanese technologies, UNEP and IGES agreed in December 2014 to establish a collaborating centre (IGES Centre Collaborating with UNEP on Environmental Technologies, CCET), following a recommendation from an expert committee of the Ministry of the Environment. This session celebrates the inauguration of CCET, introduces the activities of UNEP in the field of waste management, gives an overview of the needs for waste management technologies in Asian and Pacific countries, and discusses ways to respond to these needs.

12:45-13:45

Lunch Session

Strengthening the Interface between Atmospheric Science and Policy in Asia

A growing body of research suggests Asia could save millions of lives and protect the climate through stronger air pollution policies. The gap between atmospheric science and policy has nonetheless often frustrated efforts to capture these benefits. This session draws upon the views of researchers and practitioners to discuss how to strengthen the interface between atmospheric science and policy in Asia.

The Launch of IGES White Paper V: How Regional Integration in Asia Can Benefit People and the Environment

[L-3]

The Fifth IGES White Paper (WP V), entitled "Greening Integration in Asia: How Regional Integration Can Benefit People and the Environment", discusses how regional integration efforts in Asia and the Pacific could be a driver for green economy and sustainable development. The current regional integration processes in the region are focusing on economic integration through trade and investment liberalisation. WP V tries to invite an active discussion on what kind of regional integration amongst Asian nations would be beneficial, not only in the short term and from the narrow viewpoint of national interests, but from a wider sustainability perspective. The publication is based on the results of a number of IGES studies related with regional cooperation and integration in Asia and the Pacific. In this session selected chapter authors will share their key messages and discuss with the audience how greening integration in Asia can be realised.

14:00-15:30

Parallel Session

Approaches by Asian Cities to Build Resilient Cities

Building resilient cities to withstand and recover from unexpected shocks and stresses caused by natural disasters and climate change is a growing concern in Asia due to the increasing frequency and severity of such events, and the vulnerability of the people and assets in the region. This session introduces how city governments are responding to these challenges by drawing case studies from four cities – Cebu (the Philippines), Nonthaburi (Thailand), Ho Chi Minh City (Viet Nam) and Shanghai (China) - and discusses what the cities' main objectives and focuses are, what cost-effective and practical approaches are adopted, what kind of technical input can enhance the disaster risk reduction capacity and how it can be effectively supplied externally and internally, and how disaster risk reduction and resilient city concepts can be integrated into city development plans and policies.

Promoting Mitigation Actions through Measuring, Reporting and Verification (MRV) System

Climate Change [PL-8]

Since many countries and cities in Asia are vulnerable to the impacts of climate change, national and local governments need to address climate change issues for future sustainable cities. As urbanisation and population develop, energy demand in the building and industry sector will increase. This session aims at sharing the current status and the future challenges on mitigation policies and actions at national and local levels with special reference to the MRV research project in Indonesia. A panel discussion will address how to support mitigation policies on the basis of the science-based methodologies and tools in Bogor city, and will also focus on how to create strategies to reduce GHG emissions and energy consumption in cooperation with relevant organisations (national and local governments, the research community and the private sector).

Financial Inclusion, Climate Change Adaptation and SDGs

SDGs [PI-9]

Financial inclusion is the delivery of financial services at affordable costs to low-income people who would normally not have access to formal financial services. The importance of financial inclusion to development and climate change is recognised by the G20 as it "helps build domestic savings, bolster household, domestic and financial sector resilience, and stimulate business and entrepreneurial activity." However, about 2.5 billion people are currently excluded from the formal financial system. This session discusses challenges to bringing financial services to poor households. Presentations will elaborate on the importance of inclusive finance to climate change adaptation and the SDGs, and explain how microfinance institutions assist adaptation to climate change. The session will highlight results of collaborative research by the Institute of Microfinance (Bangladesh) and IGES, share information from an IGES project on risk insurance in adaptation and disaster risk reduction, and explain how CGAP is promoting financial inclusion in developing countries.

15:45-17:15

Parallel Session

Role of Cities under International Framework beyond Paris COP21

Today, 71% of energy-origin CO₂ is emitted from cities, and cities play a critical role as the implementing bodies of various low-carbon and climate resilient development initiatives. The objective of this session is to share common understanding on the conditions that enable cities to address climate change under international frameworks including promotion of city-to-city collaboration and how cities could enhance their competitiveness, and to accelerate the growth of urban economies while mitigating the risks brought about by climate change. The session first reviews the impact of climate change on cities focusing on situations in Asia, as well as how cities are voicing and gaining a stronger presence in recent international processes. The panel session will discuss why cities are important today under the international process and what the challenges and opportunities are, as well as looking at the enabling conditions to promote transformative actions for cities.

"Satoyama" and Sustainable Development: **Bridging Project Financing and Knowledge Generation**

SDGs [PL-11]

As SDG negotiations finish this year and the international community turns toward implementation, it is clear that conventional approaches to nature conservation and human livelihoods will not be sufficient to achieve the Goals. However, it remains to be seen what kinds of innovative mechanisms will be put in place for their achievement. One promising area is in so-called socio-ecological production landscapes and seascapes (SEPLS), where biodiversity

and human production activities coexist in a harmonious mosaic of habitats and land-uses. SEPLS have traditionally contributed to sustainability, but face serious threats in today's world. This session will highlight the importance of SEPLS in SDGs implementation and relevant international initiatives, as well as resource mobilization mechanisms including the Satoyama Development Mechanism (SDM) and a new Satoyama-related project with the Global Environment Facility (GEF). Participants will explore linkages between project financing and knowledge-generation mechanisms such as IPBES in supporting implementation of the SDGs in SEPLS and beyond.

○ Facilitating Transition to SCP in Asia and the Pacific: Priorities and Opportunities



To respond to the rapid urbanisation and economic development of Asia and the Pacific region, achieving resource-efficient developmental pattern and sustainable consumption and production (SCP) is becoming an important agenda for the region. SCP is currently being discussed as an important target of the sustainable development goals (SDGs). Whilst the EU takes the lead on SCP policy research, Asia and the Pacific has diverse economies, so visions for sustainability, such as SDGs, need to provide more concrete pathways for the region to follow. SCP policy research is expected to contribute to concrete policy formation and implementation to achieve such visions towards sustainability. This session will discuss opportunities and challenges for policy research aiming to contribute to establishing a SCP pattern in the Asia-Pacific region.

Presentation

28 July 13:05-14:25 • Understanding the coastal marine environment:
What has been done so far and what should be done in future?
29 July 12:30-14:00 • Integrating natural social science

29 July 12:30-14:00 ● Integrating natural, social science, and community-based governance

(LEAD-Japan API: Asia Pacific Initiative)

Video Session (Lunch Time) 28 July • Video Premiere of IGES's Forest Governance e-Learning Series 29 July • Videos in Forest Governance, Conservation and Biodiversity

IGES recently produced an e-Learning video series based on the work of our Natural Resources and Ecosystem Services area (with partners from Griffith University and the University of Southern Queensland) to develop a Quality-of-Governance Standard for the forest sector in Nepal. Following the successful completion of this work and the official adoption of this governance standard by the Government of Nepal, IGES now aims to share the lessons learned and the practical approach developed during this project so that others may also be able to develop a similar governance standard in their own country.

スピーカー略歴 Speaker Profiles

(アルファベット順 / in alphabetical order



Qazi Kholiquzzaman Ahmad カジ・コリクザマン・アマド

Chairman, Institute of Microfinance マイクロファイナンス研究所長

An economist and development thinker and practitioner, Qazi Kholiquzzaman Ahmad is currently Chairman of Governing Council and Rector (honorary) of Dhaka School of Economics (DScE), which is a constituent institution of the University of Dhaka and is devoted to post-graduate studies in economics and related subjects; and Chairman, Governing Body of Palli Karma-Sahayak Foundation (PKSF). He received MA (Economics) from the University of Dhaka and Ph.D (Economics) from the London School of Economics and Political Science (LSE), London University.

Dr. Q K Ahmad has held numerous prestigious positions in Bangladesh and internationally. He is Past President (2002-2010), Bangladesh Economic Association (BEA); Founder Chairman of the multidisciplinary research organization Bangladesh Unnayan Parishad (BUP); and a former Research Director at the Bangladesh Institute of Development Studies (BIDS). He has also been the Convener of the Drafting Committee for the Country Report of Bangladesh "Rio 20: National Report on Sustainable Development" for the Brazil United Nations Conference on Sustainable Development (June 2012). He has led food and crop assessment missions on behalf of the United Nations Food and Agriculture Organization (FAO) and World Food Programme (WFP) to many low-income food-deficit Asian and African countries to assess their emergency food and economic needs at times of crises caused by natural disasters and/or civil strife.

He was the Coordinator of Bangladesh Climate Change Negotiation Team, and was a Member of the UNFCCC Clean Development Mechanism (CDM) Executive Board. He has played a key role in preparing the Bangladesh Climate Change Strategy and Action Plan (BCCSAP) 2009. He was a Coordinating Lead Author of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC)-Third Assessment (completed in 2001) and Lead Author for IPCC Fourth Assessment (2004-2007). He also represents Bangladesh in the UN Open Working Group on Post-2015 Sustainable Development Goals.

Dr. Ahmad has to his credit a wide range of research works and publications (including authored/co-authored/edited/co-edited 35 books and over 200 articles/research reports and papers). The major awards he has received include the prestigious Bangladesh Economic Association (BEA) Gold Medal 2012 for his outstanding contribution to economy, education, research, and social development.

経済学、開発学を専門とし、ダッカ大学ダッカ・スクールオブエコノミクス統括評議会議長を務めている。ダッカ大学で修士課程を、ロンドン大学ロンドン・スクールオブエコノミクスで経済学博士号を修了。2002年から2010年まで Bangladesh Economic Association で代表、リサーチ機関 Bangladesh Unnayan Parishad の初代会長、またバングラデシュ開発研究所前リサーチディレクターを務めた経験を持つ。またリオ+20のバングラデシュ起草委員会委員長、さらに国連食糧農業機関と国連WEPの代表として food and crop assessment missionsの活動経験も持つ。また現在、ポスト2015年持続可能な開発目標のオープン・ワーキング・グループのバングラデシュ代表でもある。バングラデシュ気候変動交渉チームのコーディネターや気候変動に関する国連枠組条約クリーン開発メカニズム理事メンバーの一人でもあり、2009年のバングラデシュ気候変動戦略行動計画策定の際には重要な役割を担った。さらに、気候変動に関する政府間パネル第3次評価の統括執筆責任者と第4次評価の執筆責任者を務めた。経済、教育、研究そして社会開発に対する傑出した貢献から2012年にBangladesh Economic Association金賞を授与されている。



Hajime Akimoto 秋元 肇

Guest Scientist, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 客員研究員

Dr. Hajime Akimoto has been conducting modeling and field observation research on atmospheric chemistry, particularly on the formation of photochemical oxidants; long-range transport of ozone and other air pollutants; and

co-benefits from short-lived climate pollutants (SLCPs) in Asia. After working for the National Institute for Environmental Studies (NIES) in Tsukuba, the University of Tokyo, and the Frontier Research Center for Global Change in Yokohama, he worked at the Asia Center for Air Pollution Research (ACAP). After retiring from ACAP in March 2015, he is now working on heterogeneous reaction chemistry related to PM2.5 at NIES as guest scientist.

専門分野は大気化学で、特に光化学オキシダントの生成機構、オゾンやその他の大気汚染物質の長距離輸送、アジ アにおけるSLCPコベネフィット・アプローチなどを、数値モデル実験や野外観測をベースに研究。つくばの国立環 境研究所、東京大学、横浜の地球フロンティア研究センター、新潟のアジア大気汚染研究センターなどで研究を続 けた後、本年3月にアジア大気汚染研究センターを退職。現在国立環境研究所で客員研究員としてPM2.5に係わる 大気不均一反応化学の研究に従事している。



Arum Atmawikarta アルム・アトマウィカルタ

Executive Secretary, National MDGs Secretariat, Ministry of National Development Planning (BAPPENAS), Indonesia インドネシア政府 国家開発計画庁 ミレニアム開発目標 (MDGs) 事務局長

Arum Atmawikarta has a Doctorate degree from University of Indonesia and a Masters from the University of Michigan, USA in Public Health. He started his professional career at the Regional Office of Health Department, South Sulawesi in the Nutrition Section. During his years at the Regional Office of Health Department, he experienced various important posts such as the Head of the Nutrition Section, Head of Nutrition Improvement Section, Director of Nutritionist Assistant Schools and Director of Nutrition Academy. He served as the Director of Public Health and Community Nutrition at the Ministry of National Development Planning / National Development Planning Agency (BAPPENAS) between 2001 and 2011. He is the former Chairman of the Country Coordinating Mechanism for Global Fund; and the Chairman of the Professional Division for the Health Work Force Council of the Ministry of Health. He currently serves as the Executive Secretary of the National Millennium Development Goals (MDGs) Secretariat which is a joint collaboration between BAPPENAS and UNDP; is a member of the Supervisory Board of the Cicendo Hospital; and actively lectures at the Post-Graduate Public Health Faculties for UNPAD, UI, UGM, etc.

インドネシア大学にて博士号学位取得、米ミシガン大学において公衆衛生の修士号学位を取得。保健省入省 後、南スラウェシ地方事務局の栄養部にて従事。栄養部長、栄養向上部長を経てNutritionist Assistant Schools、 Nutrition Academyの学部長を務めるなど役職を歴任。インドネシア政府 国家開発計画庁 (BAPPENAS) 内にお いては2001年~2011年にかけ公衆衛生・公衆栄養学の管理者を務める。グローバルファンド国別調整メカニズム 前議長であるとともに保健省の医療従事者委員会の議長も歴任。現職としてはBAPPENASとUNDPとの共同による ミレニアム開発目標(MDG)事務局長、Cicendo病院監査、UNPAD、UI、UGMで講師を務める。



Magnus Bengtsson マグナス・ベングソン

Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGESプログラム・マネージメント・オフィス上席研究員

Magnus received his PhD in Environmental Systems Analysis in 2002 from Chalmers University of Technology in Sweden. In 2003 he moved to Japan to work as post doctoral research fellow at the University of Tokyo, studying water demand forecasting and management. Since joining IGES in 2007, he conducts and leads research on a wide range of topics, mainly focusing on policy approaches towards Sustainable Consumption and Production in Asia. Magnus is a member of the Steering Group of the Chemicals in Products project run by UNEP; he is also a member of the Subsidiary Expert Group of the Regional 3R Forum in Asia, and he was lead author for the Asia Pacific chapter of UNEP's 5th Global Environmental Outlook (GEO-5).

2002年スウェーデン・チャルマース工科大学にて環境システム分析の博士号取得。2003年に来日し、博士研究員として東京大学にて水需要予測と管理についての研究に従事。2007年よりIGES に勤務し、主にアジアにおける持続可能な消費と生産に向けた政策的アプローチに焦点を当て、広範囲の研究活動をリードしている。国連環境計画(UNEP)製品中の化学物質プロジェクトの主要メンバー、アジア太平洋3R推進フォーラムの専門家グループの一員でもある。また、UNEP「第5次地球環境概況(GEO5)」のアジア太平洋の章のリードオーサーである。



Rizaldi Boer リザルディ・ボアー Executive Director, Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific, Bogor Agricultural University ボゴール農科大学東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長

Prof. Rizaldi Boer is currently Executive Director of Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific of Bogor Agricultural University. He has been working on issues related to GHG mitigation strategies focusing on agriculture, forest and other land uses since 1998. Now, he is very active in conducting a number of studies related to policies toward low carbon development. Some of his recent works related to LCD are Low carbon development strategies of Bengkalis District-Riau Province that reduce pressure on peat-land ecosystems, Reducing agricultural expansion into forests: Analysis of implementation and financing gaps and supporting local governments in the development of local appropriate mitigation action (LAMA-Indonesia) in South Sumatra and Papua Province. He obtained his PhD degree in Agriculture from University of Sydney, Australia in 1994.

現在、ボゴール農科大学の東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長であり、特に農業、森林、土地利用に焦点を当てた温室効果ガス緩和戦略に関して1998年から取り組んできた。現在、泥炭地の生態系への負担を減らすリアウ州の低炭素発展戦略や、南スマトラ、パプア州における地域レベルの適切な緩和行動の発展のための地方政府援助など、低炭素発展に向けた政策に関する数多くの研究に注力している。オーストラリア・シドニー大学から農業博士号取得(1994年)。



Nida C. Cabrera ニダ・C・カブレラ City Councilor, Cebu City, Philippines フィリピン・セブ市市議会議員

Ms. Nida Cabrera chairs the Committee on Environment of the Cebu City Council, the legislative branch of the Cebu City Government. Focusing on laws to green the city, mitigate climate change and promote resilience of communities to disasters, she authored landmark ordinances such as the city's Septage Management Program; establishment of bike lanes; and guidelines on forced evacuation in Cebu City during disasters and emergencies. A social worker by profession with post graduate units earned in environmental management, she won prestigious national awards such as the Participatory Environment Management in 2009 and Special Recognition from the Office of the Philippine President in November 2014 for successfully promoting bike lanes in the city.

セブ市議会環境委員会議長。都市部の緑化、気候変動の緩和と災害に強い町づくりを目指し、下水処理対策、自転車専用道の設置、セブ市災害時避難ガイドライン等画期的な政策策定に尽力している。環境学において修士号を取得し、社会福祉士としても活躍している。2009年参加型環境管理部門においてフィリピン共和国政府より表彰、2014年11月には自転車専用道設置への貢献に対し、フィリピン大統領府より特別賞を受賞した。



Rae Kwon Chung チュン・ラエ・クウォン

Principal Advisor on Climate Change, Executive Office of the Secretary-General of the United Nations / Former Climate Change Ambassador of the Republic of Korea

国連事務総長室気候変動担当上級顧問/前韓国気候変動大使

Mr. Chung was a career diplomat of Korea specializing in global environmental negotiations attending major global conferences from Rio Earth Summit in 1992 to the Copenhagen Climate Conference (COP15) in 2009. He served as Director-General for International Economic Affairs and as Climate Change Ambassador at the level of deputy minister for Korea.

As Director of Environment and Development Division, UNESCAP, he has successfully managed the adoption of the Ministerial Declaration on Green Growth at the 5th MCED (Ministerial Conference of Environment and Development of Asia and the Pacific) held in Seoul, Korea in 2005.

As an input for Rio+20 Conference on Green Economy, in May 2012, he has prepared to launch an ESCAP Report titled "Low Carbon Green Growth Roadmap" as a blueprint for pursuing Green Economy necessary to cope with resource constraints and climate impacts already impacting many developing countries in Asia and the Pacific most.

韓国の経験豊かな外交官として、地球環境交渉に特化し、1992年リオ地球サミットから2009年コペンハーゲン気候 変動会議(COP15)まで、主要国際会議に出席した実績を持つ。また、韓国外交通商部国際経済局長及び気候変 動大使(副大臣級)としても活躍した。UNESCAP環境開発部長としては、2005年に韓国・ソウルで開催された第5 回アジア太平洋環境と開発に関する閣僚会議 (MCED5) において、グリーン成長に関する閣僚宣言採択取りまとめ に成功している。 さらには、2012年に開かれたグリーン経済に関するリオ + 20 に対して、ESCAP 報告書「低炭素グ リーン成長ロードマップ」を発表。資源制約や気候変動が、既にアジア太平洋の多くの発展途上国に影響を与えて いる中で、それらに対処すべきグリーン経済を追求するための青写真を提供している。



Thierry Dana ティエリー・ダナ Ambassador of France to Japan 駐日フランス大使

Born on August 23, 1956, Thierry Dana chooses the French Ministry of Foreign affairs after graduating from the ENA (National School of Administration). He had previously graduated from the Institute of Political studies after obtaining a Master in Law and a Master of Advanced Studies in political science. After a first posting in Alger (1984-1986) and at the Direction of North Africa and Middle-East (1987-1988), Thierry Dana was appointed to the Strategic affairs division, of which he became director in 1990 and where he was in charge of affairs related to the NATO reform, Germany's reunification and the Warsaw Pact dissolution. From 1993 to 1995, he was deputy diplomatic counselor to the Prime minister, then secretary general of the G7/G8 Summit (Lyon summit) in 1995. He was appointed Consul general of France to Hong Kong in 1996, where he stayed through the hand over. He then joined the President of the Republic's staff in 1998, in charge of Asian and strategic affairs. He was appointed Assistant Secretary for Asia and Oceania in 2002. In May 2005, Thierry Dana decided to temporarily leave the Ministry to create his own consulting firm, offering his expertise to French SME and large groups to help them expand their international activities, specializing in M&A operations for Asian investors in France. Following a Cabinet decree dated June 11, 2014, Thierry Dana is appointed Ambassador to Japan. Father of two kids, Thierry Dana is Knight of the National Order of Merit.

1956年8月23日生まれ。法学修士号取得、政治学専門研究課程修了、政治学院卒業、国立行政学院卒業後、フラ ンス外務省に入省。最初の赴任地は在アルジェリア・フランス大使館(1984~86年)。帰国後、フランス外務省北 アフリカ・中東局 (1987~88年)、同省戦略問題部に配属。1990年に同部長に就任し、北大西洋条約機構 (NATO) の変革、ドイツ再統一、ワルシャワ条約機構の解体などの重要案件を担当。1993年から1995年まで首相付外交顧 問補佐を、1995年に先進国首脳会議(リヨン・サミット)事務局長を歴任。1996年に駐香港フランス総領事に任命。 1998年にフランス大統領府官房に入り、アジア・戦略問題を担当。2002年にフランス外務省アジア・オセアニア

局長に任命。2005年5月に依願休職し、コンサルティング会社を設立。フランスの大企業や中小企業向けの国際展開戦略に関するサービス、外国の対仏投資家向けのサービスを提供し、これらの分野で特筆すべき業績を上げる。2014年6月11日の閣議で採択されたデクレにより、駐日フランス大使に任命。2児の父親。国家功労勲章シュヴァリエを受章。



Robert Dixon ロバート・ディクソン Leader of the Climate Change and Chemicals Team, Global Environment Facility (GEF) 地球環境ファシリティ (GEF) 気候変動と化学チームリーダー

Prior to joining the GEF Dixon addressed climate change and energy security issues at the White House National Security Council and Council on Environmental Quality. Robert is co-recipient, with other members of the United Nations Intergovernmental Panel on Climate Change, of the 2007 Nobel Peace Prize. He served as Head, Energy Technology Policy Division, International Energy Agency, Paris, France 2005-2007. Robert was U.S. Deputy Assistant Secretary for Energy 1999-2002 and has served in variety of senior domestic and diplomatic posts since joining the U.S. government in 1989. He is a chemist by training and has worked climate change issues for over 20 years. Prior to government service he was a Professor at several leading universities and distinguished himself as an entrepreneur and CEO in the private sector. In 2004 the U.S. President recognized Robert's service to the nation with a gold medal.

以前はホワイトハウス安全保障評議会及び環境基準評議会にて気候変動・エネルギー保障分野に従事。2007年には気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の一員としてノーベル平和賞を共同で受賞。国際エネルギー機関エネルギー技術政策部長 (2005年~2007年)、米国エネルギー担当副次官補 (1999年~2002年) などを歴任。20年以上にわたり気候変動関連問題に従事。2004年にはそれらの功績が認められ米大統領よりゴールドメダルを授与された。



Christopher Doll クリストファー・ドール Research Fellow, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 研究員

He has a broad range of research interests, initially focusing on using spatially explicit datasets to understand regional scale urbanization and development. More recently, he has complemented this with city level work on biodiversity and developing tools to plan for global/local co-benefits across urban sectors (transport, waste and energy). He teaches an elective course on geospatial techniques for environmental governance within the IAS MSc. programme.

都市開発とコベネフィットアプローチ、都市衛生、ゼロカーボンエネルギーシステムのシナリオ計画、再生可能エネルギーの生物多様性への影響などの研究に従事。以前はコロンビア大学、オーストリアの国際応用システム分析研究所(International Institute for Applied Systems Analysis)で研究を行った。ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジにて博士号を取得。



Mark Elder マーク・エルダー Senior Coordinator / Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGES プログラム・マネージメント・オフィス シニアコーディネーター/上席研究員

He has led various research projects on environmental and sustainability governance issues including: sustainable development goals, Rio+20 institutional framework for sustainable development, transboundary air pollution, regional

environmental cooperation in East Asia, economic integration, biofuels, and local governance. Before joining IGES in 2006, he was Assistant Professor of Political Economy and International Relations at Michigan State University. He received a Ph.D. in political science from the Department of Government, Harvard University.

2006年よりIGESにおいて持続可能な開発目標 (SDGs)、Rio+20の制度的枠組み、越境大気汚染、東アジアにおける地域環境協力、経済統合、バイオ燃料、地域ガバナンス等の環境・持続可能性ガバナンスに関する研究プロジェクトを主導。ハーバード大学行政学部で政治学の博士号取得後、ミシガン州立大学において政治経済・国際関係の助教を務めた。



Xinling Feng 馮 新玲 Researcher, Integrated Policies for Sustainable Societies Area, IGES IGES 持続可能な社会のための政策統合領域 研究員

Xinling Feng has been engaging in the research activity on environment and energy policy that including air pollution policy, and has been involved in Inter-city cooperation and capacity-building to improve air quality in Asia. Ph.D. of Environmental Policy Science from Waseda University Graduate School of Environment and Energy Engineering in Japan, 2013, and has worked for Waseda University Faculty of Science and Engineering for 3 years.

専門は環境政策科学やサステイナビリティ学(持続可能学)、環境共生型都市の形成促進政策。2013年早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科にて環境政策科学の博士号取得。2012年より同大学理工学術院助手として、中国における環境共生型都市形成に関する研究活動を行う。2015年よりIGESにて大気汚染政策をはじめとした環境・エネルギー政策の研究を行うと共に、アジア地域における大気質改善のための都市間連携及び能力開発事業に携わっている。



Minoru Fujii 藤井 実 Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

Dr. Minoru Fujii is a Senior Researcher of Center for Social and Environmental Systems Research, NIES, Japan. He is also a visiting associate professor of Nagoya University. He engaged in several research projects, for instance, works as a project reader of the Eco-city System Research Program. His research fields are planning and evaluation of an efficient recycling system of organic municipal wastes and low carbon energy system in an industrial city. He received a doctor of engineering degree from the University of Tokyo in 2001 and his major is chemical engineering. He holds several academic positions, for instance, the editor of the Institute of Life Cycle Assessment, Japan.

国立環境研究所社会環境システム研究センター主任研究員であり、名古屋大学客員准教授を併任する。また、国立環境研究所の環境都市システム研究プログラムにおいて、プロジェクトリーダーを務める。研究分野は廃棄物からのエネルギー回収の効率的システムや、低炭素なエネルギー需給システムの計画や評価である。2001年に東京大学より博士(工学)の学位を取得。専門は化学工学。現在、日本LCA学会編集委員、土木学会環境システム委員会編集委員などを務める。



Shintaro Fujii 藤井 進太郎
Deputy Director, Research and Information Office, Global Environment Bureau, Ministry of the Environment, Japan 環境省地球環境局研究調査室 室長補佐

Mr. Shintaro Fujii graduated from Kyoto University with a Master of Engineering and the London School of Economics and Political Science with a Master of Public Administration. He has been working on environmental administration since joining the Ministry of the Environment, Japan in 2004. He worked on international environmental cooperation, environmental impact assessment, water resource management, transboundary air pollution issues and decontamination of radioactive materials in Fukushima. He has served as his present post in charge of climate change impact assessment and adaptation planning since 2015.

京都大学大学院環境工学修士課程修了(工学修士)、英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)行政学修士課程修了(行政学修士)。2004年に環境庁に入省して以来、一貫して環境行政に携わる。これまで国際環境協力、環境アセスメント、水資源管理、越境大気汚染問題、国直轄除染などを担当。2015年から現職として気候変動影響評価や適応計画等を担当。



Hitoshi Fujimaki 藤巻 均
Director General, Industry and Labor Bureau, Kanagawa Prefectural Government 神奈川県産業労働局長

After starting employment at Kanagawa Prefectural Government in April 1981, Mr. Fujimaki has worked in the General Affairs Department, serving as Associate Director, Human Resources Section, and Director of the Administrative Reform Promotion Division. He has also worked in the Environment and Agriculture Bureau as Director of the Environmental Planning Division, Executive Director of the New Energy and Warming Measures Department, and Director General of the Energy Bureau, before taking up his current position in June 2015.

昭和56年4月神奈川県に採用後、総務部人事課長代理、総務部行政システム改革推進課長、環境農政部環境計画課長、環境農政局新エネルギー・温暖化対策部長、エネルギー担当局長を経て、平成27年6月より現職。



Junichi Fujino 藤野 純一 Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES)

国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

He joined NIES since 2000 and one of the main members to develop the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) to assess policy options for stabilizing global climate. He is lead author of IPCC Special Report on Renewable Energy Sources and Climate Change Mitigation (SRREN). Recently he is serving as a member of joint committee on Japanese INDC (Intended Nationally Determined Contributions) under MOEJ and METI, as well as an advisory committee member of "FutureCity" initiatives (Cabinet Office, Japan). He also joins litate village (where has suffered severe damage by nuclear accidents regarding the Great East Japan Earthquake, in Fukushima) revitalization planning committee since August 2011. He received his B.S/M.S/Ph.D. in Electrical Engineering from the University of Tokyo. He has joined UNFCCC/COP process as NGO since COP11 and nowadays visited many Asian countries/cities to make LCS happens. He is senior advisor to ICLEI Japan and senior fellow to IGES.

1972年5月生まれ。東京大学工学系研究科博士課程(電気工学)修了後、2000年4月より国立環境研究所。AIMプ ロジェクトメンバーとして日本・アジアの低炭素社会シナリオづくりに従事。中央環境審議会地球環境部会2020年以 降の地球温暖化対策検討小委員会委員(いわゆる約束草案を議論)、「環境未来都市」 構想有識者検討会委員、 福島 県飯舘村「いいたてまでいな復興計画推進委員会」委員、ICLEI日本顧問等。2015年6月よりIGESシニアフェロー(特 に持続可能な都市研究に従事)。主著書に「みんなの未来とエネルギー」(文溪堂)。愛犬・竹兵衛(通称:竹)を散 歩させながら家庭環境と地球環境の両立について日々考える。



Hiroshi Fujita 藤田 宏志 Deputy Director, Air Environment Division, Ministry of the Environment, Japan 環境省水·大気環境局大気環境課 課長補佐

Mr. Hiroshi Fujita graduated from Kyoto University and the University of Washington with a Master of Science. He has been working on environmental administration since joining the Ministry of the Environment, Japan in 2004. He worked on offensive odor control, planning on reducing greenhouse gas (GHG) emissions, compiling an Annual Report on the Sound Material-Cycle Society in Japan, and international cooperation in the water supply sector. Since 2013, he has been in charge of transboundary air pollution issues: international coordination at the Acid Deposition Monitoring Network in East Asia (EANET); international coordination of joint research programme on Dust and Sandstorms in Northeast Asia; and strategy formulation to manage air pollutants in East Asia.

京都大学大学院理学系研究科修士課程修了(理学修士)、米ワシントン大学公衆衛生大学院修士課程修了(理学修 士)。2004年に環境庁に入省して以来、一貫して環境行政に携わる。悪臭規制、京都議定書目標達成計画の改定、 循環型社会白書の執筆、水道分野の国際協力などを担当。2013年以来、越境大気汚染問題を担当。東アジア酸性 雨モニタリングネットワーク(EANET)や日中韓黄砂共同研究を通じた国際協調や東アジア大気汚染防止戦略の検討 に携わっている。



Tsuyoshi Fujita 藤田 壮 Director, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NÍES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター長

Prof. Tsuyoshi Fujita is a Director of Center for Social and Environmental Systems Research, NIES, Japan. He is also an alliance professor of Nagoya University as well as a visiting professor of United Nations University in Japan. His research fields are eco industrial development, low carbon city, urban environment simulation system, circular economy planning and spatial LCA, where he has published around seventy journal papers.

1983年東京大学都市工学科卒業、ペンシルバニア大学院都市計画修士、東京大学博士(工学)。大学卒業後、大成 建設での都市地域開発計画業務等を経て、1994年より大阪大学助手、助教授。東洋大学工学部教授、国立環境研 究所室長を経て現職。名古屋大学大学院環境学研究科連携大学院教授及び国連大学客員教授。専門は環境システ ム学、都市環境計画、環境技術評価、エコタウン、都市産業共生システム。



Dave Griggs デーブ・グリッグス Professor of Sustainable Development, Monash University and Warwick University モナッシュ大学/ウォーウイック大学教授

From 2007 to 2015 Dave was Director of the Monash Sustainability Institute (MSI) which aims to deliver solutions to key sustainability challenges. In November 2008 he also became CEO of the newly created ClimateWorks Australia (CWA), an independent research-based non-profit organisation committed to catalysing greenhouse gas emissions reductions. Previous positions he has held include UK Met Office Deputy Chief Scientist, Director of the Hadley Centre for Climate Change, and Head of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) scientific assessment unit.

Dave is a past vice-chair of the World Climate Research Programme and member of the Victorian Ministerial Reference Council on Climate Change Adaptation. He is a Fellow of the Australian Academy of Technological Sciences and Engineering. Dave was awarded the Vilho Vaisala award (World Meteorological Organization) in 1992 and a 2014 WME Leaders List Award which honours individuals who have provided extraordinary environment leadership.

2007年から2015年の間、持続可能な社会を構築するための課題と解決策を研究テーマとするモナッシュ持続可能性研究所(MSI)のディレクターに就任。2008年11月より温室効果ガスの排出削減に取り組む非営利組織、ClimateWorks Australia(CWA)の最高経営責任者(CEO)も兼務。英国気象庁の副チーフサイエンティスト、ハドレー気象予測研究センターのディレクター、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)科学的評価ユニット長等を歴任。世界気候研究計画の副議長も務めた経験があり、Victorian Ministerial Reference Council on Climate Change Adaptationのメンバーである。また、Australian Academy of Technological Sciences and Engineering(ATSE)のフェローであり、Australian Council of Environmental Deans and Directors、Climate Institute Strategic Councilのメンバーでもある。1992年にはVilho Vaisala賞(世界気象機関)を受賞、また2014年には環境ビジネス・マガジンWMEにおいて環境分野での突出したリーダーシップが評価されている。



Markus Hagemann マルクス・ヘイグマン Co-Founder, NewClimate Institute, Germany NewClimate 研究所共同創設者

He has been working in the field of international climate policies since 2007. An industrial engineer by training, Markus Hagemann has expertise on a broad spectrum of issues related to quantitative and qualitative analysis focusing on low carbon development and climate mitigation. In parallel to his work Markus is also pursuing a PHD at the University of Utrecht, focusing on technology transfer and innovation systems in emerging economies. Prior to co-founding NewClimate Institute, Markus worked as a consultant at Ecofys. At Ecofys Maekus worked on issues as broad as modelling of effort sharing approaches, evaluation of policy packages, energy system modelling, governance of NAMAs or monitoring approaches for climate funds.

国際気候政策分野に2007年より従事。低炭素開発や気候緩和に対する定量的・定性的分析の専門家。以前は、再生可能エネルギーやエネルギー関連のコンサルタントであるEcofysにてエフォート分担アプローチ、対策評価、エネルギーシステムモデリング、途上国における適切な緩和行動(NAMA)のガバナンス、気候ファンドのためのモニタリングアプローチ関連の問題に取り組んだ。



Hironori Hamanaka 浜中 裕徳 Chair of the Board of Directors, IGES IGES理事長

Professor Hironori Hamanaka is the chair of IGES Board of Directors. When he took up his current position at IGES, he was teaching at Keio University as a Professor, and previously served as the Vice-Minister for Global Environmental Affairs as well as other important positions at the Ministry of the Environment. While serving with the Government of Japan, he devoted his administrative career to intergovernmental negotiations in areas including: the Kyoto Protocol and its implementing rules; major agreements in the field of sustainable development, such as the Johannesburg Plan of Implementation agreed at the World Summit on Sustainable Development in 2002; and the development of national policies to implement international agreements, most notably the Kyoto Protocol. Based on his professional career, he served as a Co-chair of the Compliance Committee under the Kyoto Protocol and the Chair of its Facilitative Branch from 2006 to 2008. He gained a B.A. in Engineering from the University of Tokyo in 1967.

1967年東京大学工学部都市工学科卒業。1969年4月厚生省入省、1971年7月環境庁創設と共に同庁に出向。その後、外務省出向(経済協力開発機構日本政府代表部)等を経て、1995年7月同企画調整局地球環境部長、2001年1月環境省地球環境局長、同年7月同地球環境審議官。2004年7月環境省を退職、慶應義塾大学環境情報学部教授に就任。2015年3月同大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師を退任。2007年4月よりIGES理事長、現在に至る。35年以上にわたり、環境省において地球環境政策の分野で活躍。特に、京都議定書とその実施ルールに関する政府間の交渉、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議で同意されたヨハネスブルグ実施計画などの持続可能な開発分野の主要な合意、また、国際的な環境合意(特に京都議定書)を実施するための国家政策の作成に尽力。2006年から2008年まで京都議定書遵守委員会共同議長及び同委員会促進部議長。



Masayo Hasegawa 長谷川 雅世

Project General Manager, Environmental Affairs Division, Toyota Motor Corporation / Member of Engagement Committee of the Future Earth トヨタ自動車株式会社環境部担当部長/フューチャー・アース 関与委員

Masayo Hasegawa joined in Toyota Motor Corporation in 1999 and her current position is Project General Manager, Environmental Affairs Division. She serves as Member of Engagement Committee of the Future Earth as well as Acting Chair of WBCSD (World Business Council for Sustainable Development) Taskforce, Working Group on Global Environment Strategy, KEIDANREN (Japan Business Federation). On behalf of business and industry, she participated in the Japanese National Preparatory Committee for Rio+20. Previously she worked for the Sasakawa Peace Foundation as Program Officer in charge of Environment. Also she served as Program Director of LEAD (Leadership for Environment and Development) Japan Program at SFC Institute of Keio University. She holds BA in Sociology, Kwansei Gakuin University (Japan) and MA in International Relations, Fletcher School of Law and Diplomacy, Tufts University (USA).

1999年トヨタ自動車入社、環境部担当部長。フューチャー・アース関与委員ならびに経団連WBCSDタスクフォース 座長代理を務める。リオ+20に向けては、ビジネスと産業を代表して日本国内準備委員会に参画した。前職は、笹 川平和財団環境担当プログラム・オフォサー。また、慶応大学SFC研究所において、LEAD (環境と開発のためのリーダーシップ) ジャパン・プログラムのプログラム・ディレクターを務めた。関西学院大学社会学部卒、米国タフツ大学フレッチャー法律外交大学院国際関係論修士。



Takashi Hattori 服部 崇 Head, Environment and Climate Change Unit, International Energy Agency (IEA) 国際エネルギー機関 (IEA) 環境・気候変動ユニット長

Takashi Hattori is a Japanese national and has joined the International Energy Agency (IEA) in March, 2013 as Head of the Environment and Climate Change Unit which produced the IEA's new publication "Energy, Climate Change and Environment: 2014 Insights." He also contributed to other IEA publications including World Energy Outlook: 2015 Special Report on Energy and Climate Change, and Energy Technology Perspectives 2015. He graduated from the University of Tokyo, received a masters degree from the John F. Kennedy School of Government, Harvard University, and a doctoral degree from the Tokyo Institute of Technology. Before joining the IEA, Takashi was Director of Climate Change in the Japanese Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) which he first joined in 1991.

2013年3月からIEA環境・気候変動ユニット長としてエネルギーと気候変動に関する政策分析を統括。『エネルギー・気候変動・環境』(2014)を発行。『世界エネルギー展望:エネルギーと気候変動に関する特別報告書』(2015)、『エネルギー技術展望』(2015)に参画。東京大学教養学部卒。ハーバード大学ケネディスクール修士。東京工業大学博士(学術)。1991年、経済産業省(当時:通商産業省)入省。金融庁監督局調査室長、経済産業省地球温暖化対策交渉官など歴任。



Yasushi Hibi 日比 保史

Vice President for Asia Policy / Managing Director for Japan Program, Conservation International コンサベーション・インターナショナル・ジャパン 代表理事/コンサベーション・インターナショナル バイスプレジデント

Yasu joined Conservation International as the Managing Director for Japan in 2003, leading Cl's efforts to engage the Japanese government as well as the private sector in sustainable development with particular focus on climate change and global biodiversity conservation. In addition, Yasu has been appointed to Cl's Vice President for Asia Policy since 2010 to engage with regional multilateral institutions and governments. With a master's degree from Duke University on resource economics and policy, Yasu specializes in natural capital management, CSR strategies and ODA safeguard policies. Currently Vice Chair for IUCN Japan Committee, member of expert panel for CBD on GEF7 needs assessment, and Advisor to JICA on safeguards. Teaches part-time at Waseda University, Sophia University, and Gakushuin University.

野村総合研究所、国連開発計画(UNDP)を経て、2003年4月より、国際NGOコンサベーション・インターナショナル日本プログラム代表(2010年より現職)。生物多様性保全を通じた持続可能な社会づくりを目指し、国際機関、政府、企業等とのパートナーシップ構築に取り組む。自然資本管理、企業の環境CSR戦略、ODAの社会・環境配慮などを専門とする。生物多様性条約GEF7ニーズ評価専門家、環境省クリーン・アジア・イニシアティブ検討委員、JBIC環境審査役選定委員、JICA社会・環境配慮助言委員会委員などの他、上智大学、早稲田大学、学習院大学などで非常勤講師として次世代の環境リーダー育成にも取り組む。著作に「生態学からみた保護地域と多様性保全」、「CSR経営の中に生物多様性保全を組み込め!」「NGOから見た世界銀行」など。甲南大学理学部応用物理学科卒業、デューク大学環境大学院修了。



Taka Hiraishi 平石 尹彦

Co-chair, IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) インベントリータスクフォース共同議長

BA and Master of Engineering (Industrial Chemistry) from Tokyo University (1968). Ministry of Labour (Occupational Health and Safety Bureau). Via Headquarters for Pollution Control, joined the Environment Agency, newly established in 1971, and worked in areas of offensive odour, acid rain, stratospheric ozone, hazardous wastes and chemicals, and water pollution control. Embassy of Japan in Kenya (UNEP liaison and technical cooperation), Chemicals Division of the OECD, and for 1989 - 1998, UNEP Headquarters (last post: Assistant Executive Director, Environmental Assessment). Since 1999, Co-chair, IPCC GHG Inventories Programme and IGES Senior Consultant (Part-time).

東京大学工学部卒、1968年3月東京大学工業化学修士、労働省(労働安全衛生局)入省。内閣公害対策本部を経 て、1971年設置の環境庁へ。悪臭対策、酸性雨対策、オゾン層対策、有害廃棄物対策、有害化学物質対策、水質 汚濁対策など公害対策の諸分野で勤務。ケニア大使館(環境(UNEP)・技術協力担当)、OECD事務局環境局化学 品部勤務。環境庁水質保全局水質規制課長で退官。1989年から1998年まで国連環境計画(UNEP)事務局。環境 アセスメント・情報局長。1999年からIGES上級コンサルタント・理事 < 現在、参与 >。IPCC GHG インベントリー計 画共同議長。



Masahiko Hirao 平尾 雅彦

Professor, Department of Chemical System Engineering, School of Engineering, The University of Tokyo 東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻教授

Masahiko Hirao received his PhD in Chemical Engineering from The University of Tokyo. After working for a private company in researching computational physics, he joined Department of Chemical System Engineering, The University of Tokyo. His research interests cover environmentally conscious chemical process design and recycling systems design using life cycle assessment, and environmental education. He is also interested in connecting environmental information provided by manufacturers and eco-friendly actions by consumers as a MAC member of the Consumer Information Programme in the UNEP 10-Year Framework of Programmes on Sustainable Consumption and Production Patterns, and the chair of Green Purchasing Network (GPN), Japan.

東京大学工学系研究科化学工学専攻にて工学博士号を取得。民間企業研究所での計算物理研究業務を経て、東京 大学工学系研究科化学システム工学専攻所属。現在の専門は、LCAを活用した環境配慮化学プロセスシステム設計 やリサイクルシステム設計、及び環境教育。 UNEP 持続可能な消費と生産に関する 10 年枠組の消費者情報プログラ ムアドバイザリー委員、及びグリーン購入ネットワーク (GPN) 会長として、生産者が発信する製品やサービスの環 境情報と消費者の環境配慮行動を結び付けることに関心を置いている。



Kazuaki Hoshino RFF - RFF

Project Professor, Kagoshima University 鹿児島大学特任教授

Mr. Hoshino joined the Environment Agency (now Ministry of the Environment) of the Government of Japan in 1978. As a nature conservation specialist, he has worked in national park management, endangered species conservation, and conservation and sustainable use of biodiversity. He worked on global environmental issues as a member of the United Nations Bureau at the Ministry of Foreign Affairs and the Global Environment Bureau at the Ministry of the Environment,

and was responsible for negotiations for the drafting of the text of the Convention on Biological Diversity as Deputy Permanent Representative to UNEP for the Embassy of Japan in Kenya. After taking a position at Kagoshima Prefecture, he has continued working for the Ministry of the Environment as Wildlife Director, Biodiversity Policy Director and Advisor to the Minister, becoming Director General of the Nature Conservation Bureau in 2013. He was heavily involved in organizing CBD COP 10 in Nagoya as head of the Ministry of the Environment's Task Force, and after COP 10, he took on the chairmanship of the Convention's Bureau Meeting. He has been in his current position since April 2015.

1978年環境庁(現環境省)入庁。自然保護技官として国立公園管理、希少野生動植物保護、生物多様性保全などを担当。外務省国連局と環境省地球環境局で地球環境問題を担当したほか、在ケニア大使館で国連環境計画副常駐代表として生物多様性条約交渉などを担当。鹿児島県に自然保護担当課長として出向した後、環境省で野生生物課長、自然環境計画課長、大臣補佐官などを経て、2013年に自然環境局長に就任。生物多様性条約COP10環境省準備室長としてCOP10開催に関与し、その後大臣補佐官としてビューロー会合議長を務めた。2015年4月から現職。



Yasuhiko Hotta 堀田 康彦

Leader / Principal Policy Researcher, Sustainable Consumption and Production Area, IGES IGES 持続可能な消費と生産領域エリアリーダー/上席研究員

He holds Dphil in International Relations from University of Sussex in 2004. Before joining IGES in September 2005, he was a project assistant of UNU/Zero Emissions Research Initiative at United Nations University/Institute for Advanced Studies Contracted Researcher (Industrial Policy Area), Mitsubishi Research Institute, Inc. He has been involved in both policy initiatives and research projects in relation to sustainable resource circulation such as G8's 3R Initiative and Working Group for 3R Policies for Southeast and East Asia at Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA).

2004年にサセックス大学から博士号 (国際関係論)を取得。国連大学ゼロエミッション研究構想プロジェクト助手、 (株)三菱総合研究所嘱託研究員 (産業政策分野)などを経て、2005年9月からIGES 勤務。これまでに、G8の3Rイニシアティブや、ERIAの3R作業部会等、循環型社会構築に関連する政策イニシアティブや研究プロジェクトに関わってきている。



Qunfang Hu チュインファン・フ

Assistant Director, Professor, Shanghai Institute of Disaster Prevention and Relief, Tongji University 同済大学教授/上海防災救災研究所副所長

He has been Deputy Secretary-General of the Engineering Risk and Insurance Research Branch of China Civil Engineering Society (CCES) from 2009 and Deputy Secretary-General of the Tunnel and Underground Engineering Branch of CCES from 2007. He received his PhD in Civil Engineering in 2006 from Tongji University, China. He conducts and leads research on a wide range topics including risk and disaster (mainly focusing on underground engineering risk analysis and risk management); reliability engineering and structural uncertainty analysis; urban disaster simulation and integrated disaster management. He has published numerous articles in this area and been involved in many national standards as an editor in chief. He is currently leading on a monograph regarding comprehensive disaster prevention and urban safety of Shanghai in 2040.

2007年中国土木工程学会トンネル地下建設工学分会事務局次長、2009年中国土木工程学会工事リスク及び工事保険研究分会事務局次長を歴任。2006年中国・同済大学にて博士号(土木工学)取得後、災害リスク(主に地下空間建築工事に係るリスク分析・管理)、信頼性工学及び構造の不確定性分析、都市災害シミュレーション及び統合的災害管理など、幅広い分野で研究を統括、遂行している。多くの論文を手がける一方、数多くの国家規格の編纂責任者を務めた。現在、2040年時の上海における総合的防災及び都市の安全に関する研究に従事している。



Masakazu Ichimura 市村 雅一

Director, United Nations Centre for Alleviation of Poverty through Sustainable Agriculture (CAPSA) of ESCAP

国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 貧困削減のための持続可能な農業センター所長

Mr. Masakazu Ichimura is the newly appointed Director of the United Nations CAPSA, a regional institute of ESCAP, based in Bogor, Indonesia. For the past decade, he served as Chief, Environment and Development Policy Section of ESCAP, Bangkok, and engaged in the promotion of environmentally sustainable economic growth in Asia-Pacific, with focus on integrated policy approach to climate-smart development, eco-efficient resource management and inclusive socio-economic livelihood. After studying Environmental Engineering at the University of Tokyo, Mr. Ichimura started with Industry and Environment Office of UNEP in 1988 and continued to serve as specialist advisor for a range of international environmental cooperation programmes operated by the Government of Japan, JICA, OECC and IGES, etc. Other engagements included Principal Consultant, World Bank, Policy Advisor to Thai Ministry of Environment, and a lecturer at Bunkyo University. He has worked on issues such as transboundary air pollution, climate change, water quality and resource management, nature conservation, desertification control, environmental education, environmental security and migration, etc.

2005年以来、国連ESCAP環境開発政策課長として、アジア太平洋地域における環境と調和した経済成長のための政府間対話、政策提言等を推進。今年7月に同じESCAP傘下の貧困削減のための持続可能な農業センター(UNCAPSA、在インドネシア・ボゴール)所長に就任。東京大学大学院在学中の1988年に国連環境計画に派遣されたのを皮切りに、日本政府やIGESなど数多くの機関の手がけた国際環境協力プログラムに従事する一方、世界銀行コンサルタント、タイ環境省アドバイザーなどを務めてきた。扱った領域は、越境大気汚染、気候変動、水資源管理、下水道計画、自然保護、砂漠化防止、環境教育、環境安全保障と難民問題など多岐に及ぶ。



William N. Irving ウィリアム・N・アービング

Chief, Climate Policy Branch, Office of Atmospheric Programs, Climate Change Division, United States Environmental Protection Agency (USEPA) 米国環境保護庁気候変動部気候政策課 課長

William Irving is Chief of the Climate Policy Branch in the Climate Change Division at USEPA. His group supports domestic and international climate policy development at USEPA, including topics such as greenhouse gas emission markets, regulatory development, monitoring/reporting/verification of greenhouse gas emissions, the land sector, bioenergy, and greenhouse gas inventories. He also serves as a member of the IPCC Task Force Bureau on Greenhouse Gas Inventories. Previously he managed the launch of EPA's facility-level Greenhouse Gas Reporting Program, and was awarded a public policy fellowship by the British Council. He received a master's degree in international affairs from Columbia University in 1996.

米国環境保護庁気候変動部気候政策課課長。米国環境保護庁にて、温室効果ガス排出(GHG)市場、規制の設定、GHG排出のモニタリング・報告・検証、土地セクター、バイオエネルギー、GHGインベントリー等の国内外の気候政策の立案を支援。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)GHGインベントリー・タスクフォースビューローのメンバーとしても活躍。この他に、米国環境保護庁のGHG排出報告プログラムの設立を管理した。ブリティッシュカウンシルの公共政策フェローシップを受賞。1996年コロンビア大学にて国際関係論修士号を取得。



Naoko Ishii 石井 菜穂子

CEO & Chairperson, Global Environment Facility (GEF) / International Advisor, Sustainable Development Solutions Network (SDSN) Japan 地球環境ファシリティ (GEF) CEO 兼議長/持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) ジャパン国際アドバイザー

Naoko Ishii has served as the CEO and Chairperson for the Global Environment Facility (GEF) since June 2012. Prior to that Ms. Ishii was the Deputy Vice Minister of Finance, where she was responsible for Japan's international financial and development policies, and for its global policies on environmental issues such as climate change and biodiversity. She led the Japanese delegation at the Transition Committee for designing the Green Climate Fund.

For nearly half of her career, Ms. Ishii has served in international assignments outside of Japan, including at the World Bank and the International Monetary Fund. At the World Bank, Ms. Ishii was the Country Director for Sri Lanka and the Maldives (2006-2010). She also served as the World Bank's country program coordinator for Vietnam (1997-2001), project manager at Harvard Institute for International Development (1996-1997), economist at the International Monetary Fund (1992-1995) working for Africa and Asia, as well as visiting fellow at Center for International Affairs at Harvard University (1984-1985).

Ms. Ishii also taught sustainable development and environment at Keio University. She has published numerous papers and several books, two of which were awarded by Suntory Prize (1990) and Okita Memorial Prize for International Development Research (2004). She is the inaugural recipient of the 2006 Enjoji Jiro Memorial Prize. She holds BA and Ph.D. from University of Tokyo.

2012年6月から地球環境ファシリティ(GEF)のCEO兼評議会議長を務める。前職の財務省副財務官在職中には、日本の国際開発金融政策や、気候変動や生物多様性等の環境問題に対する日本の地球環境政策を統括。また、緑の気候基金の創設に向けた移行委員会の日本代表も務めた。主として国際畑を中心に勤務し、キャリアの半分を世界銀行やIMFなど国際機関で過ごす。世界銀行スリランカ・モルディブ担当局長(2006~2010年)、同銀行東アジア局ベトナム担当プログラムコーディネーター(1997~2001年)、ハーバード大学国際開発研究所プロジェクトマネージャー(1996~1997年)、IMFアフリカ・アジア担当エコノミスト(1992年~1995年)、ハーバード大学国際問題研究所客員研究員(1984~1985年)等を歴任。慶應義塾大学で持続可能な開発と環境について教鞭を執った経験もあり、サントリー学芸賞(1990年)や国際開発研究大来賞(2004年)を受賞するなど執筆活動も多彩。第一回円城寺次郎記念賞受賞(2006年)。東京大学博士。



Tetsuya Ishii 石井 哲也
Principal Research Director / Principal Fellow, IGES IGES 統括研究ディレクター/プリンシパルフェロー

Mr. Ishii has joined the Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA) in 1981. Since then, he has served as First Secretary of the Embassy of Japan in China and Counselor of the Embassy of Japan in Australia. He returned to Japan to serve as Deputy Director of the North East Asia Division in the Asian Affairs Bureau, Director of the Second Analysis Division in the International Analysis Bureau and Director of Development Assistance Division in the Economic Cooperation Bureau. In 2003, he was Counselor and then Minister of the Embassy of Japan in the Philippines. His next assignment was Deputy Consul-General of Japan in Shanghai, Minister of the Embassy of Japan in the Netherlands, and Deputy Consul-General of Japan in Hong Kong. In April 2015, Mr. Ishii became Principal Research Director/Principal Fellow of IGES. He is mainly involved in the SDGs related work and Japan Climate Leaders' Partnership (Japan-CLP).

1981年外務省入省。在中国日本国大使館一等書記官、在オーストラリア日本国大使館参事官を経て、帰国後、アジア局北東アジア課へ。国際情報局分析第二課長、経済協力局開発協力課長を歴任した後、2003年在フィリピン日本国大使館参事官、同公使となる。その後、在上海日本国総領事館首席領事、在オランダ日本国大使館公使、そして在香港日本国総領事館首席領事を歴任。2015年4月より現職、主に持続可能な開発目標(SDGs)、日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)に関する業務に従事している。



Kejun Jiang ケジュン・ジャン Senior Researcher, Energy Research Institute 中国能源研究所 シニアリサーチャー

From 1993, Kejun Jiang began the research on climate change relative to energy policy analysis, which focuses on energy technology policy assessment, energy supply policy assessment, renewable energy development and energy conservation. Started from 1994, have worked on Integrated Assessment Model (IAM) development for energy and GHG emission scenarios, policies, focusing on China and global analysis. At present he is mainly working on policy assessment for energy and environment policy assessment by leading Integrated Policy Assessment Model for China (IPAC) team. Major focus includes energy and emission scenarios, energy policy, energy system, energy market analysis, and climate change, local environment policies and international negotiation. Started from 1997, worked with IPCC for Special Report on Emission Scenario and Working Group III Third Assessment Report, leader author for IPCC WGIII AR4 Chapter 3, and leader author for GEO-4 Chapter 2. Now he is CLA in WGIII of IPCC AR5, LA for IPCC AR5 Synthesis Report, and author for UNEP Emission Gaps. His recent research projects include energy and emission scenarios for 2030, low carbon emission scenarios up to 2050, roadmap for air pollution control, assessment on energy tax and fuel tax, potential for energy target in China, development of Integrated Policy Assessment model, etc. He got his Ph.D in Social Engineering Department of Tokyo Institute of Technology.

1993年から、ケジュン・ジャン氏はエネルギー政策分析に関連した、とりわけエネルギー技術政策評価、エネルギー供給政策評価、再生可能エネルギー開発、また省エネルギーを重点とした、気候変動に関する研究を開始した。1994年から、中国及び大域分析を重点としたエネルギーと温室効果ガス排出シナリオ、また政策に関する統合評価モデル (IAM) の開発に取り組んできた。現在は主として中国の統合政策評価モデル (Integrated Policy Assessment Model for China: IPAC) チームを主導し、エネルギーと環境の政策評価を行っている。エネルギーと排出シナリオ、エネルギー政策、エネルギーシステム、エネルギー市場分析、また気候変動や地方の環境政策、国際交渉などを重点としている。1997年からは、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の業務として排出シナリオに関する特別レポートや第3作業部会の第3次評価報告書に関与し、また、IPCC第3作業部会、第4次評価報告書の第3章のリードオーサーや、また、地球環境概況 (GEO) 4の第2章のリードオーサーを務めた。現在同氏は、IPCCの第5次評価報告書の第3作業部会の統括執筆責任者 (CLA) であり、また、第5次評価報告書統合報告書のリードオーサー、国連環境計画 (UNEP) Emission Gaps レポートの著者を務めている。同氏の最近の研究プロジェクトとしては、2030年に向けたエネルギーと排出シナリオ、また2050年までの低炭素排出シナリオ、大気汚染規制に向けたロードマップ、エネルギー税や燃料税評価、中国のエネルギーターゲットのポテンシャル評価、統合政策評価モデルの開発等がある。同氏は東京工業大学の社会工学専攻において博士号を取得している。



Norichika Kanie 蟹江 憲史

Professor, Graduate School of Media and Governance, Keio University / Senior Research Fellow, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 慶應義塾大学政策・メディア研究科教授/ 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) シニアリサーチフェロー

Norichika Kanie is a professor at the Graduate School of Media and Governance, Keio University. He is also a Senior Research Fellow at United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) in the Governance for Sustainable Development (GSD) programme. Before joining Keio, he taught at Tokyo Institute of Technology and The University of Kitakyushu. His research focuses on international environmental governance. Among others he serves as a scientific steering committee member of the Earth Systems Governance project, and as an editorial board member of the journal *Global Environmental Governance*. Currently he is a co-chair of the Working Party on Climate, Investment and Development (WPCID) at OECD. Since 1996 he has been a representative of Japan to air pollution regime negotiations in East Asia (EANET). From August 2009 to July 2010 he was a Marie Curie Incoming International Fellow of the European Commission and based in SciencesPo, Paris. He is the project leader of POST2015 project, a strategic research project of the Environmental Research and Technology Development Fund, Ministry of the Environment, Japan.

His recent publications include:

Norichika Kanie, Peter M. Haas, Steinar Andresen eds. (2014), *Improving Global Environmental Governance: Best Practices for Architecture and Agency*, Routledge; "Sustainable development goals for people and planet", *Nature*, 495: 305-307. (21 March 2013, co-author)

北九州市立大学助教授、東京工業大学准教授を経て現職。国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアリサーチフェローを兼務。欧州委員会 Marie Curie Incoming International Fellow 及びパリ政治学院客員教授(2009-2010)。現在 OECD 気候変動・投資・開発作業部会共同議長、Earth System Governance プロジェクト科学諮問委員、中央環境審議会専門委員などを兼任。専門は政治学、国際関係論。特に、持続可能な開発目標やそのガバナンス、気候変動、アジアにおける越境大気汚染に関する国際制度研究に重点を置く。現在、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト S-11 (POST2015) プロジェクト・リーダーを務めている。近著書・論文に Norichika Kanie, Peter M. Haas, Steinar Andresen eds. (2014), *Improving Global Environmental Governance: Best Practices for Architecture and Agency*, Routledge; "Sustainable development goals for people and planet", Nature, 495: 305-307. (21 March 2013, co-author)



Md. Abdul Karim モハマド・アブドゥル・カリム
Managing Director, Palli Karma-Sahayak Foundation (PKSF)
Palli Karma-Sahayak財団マネージメントディレクター

Md. Abdul Karim, former Principal Secretary to the Government of Bangladesh, is the Managing Director of Palli Karma-Sahayak Foundation (PKSF). Earlier he served as the Secretary to the Government in the Ministries of Commerce, Fisheries and Livestock, Home Affairs, Communications (Bridges Division) and Finance (Internal Resources Division). He also served as the Economic/Commercial Counsellor of Bangladesh Embassy in Belgium. Mr. Karim was Chairman of the National Board of Revenue and Bangladesh Petroleum Corporation. He was Chairperson of a number of national level committees of various Ministries.

Mr. Karim obtained M.Sc. degree from the University of Chittagong, Bangladesh and Master of Social Science degree in Development Administration from the University of Birmingham, UK. As the Secretary General of the South East Asian Cooperation (SEACO) Foundation, Mr. Karim is working at civil society level to promote trade and investment among five countries of the South and South East Asian region including Bangladesh. He is a Paul Harris Fellow (PHF) Rotarian and contributes towards improvement of socio-economic condition of the disadvantaged people. Mr. Karim promotes sports and is the President of Bangladesh Table Tennis Federation. He is immediate past President of Bangladesh Scouts (Boy Scouts and Girl Guides) and obtained highest Scout award of Bangladesh. Mr. Karim has travelled to 46 countries. He has lectured at various Universities as guest speaker and authored books and articles on local government and other subjects. Mr. Karim is leading the Palli Karma-Sahayak Foundation (PKSF) to implement sustainable, holistic, people-centred poverty alleviation and rural development programmes in Bangladesh.

元バングラデシュ政府幹事長。バングラデシュにおいて Palli Karma-Sahayak 財団を持続的で、全人的、且つ市民主導の貧困削減と農村開発プログラムの実施のために指導している。これまで商業省、漁業・畜産省、内務省、通信省、大蔵省長官の他、在ベルギーバングラデシュ大使館経済産業顧問、バングラデシュ税務局、バングラデシュ国営石油会社の代表取締役を歴任し、さまざまな省庁の国家レベル委員の代表を務める。

チッタゴン大学で修士号を取得し、英国バーミンガム大学にて社会科学の修士課程を修了。現在、東南アジア協力財団事務総長として市民社会レベルでの貿易と投資の促進をバングラデシュを含めた東南アジア五か国内で進めている。ロータリー財団ポール・ハリス・フェローであり社会的弱者の社会経済状況の改善の為に貢献している。スポーツの推進も行っており、バングラデシュ卓球連盟の会長を務める他、前(ボーイ・ガール)スカウト長でありバングラデシュでもっとも高位なアワードを取得。これまで46か国を旅しており、さまざまな大学でゲストスピーカーとして講義を行ったほか、地方政治等の著書や記事を執筆。



Takao Kashiwagi 柏木 孝夫
Distinguished Professor, Tokyo Institute of Technology
東京工業大学特命教授/名誉教授

After obtaining his Ph.D. while studying the effects of heat transfer of critical air flow, Prof. Kashiwagi had a long career teaching at his old university, Tokyo Institute of Technology, and others. As the AES Center Director, he is leading its work with major companies involved in the energy sector to perform empirical studies and develop fundamental technologies that enable next-generation energy power generation. His service to numerous government committees includes, Chairman, New Energy Subcommittee of the Ministry of Economy Trade and Industries, Japan (METI), Chairman, Advisory and Assessment Committee for Fuel Cell at the Japanese Government Cabinet Office, and Member of the Science and Technology Expert Committee.

1946年東京生まれ。1970年東京工業大学工学部卒業、1979年博士号取得。1980~1981年米国商務省NBS (現NIST) 招聘研究員。1988年東京農工大学工学部教授に就任。2007年から東京工業大学大学院教授、先進エネルギー国際研究センターを立ち上げセンター長となる。2012年特命教授・名誉教授。東京農工大学名誉教授となる。2013~2015年東京都市大学(旧武蔵工業大学)教授。経済産業省総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会長、日本エネルギー学会会長、日本学術会議連携会員等を歴任。2013年総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会の分科会長就任、エネルギー基本計画を議論する同調査会基本政策分科会の委員も務める。



Yoriko Kawaguchi 川口 順子 Professor, Meiji Institute for Global Affairs, Meiji University 明治大学国際総合研究所特任教授

Prof. Yoriko Kawaguchi is a former Member of the House of Councilors for the Liberal Democratic Party from 2005 to 2013. She was Special Adviser to the Prime Minister of Japan on foreign affairs from 2004 to 2005; Minister for Foreign Affairs from 2002 to 2004 and Minister of the Environment from 2000 to 2002. She also served as Co-chair of the International Commission on Nuclear Non-Proliferation and Disarmament from 2008 to 2010. Prior to this, Prof. Kawaguchi was a Managing Director of Suntory Ltd, Director General of Global Environmental Affairs at the Ministry of International Trade and Industry, and Minister at the Embassy of Japan to the United States. Prof. Kawaguchi holds an M.Phil in Economics from Yale University and a BA in International Relations from the University of Tokyo. Currently, she holds a professorship at Meiji Institute for Global Affairs.

前参議院議員・元外務大臣・元環境大臣。東大、米エール大院卒(経済学修士)。通商産業省入省後、世界銀行エコノミスト、在米大使館公使を務める。93年退官。企業役員を経て、2000年、森内閣において環境庁長官に登用される。小泉内閣においても環境大臣、外務大臣を歴任し、退任後は内閣総理大臣補佐官(外交担当)に就任。2005年、参議院神奈川県補欠選挙にて初当選(自民公認)。2013年7月の参院選には出馬せず、政界を引退した。



Md. Abdul Baqui Khalily モハマド・アブドゥル・バキ・カリリ Executive Director, Institute of Microfinance マイクロファイナンス研究所エグゼクティブディレクター

Prof. Baqui Khalily is an expert on micro finance and rural finance in Bangladesh. He did his Ph.D from the Ohio State University, USA, majoring in Finance and Development. He joined the Department of Finance, University of Dhaka, Bangladesh in 1975, and became Professor in 1992. He has conducted some important studies in the area of impact assessment of micro finance; sustainability analysis, and access to financial services in Bangladesh. Professor Khalily

was the Founder Executive Director of Institute of Microfinance in Bangladesh. He has published articles in the area of sustainability, impact of micro finance, micro finance as a coping mechanism for reducing vulnerability of poor households, and credit market in national and international journals. He has co-authored several books. Professor Khalily is also associated with the movement on Corporate Governance in Bangladesh. He has participated in more than seventy five workshop/seminars either as a contributor or panelist or chair a session in home and abroad. He has travelled more than fifteen countries including USA, France and UK.

バングラデシュにおけるマイクロファイナンス及び農村開発金融の専門家である。米国オハイオ州大学にて金融開発を専攻し、博士号を取得。1975年にバングラデシュ・ダッカ大学の財務学部に所属し、1992年に教授に就任。持続可能性の分析、バングラデシュにおける金融サービスへのアクセスなどのマイクロファイナンスの影響評価の分野においていくつかの重要な研究を行った。同教授はバングラデシュのマイクロファイナンス研究所(Institute of Microfinance)創業時のエグゼクティブディレクターである。持続可能性、マイクロファイナンスの影響、貧困家庭の脆弱性を軽減するためのしくみとしてのマイクロファイナンス、国内外の学術誌におけるクレジット市場の分野における記事を出版。共著者としてその他の出版物にも携わる。また、バングラデシュのコーポレートガバナンスに関する活動に関わっている。国内外セッションの貢献者、パネリスト、又は議長として、75を超えるワークショップ/セミナーに参加。米国、フランス、イギリスなど15ヶ国以上を旅する。



Pornsri Kictham ポーンスリ・キチャム Advisor to the Mayor of Nonthaburi Municipality, Thailand タイ・ノンタブリ市市長顧問

Ms. Pornsri Kictham graduated from Mahidol University, Thailand. She started working with the Chanthaburi Municipality in the field of environment and health. Whilst during her time as the Director of Environment and Health in Nonthaburi Municipality, she created a successful waste management model for the city and led Nonthaburi Municipality to become a best practice example for other cities to visit and learn from. In 2011, as Municipal Clerk, she was able to successfully protect Nonthaburi Municipality from a great flood. Her book "Urban Resiliency Strategy in Nonthaburi, the Protection of Nonthaburi City from the Great Flood of 2011" was published in 2014 by Nonthaburi Municipality.

タイ・マヒドン大学卒業後、チャンタブリ市政府にて環境・保健分野に携わる。ノンタブリ市環境保健局局長として廃棄物処理のモデル構築を手がけ、他都市からの事例視察を受け入れるまでに市を牽引した。2011年のタイ洪水の際には、市助役として同市の防災に尽力した。また、その成功は、2014年出版の自著「Urban Resiliency Strategy in Nonthaburi, the Protection of Nonthaburi City from the Great Flood of 2011」(ノンタブリ市発行)に収められている。



Peter King ピーター・キング Senior Policy Advisor, IGES IGESシニアポリシーアドバイザー

Dr. King has been an avid environmentalist since undergraduate days at Melbourne University and it has remained an abiding passion for 40 years. He started his career in the Soil Conservation Authority in the state of Victoria and became the Land Studies Coordinator in Victoria's first Ministry for Conservation. He spent some time at the Environment and Policy Institute, East West Center in Hawaii and then set up his own environmental consulting company. Following some successful work for the Asian Development Bank (ADB) as a consultant, he started work with the ADB in March 1991 as an Environment Specialist in the Office of Environment. He established a sound reputation as ADB's leading natural resources management ("green") expert, with personal responsibility for over 50 loan and TA projects. In 1998, he was awarded a Doctor of Philosophy (Environmental Science) degree from Murdoch University in Perth. In 2005, he took early retirement from ADB and is currently a Senior Policy Advisor for IGES, heads the Asian Environmental Compliance

and Enforcement Network secretariat, and is Team Leader, Adaptation Project Preparation and Finance on the ADAPT Asia-Pacific project.

キング氏は、メルボルン大学卒業後40年にわたり熱心な環境活動家であり、その情熱を持ち続けている。キング氏は、オーストラリア・ヴィクトリア州土壌保全局に入局後、ヴィクトリア州で初の保全省における土壌研究コーディネーターに就任。その後、ハワイ東西センターの環境・政策研究所を経て、コンサルタント会社を設立。1991年からアジア開発銀行(ADB)において環境専門家として勤務し、50件以上のローン及びTAプロジェクトを担当するADBの屈指の自然資源管理専門家(グリーン専門家)としての地位を確立した。1998年にオーストラリア・パースのマードック大学大学院(環境科学博士)を修了。2005年にADBを退職し、現在はIGESのシニアポリシーアドバイザーとしてアジア環境法遵守執行ネットワーク事務局を率いる他、ADAPTアジア太平洋プロジェクトの適応プロジェクト準備とファイナンスチームのチームリーダーも務める。



Kazuhisa Koakutsu 小圷 一久 Leader / Principal Policy Researcher, Climate and Energy Area, IGES IGES 気候変動とエネルギー領域エリアリーダー/上席研究員

He has been engaging in the research activity on international climate policy related to market mechanisms such as the clean development mechanism (CDM), emission trading scheme (ETS) and Joint Crediting Mechanism. He has been implementing the capacity building activities in Asia on CDM and new market mechanism for the last 10 years. He is the author of several text books and research reports on the CDM and new market mechanisms, and has been specialized on the international rules and methodologies on the CDM. Currently, he is involving the capacity building of MRV (monitoring, reporting, and verification) for the new market mechanism and the attending the international negotiations under the UNFCCC.

気候政策における市場メカニズム、特にクリーン開発メカニズム (CDM) や二国間オフセット・クレジット制度 (JCM) 等に関する政策研究を行うと共に、アジア各国における能力構築事業に携わる。 CDM や新たな市場メカニズムに関するテキストブックの著者として市場メカニズムの国際ルールや方法論を担当。 現在は、JCMを含む新たな市場メカニズムと温室効果ガスの測定・報告・検証 (MRV) に関する能力構築や国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) における国際交渉に携わっている。



Hikaru Kobayashi 小林 光

Project Professor, Graduate School of Media and Governance, Environmental Design and Governance Program, Keio University (former Vice Minister, Ministry of the Environment) / Senior Fellow, IGES 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科環境デザイン&ガバナンスプログラム特任教授(元環境事務次官) / IGESシニアフェロー

After graduating from Keio University, Prof. Dr. Kobayashi joined the present Ministry of the Environment (formerly the Environment Agency) in 1973. From 1995, he was in charge of inviting to Japan the 3rd Session of the Conference of the Parties to the United Nations Framework Convention on Climate Change. He also handled domestic and international negotiations on the Kyoto Protocol and helped draft Japan's first law to promote countermeasures against global warming. He was appointed to Vice Minister of the Environment in July 2009, after serving in various other posts including Director-General of the Environmental Policy Bureau where he was in charge of polices related to Minamata disease. Mr. Kobayashi retired in January 2011 and took up a position as professor at Keio University from April 2011 to March 2015. Currently, he serves as a project professor, as well as a senior fellow of IGES. He earned his master's and doctorate degrees at Tokyo University. He studied for two years in France as a government student of Japan at Institut d' Urbanisme de Paris. For contribution to local administration, he was Director of the Industrial Waste Management Division, City of Kitakyushu. For "green economy", he has authored a number of books on Japan's pollution experiences as well as those on eco-housing, based on his own experience in his home.

博士(工学)。1949年生まれ、慶応義塾大学経済学部卒業。環境庁(省)では、環境と経済、地球温暖化などの課題を幅広く担当。1997年のCOP3の京都への招致、京都議定書に関する国内外の調整・交渉、地球温暖化対策推進法案作成に尽力した。環境事務次官(2009年~2011年)時代には水俣病患者団体との和解に力を注いだ。2011年に退官後は慶應義塾大学大学院教授(2011年~2015年)。現在は同大学大学院特任教授ならびにIGESシニアフェロー。フランス・パリにあるInstitut d' Urbanisme に留学経験あり。また、地方行政への貢献として、北九州市産業廃棄物課長を務めた。自然エネルギーをふんだんに利用したエコハウスを自宅にしていることで有名。趣味は蝶の観察。



Satoshi Kojima 小嶋 公史

Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGES プログラム・マネージメント・オフィス上席研究員

Dr. Kojima graduated from the University of Tokyo with a Master of Engineering. After engaging in water and environment related official development assistance (ODA) projects in several countries including Indonesia and Hungary, he studied environmental economics at the University of York in the United Kingdom. After receiving a Ph.D. of Environmental Economics, he joined IGES in 2005 and has engaged mainly in quantitative policy analysis of sustainable development policy in East Asia. He published a book "Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis" from Edward Elgar Publishing in 2007.

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了(工学修士)、英国ヨーク大学環境学部博士課程修了(Ph.D.)。1994年より株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナルにおいて、コンサルティング技師としてインドネシア、ハンガリーなどで上下水道・環境保全分野での政府開発援助プロジェクトに従事。その後、英国ヨーク大学で博士号(環境経済学)を取得後、2005年よりIGES勤務。主に東アジア地域の持続可能な開発に関する定量的政策分析に従事。専門は環境経済学、環境・開発政策評価。著書に「Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis (2007年Edward Elgar社)」がある。



Thelma Krug テルマ・クルーグ

Co-chair, IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories / Head, International Cooperation Office, National Institute for Space Research, Ministry of Science, Technology and Innovation, Brazil 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)インベントリータスクフォース共同議長/ブラジル科学技術革新省国立宇宙研究所国際協力事務局長

Thelma Krug is the co-chair of the Task Force on National Greenhouse Gas Inventories of the Intergovernmental Panel on Climate Change since 2002. She is a senior researcher at the National Institute for Space Research in Brazil, and presently is the head of the international cooperation office at that Institute which lies under the Ministry of Science, Technology and Innovation. She has a PhD degree from the University of Sheffield on spatial statistics. She has been National Secretary at the Secretary for Climate Change and Environmental Quality at the Ministry of the Environment, and Deputy National Secretary at the Secretary for Programs and Policies in Science and Technology from the Ministry of Science, Technology and Innovation. She has been actively engaged in the climate change negotiations since 2002 focusing mainly on issues related to land use and forestry and has been an inventory reviewer for many years, including of Japan's national inventory.

2002年よりIPCCインベントリータスクフォースの共同議長を務める。現在、科学技術革新省関係機関のブラジル国立宇宙研究所上席研究員及び国際協力事務局長。シェフィールド大学において空間統計学博士号を取得。環境省の気候変動及び環境品質事務局長、科学技術革新省による科学技術プログラム・政策事務局次長を歴任。2002年以降、土地利用及び森林に関連する問題に主に焦点を置きながら気候変動の交渉に活発に関与している。日本の国別インベントリーを含めインベントリーに関する審査にも長年携わってきた。



Hoesung Lee ホーセン・リー

Vice-chair, Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) / Professor, Korea University Graduate School of Energy and Environment 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)副議長/高麗大学エネルギーと環境大学院教授

Dr. Hoesung Lee is Vice-chair of Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC), elected since 2008 and professor at Korea University Graduate School of Energy and Environment, Seoul, Korea. His research encompasses the economics of climate change, energy and sustainable development. He is a member of the Board of Directors of the Korean Academy of Environmental Sciences, council member of the Global Green Growth Institute, steering committee member of the Innovation for Cool Earth Forum Japan and a member of the Asian Development Bank President's Advisory Board on Climate Change and Sustainable Development. Lee was the founding president of the Korea Energy Economics Institute -- a government agency for national energy policy development. He was Distinguished Research Fellow at the Korea Environment Institute, senior adviser to the Minister of Energy and Resources and the Minister of Environment, senior fellow at the Korea Development Institute and economist at Exxon Company USA. He served as the president of the International Association for Energy Economics, president of the Korea Resources Economics, member of the International Advisory Board of the Battelle-Pacific Northwest National Lab, USA, the Board of Directors of Hyundai Corporation, Korea Petroleum Development Corporation and the Institute for Global Environmental Strategies, Japan. He was Co-chair of the IPCC Working Group III (the socio-economic dimensions of climate change) for the Second Assessment which provided a scientific basis for the UNFCCC's Kyoto Protocol. He served as lead author and review editor for the various IPCC assessments. He has served on many national and international committees addressing climate change and energy. He received B.A. from Seoul National University and Ph.D. in economics from Rutgers University, USA.

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)副議長(2008年~)、また、韓国・ソウルの高麗大学・エネルギーと環境大学院教授。研究分野は、気候変動の経済学、エネルギーと持続可能な開発。韓国の環境科学アカデミー理事、グローバルグリーン成長研究所(GGGI)委員、日本のクールアースフォーラム運営委員、気候変動と持続可能な開発に関するアジア開発銀行総裁の諮問委員等の職にある。これまでに、韓国エネルギー経済研究所(韓国政府のエネルギー政策研究機関)の初代所長、韓国環境研究所の名誉研究員、動力資源部長官及び環境部長官の上級顧問、韓国開発研究所上級研究員、米国エクソン社エコノミスト、韓国資源経済機関所長、米国国立研究所Battele-Pacific Northwest National Lab 国際諮問委員、韓国・ヒュンダイ社理事、韓国石油開発公社顧問、地球環境戦略研究機関理事等を務めた。また、IPCC第3作業部会の共同議長としてIPCC第二次評価報告書の調整・作成を指揮。気候変動の経済的・社会的側面に関する同報告書は、京都議定書の科学的根拠となった。IPCCの様々なアセスメントにおいてリードオーサーやレビューエディターを務めた。以上に挙げた以外にも、韓国国内のみならず国際的に、気候変動やエネルギーに関する様々なポストを歴任。ソウル国立大学にて学士を、米国ラトガーズ大学にて経済学博士号を取得。



Bindu N. Lohani ยัวหัวง Nง ロハニ

Distinguished Adjunct Faculty, Asian Institute of Technology (AIT) / Special Advisor, Y-Port Center, City of Yokohama / Distinguished Fellow, IGES アジア工科大学 (AIT) 特別名誉教員/横浜市Y-PORTセンター特別アドバイザー/IGES特別顧問

Dr. Lohani was Ranking Vice-President of the Asian Development Bank (ADB) for Knowledge Management and Sustainable Development until 30 June 2015. He was responsible for the ADB's Economic Research and Regional Cooperation Department (Office of the Chief Economist), Sustainable Development and Climate Change Department, and Office of Information Systems and Technology. Prior to assuming his current post, Dr. Lohani was Vice-President (Finance and Administration) of ADB. Dr. Lohani also served as Chair of Investment Committee of the Pension Fund; Chair of Asset Liability Management Committee; and Chair of Crisis Management Committee.

Dr. Lohani holds a Bachelor's Degree in Civil Engineering, and a Master's degree (water and waste management) and Doctoral degree in Environmental Engineering. Dr. Lohani has been conferred with several Honorary Doctoral Degrees including the Degree of Doctor of University by the Griffith University, Australia in recognition of his distinguished contributions to environment. Dr. Lohani is an elected member of the National Academy of Engineering (NAE) of United States, the highest professional distinction accorded to an engineer, for his work on economic-cum-environment approach to sustainable development.

2015年6月までアジア開発銀行(ADB)のナレッジマネージメント及び持続可能な開発部門副総裁を務める。ADBでは、経済研究及び地域協力部、持続可能な開発及び気候変動部、情報システム技術オフィスも担当したほか、財務管理部門の副総裁、年金基金投資委員会会長、資産負債管理委員会会長、危機管理委員会会長等を歴任。

土木工学学士号、水・廃棄物管理修士号、環境工学博士号を取得。オーストラリアのグリフィス大学等において名 誉博士号。持続可能な開発への経済環境アプローチに関する業績により、全米工学アカデミーの会員に選出されて いる。



Jonathan Lynn ジョナサン・リン

Head, Communications and Media Relations, Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)広報責任者

Jonathan Lynn is Head of Communications and Media Relations at the Intergovernmental Panel on Climate Change. Before joining the IPCC in November 2011, he worked as a foreign correspondent and editor for Reuters news agency for 32 years, reporting from over 30 countries around the world. Jonathan has an MA from Cambridge University, where he studied modern languages at Clare College. He is a Fellow of the Royal Geographical Society.

2011年11月にIPCCでの職務を開始する以前は、ロイターニュースエージェンシーで外国特派員や編集者として32年間勤務し、30カ国を超える国々で報道に携わった。ケンブリッジ大学にて修士号を取得。また、英国王位地理学会のフェローでもある。



Toshizo Maeda 前田 利蔵

Director, IGES Regional Centre IGES バンコク地域センター長

Toshizo Maeda is the Director of IGES Regional Centre in Bangkok since April 2015. He is a specialist in urban environmental management and local environmental policies (P. E. Jp (Environmental Engineering)). Before joining IGES, he worked for UNDP Malaysia Office as a program manager of the Energy and Environment Cluster, for CTI International Co., Ltd. as a civil engineer and for Japan Overseas Cooperative Volunteers as a high school teacher in Ghana. He graduated from Sanitary Engineering Division, Hokkaido University, and obtained a Master's Degree in Environment, Development and Policy from Sussex University.

2015年4月より現職。専門は都市環境管理と都市環境政策(技術士衛生工学)。これまでUNDPマレーシア事務所にて環境・エネルギー分野プログラムマネージャー、株式会社CTIインターナショナルにて土木・都市環境技師、青年海外協力隊にてガーナ国の高校教師を務める。北海道大学工学部衛生工学科卒、サセックス大学大学院環境・開発政策修了。

IGESフェロー



Naoko Matsumoto 松本 奈穂子 Fellow, IGES

Dr. Matsumoto received her PhD degree from the Tokyo Institute of Technology on the comparative policy analysis on air quality management in Japan and the United States. She joined IGES in 2002, and is currently working on the project related to the air pollution control and co-benefits as an IGES fellow. Her research areas include environmental policies (air quality policies), energy policies (biofuel policies), and urban transport policies. She also works as a part-time lecturer at Ferris University.

東京工業大学社会理工学研究科博士後期課程修了(日本とアメリカにおける大気環境政策に関する比較分析)後、2002年IGESに入所、現在はIGESフェローとしてコベネフィット型大気汚染対策に関連するプロジェクトに携わっている。専門分野は、環境政策(大気環境分野)、エネルギー政策(バイオ燃料政策)、都市交通政策。フェリス女学院大学非常勤講師。



Yusuke Matsuo 松尾 雄介

Deputy Area Leader / Senior Policy Researcher, Green Economy Area, IGES IGES グリーン経済領域 副エリアリーダー/主任研究員

After a career with Sanwa Bank (now Mitsubishi Tokyo UFJ Bank), and the green investment advisory company, The Good Bankers Co. Ltd., he took up his current position in 2005. He completed a Masters in Environmental Policy from the International Institute for Industrial Environmental Economics, Lund University, Sweden in 2005. He implements research activities linking climate change and business. Currently he is working for the Secretariat of the Japan Climate Leaders' Partnership, a group of advanced companies in Japan aiming for a low-carbon society. He was awarded the 14th Kaya Encouragement Prize from the Japan Society of Energy and Resources and gained the highest award for the 9th and 11th MOEJ Environment Policy Proposal from NGOs/NPOs and Companies.

三和銀行(現三菱東京 UFJ 銀行)、環境投資顧問の株式会社グッドバンカーを経て 2005 年より現職。2005 年ルンド大学(スウェーデン)産業環境経済研究所修士課程修了(環境政策学修士)。気候変動問題と企業の関わりについて一貫して研究活動を実施。現在は日本の先進企業で形成され、低炭素社会を目指す日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)の事務局を務める。2010年度エネルギー・資源学会第 14 回茅奨励賞、環境省第 9 回・第 11 回 NGO/NPO・企業環境政策提言最優秀賞を受賞。



Kazuo Matsushita 松下和夫

Senior Fellow, IGES / Professor Emeritus, Kyoto University IGESシニアフェロー/京都大学名誉教授

Prof. Matsushita served as Professor of Global Environmental Policy at the Graduate School of Global Environmental Studies of the Kyoto University, from November 2001 to March 2013. He graduated from the Tokyo University and obtained MA in political economy from the Johns Hopkins University. He joined the Environment Agency in 1972 and served as the Director of the Air Pollution Control Division and the Global Environment Policy and Cooperation Division. He also worked at the OECD, UNCED and IGES. His research focuses on green economy and environmental policy integration for sustainable society. His publication includes "A Journey to Global Environmental Studies", "An Introduction to Environmental Policy", "Environmental Governance", "Introduction to Environmental Politics", "Environment in the 21st Century and New Development Patterns" (in English). He is also a member of the Board, The

Environmental Consortium for Leadership Development (EcoLeaD), as well as a member of the Board of Trustees of the Environmental Innovation and Communication Organization.

1948年生。2001年11月から2013年3月まで京都大学大学院地球環境学堂教授(地球環境政策論)。1971年東京大学経済学部卒業、1976年ジョンズ・ホプキンス大学大学院政治経済学修士課程修了。1972年より環境庁勤務、大気規制課長、環境保全対策課長等歴任。OECD環境局、国連環境開発会議上級計画官、IGES等でも勤務。持続可能な社会に向けたグリーン経済論や環境政策を研究。主著に「環境政策学のすすめ」、「環境ガバナンス」、「環境政治入門」、「地球環境学への旅」、「Environment in the 21st Century and New Development Patterns」など。環境人材育成コンソーシアム幹事及び(一財)環境イノベーション情報機構評議員も兼ねる。



Makoto Mihara 三原 眞
Assistant Manager for International Cooperation, Environmental Policy Department, Environment Bureau, Osaka City Government
大阪市環境局環境施策部環境施策課都市間協力担当 課長代理

Makoto Mihara joined the City of Osaka in 1995. He worked in environmental administration, specializing in the formulation of the industrial waste treatment plan and waste regulations for factories and facilities. He has been in his current position since April 2014 and is in charge of international cooperation with developing countries in environmental areas such as technical assistance with United Nations Environment Programme's International Environmental Technology Centre (UNEP/IETC).

1995年大阪市役所に入庁。産業廃棄物処理計画の策定、工場や事業所の廃棄物規制など環境行政に携わり、2014年4月より現職。現在は、国連環境計画国際環境技術センター(UNEP/IETC)などと連携し、開発途上国への技術的支援等の環境分野における国際協力を担当。



Bijon Kumer Mitra ビジョン・クマール・ミトラ
Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域 研究員

Bijon Kumer Mitra works as Water Resource Specialist with IGES since 2009. He is having more than ten years of experience in the field of water resource management. His current research topics include quantitative assessment of the nexus between water, food, energy and land use, climate smart water and wastewater management, and groundwater governance. Mitra holds a PhD degree in Science of Biotic Environment from Iwate University, Japan.

2009年よりIGESにて水資源スペシャリストとして勤務。水資源管理分野で10年以上の経験を持ち、水-食糧-エネルギー-土地利用の連環に関する定量評価、気候に対応した水・廃水管理、地下水ガバナンス等を研究。岩手大学において博士号取得(生物環境科学)。



Tomohiko Miyahara 宮原 智彦
President of the FujisawaSST Management Company /
The Manager of the Panasonic CRE Business Development Group
FujisawaSSTマネジメント株式会社代表取締役社長/パナソニック株式会社CRE事業推進部部長

In 1989 Tomohiko Miyahara graduated from Waseda University, School of Political Science and Economics. In 1989 he joined Panasonic Corporation, and in 2007 he started his involvement in the Fujisawa Sustainable Smart Town

development project. He is president of the FujisawaSST Management Company and the Manager of the Panasonic CRE Business Development Group concurrently.

1989年早稲田大学政治経済学部卒。同年、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)に入社。建設事業推進本部のグループマネージャー、パナソニックサイクルテック株式会社の監査役、パナソニック介護サービス株式会社の取締役を経て、2007年よりFujisawaサスティナブル・スマートタウン開発のプロジェクトマネージャーとしてプロジェクトを推進。現在、パナソニック株式会社CRE事業推進部部長とFujisawaSSTマネジメント株式会社の代表取締役社長を兼務。



Hideyuki Mori 森 秀行 President, IGES IGES 所長

Mr. Hideyuki Mori is a graduate of the School of Engineering, Kyoto University. He joined IGES in 2003. Prior to joining IGES, he served as Environment Specialist at the Asian Development Bank, Senior Environmental Coordinator of the United Nations High Commissioner of Refugees, Director of the Office of Research and Information at the Global Environment Issues Division of the Environment Agency of Japan (present Ministry of the Environment) and as Portfolio Manager of the Division of GEF at the United Nations Environment Programme. He has served as the President of IGES since 2010.

京都大学大学院工学部工業化学科修士課程修了。1977年環境庁(現環境省)入庁。アジア開発銀行環境専門官、国連高等難民弁務官、環境庁企画調整局地球環境部環境保全対策課研究調査室長、国連環境計画GEF担当ポートフォリオマネージャーなどを経て、2003年にIGES 長期展望・政策統合プロジェクトリーダーに就任。2010年4月より現職。



Thumrongrut Mungcharoen (RUT) タムロンラット・ムンチャルエン (ラット)

Vice President, Asia Pacific Roundtable for Sustainable Consumption and Production (APRSCP) 持続可能な消費と生産に関するアジア太平洋円卓会議 (APRSCP) 副議長

He holds a PhD in Chemical Engineering from the University of Texas at Austin, USA. For more than 20 years, he has involved as an expert in several projects on cleaner technology, life cycle assessment and related SCP. He is a Vice President of the Asia Pacific Roundtable for Sustainable Consumption and Production (APRSCP) and an advisory committee of the Federation of Thai Industries. He is among the key persons who have started the Thai National Life Cycle Inventory Database project since 2005 and Thai Carbon Footprint Label project since 2009. He is currently an Associate Professor at Kasetsart University and also a director of the Sustainable Environment Program and a Chairperson of the Energy and Environment Cluster under the National Science and Technology Development Agency. He has more than 200 scientific publications.

米国テキサス大学オースティン校にて博士号 (化学工学) 取得。専門家として20年以上にわたり、クリーンテクノロジー、ライフサイクルアセスメントなど持続可能な消費と生産 (SCP) 関連分野のプロジェクトに携わる。持続可能な消費と生産に関するアジア太平洋円卓会議 (APRSCP) 副議長、タイ工業連盟の諮問委員会委員。2005年よりタイ国立ライフサイクル・インベントリデータベース・プロジェクトに、2009年からはタイ・カーボンフットプリント・ラベル制度プロジェクトに、それぞれ主要創立メンバーとして関わる。現在カセサート大学準教授、タイ国立科学技術開発庁・「持続可能な環境」プログラムディレクター、及び「エネルギーと環境」クラスター議長。これまでに200以上科学論文を執筆。



Tetsuya Nakajima 中島 徹也

Executive Director for Development Cooperation, International Affairs Bureau, City of Yokohama 横浜市国際局国際技術協力担当理事

Engineer specialised in city planning and was the leader of the Yokohama Smart City Project, the programme to turn Yokohama into a smart city. He worked in the development of the Minato Mirai 21, the city's revitalised waterfront business district, as well as in the planning of its street network and the railway line connecting it to the central Tokyo. He also worked in the environmental protection office and in the field of disaster prevention. After leading the Centre of Co-Governance & Creation, Policy Bureau in 2014, he is now Executive Director for Development Cooperation, International Affairs Bureau. Also an expert/peer reviewer for the OECD project "Urban Green Growth in Dynamic Asia", under the Green Cities Programme.

都市計画を専門とするエンジニアであり、「横浜スマートシティプロジェクト」の責任者を務めた。横浜市のウォーターフロントの再開発事業である「みなとみらい21」事業に携わり、同地区の街路ネットワークや、東京への鉄道網の計画などを手がけた。横浜市においては、環境保全や防災部門も歴任。2014年に政策局共創推進室長を務め、現在、国際局国際技術協力担当理事。経済協力開発機構(OECD)が「グリーンシティプログラム」の元で進めている「Urban Green Growth in Dynamic Asia」にも参画している。



Yuko Nishida 西田 裕子
Bureau of Environment, Tokyo Metropolitan Government
東京都環境局総務部環境政策課 国際環境協力担当主任

Yuko Nishida is an urban planner, working at the Bureau of Environment, Tokyo Metropolitan Government (TMG). She is specialized in urban sustainable development issues and climate actions, currently in charge of environmental policy making and international cooperation regarding climate change issues. Prior to her current position, she worked as an Urban Renewal Planner and Coordinator at the Bureau of Construction from 1983 to 1994. Master Degree in Public Administration from the Kennedy School of Government, Harvard University. Related publication: Yuko Nishida and Ying Hua (2011) Motivation stakeholders to deliver change: Tokyo's Cap-and-Trade Program, Building Research & Information Vol39, Issue5, 2011

都市のサスティナブルデベロップメント(環境都市づくり/建築)関連の政策立案を仕事とする。現在、気候変動対策の政策立案及び国際環境協力を担当。1994年以前は、都市再開発を担当。その後、調査研究を担当。この間、1996年から1997年まで国連大学高等研究所リサーチアソシエイト。ハーバード大ケネディ行政大学院行政学修士。再開発プランナー資格。関連著書; Yuko Nishida and Ying Hua (2011), Motivation stakeholders to deliver change: Tokyo's Cap-and-Trade Program, Building Research & Information Vol39, Issue5, 2011, http://www.tandfonline.com/toc/rbri20/39/, 現代の都市法1, II 東京大学出版会、共著



Shuzo Nishioka 西岡 秀三

Secretary General, International Research Network for Low Carbon Societies (LCS-RNet) and Low Carbon Asia Research Network (LoCARNet) / Senior Research Advisor, IGES 低炭素社会国際研究ネットワーク・低炭素アジア研究ネットワーク事務局長 / IGES 研究顧問

After 12 years engineering experience in Asahi Chemical Co. Ltd, he joined National Institute for Environmental Studies of Japan (NIES). Research areas there were global and regional environmental assessment and environmental policy. He served as professor of Tokyo Institute of Technology and Keio University in 1997-2001 and as Executive Director of NIES in 2001-2007.

From late 1980's, he devoted in climate change issues and engaged in IPCC from 1988 to 2007 mainly in impact assessment and adaptation methodology. In 2004 -2009, he lead a strategic research of Japan Low Carbon Society Project of MoE, to explore the scenario of 70% GHG reduction in 2050 in Japan. This works was extended to Prime Minister Fukuda's Low Carbon Society policy (60-80% reduction in 2050) declared at Toyako G8 Summit. From 2007-12 he served as a Co-leader of Kakushin Climate modeling project of MEXT and chaired Sub-committee for Low Carbon Japan Scenario in Central Council of Environment Japan. His recent work focuses on international collaboration for supporting Asian countries' leap-fogging to low carbon world and collaboration with European climate research community.

1962年東京大学機械工学科卒、工学博士(制御理論)。旭化成工業勤務後、国立環境研究所にて地球環境政策研究・地域環境政策研究等に従事、東京工業大学・慶応義塾大学大学院教授、国立環境研究所理事を経て現職。1980年代後半からIPCC等で気候変動問題に取り組み、温暖化影響評価・適応策ガイドライン主執筆者を務める、また、日本低炭素シナリオ戦略研究リーダー(2004年~2009年)を務め、G8洞爺湖サミットで福田首相(当時)が提唱した日本の低炭素政策(2050年に温室効果ガス最大80%減)に大きく貢献した。その他の主たる業績として、気候変化予測「革新」プロジェクト共同統括(2007年~2012年)や中央環境審議会低炭素シナリオ部会議長等を歴任。現在は、気候変動分野の研究コミュニティと政策を結ぶ二つの「低炭素社会研究ネットワーク」の事務局長として、欧州及びアジアで積極的に活動している。著書に「日本低炭素社会へのシナリオー二酸化炭素 70%削減の道筋」(日刊工業新聞社)、「低炭素社会のデザイン」(岩波新書)等。



Masakazu Okuno 奥野 雅量

Manager for Development Cooperation Division, International Affairs Bureau, City of Yokohama 横浜市国際局国際協力部国際協力課 国際技術協力担当課長

Masakazu Okuno joined the City of Yokohama in 1990, and has been engaged in port administration throughout his career in the city government. He worked on the development projects such as Minato Mirai 21, Minami Honmoku Pier, Portside Arterial Road and Zounohana Park. For three years since 2009, he had worked in the Overseas Coastal Area Development Institute of Japan (OCDI) to conduct international researches in port management, including JICA's "Technical Cooperation for the Modernization of Cargo Transportation Project in Syria", "Preparatory Survey on Nacala Port Development Project in Mozambique", "Project for Enhancement of Operation and Management Capacity of Inland Waterway in Southern Sudan". After taking managerial positions in port development and maintenance divisions of Port and Harbour Bureau, he is now Manager for Development Cooperation Division of International Affairs Bureau of the City of Yokohama.

1990年に横浜市入庁後、一貫して港湾行政に携わり、みなとみらい21地区、南本牧ふ頭、臨港幹線道路、象の鼻パーク等の整備事業を手がける。2009年から3年間は一般財団法人国際臨海開発研究センター(OCDI)に出向し、港湾分野における国際関連の調査・研究を実施。OCDIでは、JICAの「シリア国物流システム近代化計画プロジェクト」、「モザンビーク国ナカラ港開発事業準備調査」、「南部スーダン内水輸送運営管理プロジェクト」に港湾管理の分野で参画。その後、横浜市港湾局において港湾整備事務所長、維持保全課長を経て、現在、国際局国際協力課国際技術協力担当課長。



Kazunobu Onogawa 小野川 和延

Senior Fellow, IGES IGESシニアフェロー

Mr. Onogawa joined IGES in 2012 as a senior fellow. Before joining IGES, he was the Director of United Nations Center for Regional Development (UNCRD) between 2002 and 2011, and also served for IGES as a trustee member

over this period. After graduation from Kyoto University in 1972 reading Environmental Engineering, he joined newly established Environment Agency of Japanese Government (current Ministry of the Environment, MOEJ) and worked for policy development for water quality management, EIA, transport management as well as global environmental issues, and environmental research management of national research institutes in Japan. Over these period he had worked for MOEJ, UNEP (Bangkok), IIASA (Vienna), NIES, Regional Environment Center for Central and Eastern Europe (REC, Budapest) in addition to UNCRD.

2012年、シニアフェローとしてIGESに勤務。2002年から2011年まで国際連合地域開発センター(UNCRD)所長を務め、この期間に併せてIGESの評議員。1972年京都大学工学部卒業後環境庁(現環境省)へ。水質管理、環境アセスメントの導入、交通問題対策、地球環境問題及び研究調整などを担当。UNCRDに加えて、UNEPアジア太平洋地域事務所、国際応用科学研究所、国立環境研究所、中東欧地域環境センターにも勤務。



Takashi Otsuka 大塚 隆志 Director, ICLEI Japan Office, ICLEI-Local Governments for Sustainability 一般社団法人イクレイ日本 事務局長

Before joining ICLEI as the Director of ICLEI Japan Office in April 2015, Takashi Otsuka served as Deputy Director at IGES, and has been responsible for the overall planning and coordination of IGES's research and strategic operations. He started his professional career with IGES in 1999 by leading several multi-country comparative research projects focusing on environmental awareness and behavior. From 2004 to 2006, he spent two years at UNEP headquarters in Nairobi as Task Manager for developing/managing GEF projects focusing on Asia and Pacific region.

1999年にIGESに入所、アジア諸国を対象とした環境意識比較研究プロジェクト等に従事。2004~2006年には、国連環境計画(UNEP)に出向し、地球環境ファシリティ(GEF)調整局アジア太平洋地域担当官として本部ナイロビに勤務する。その後、IGESのプログラム・マネージメント・オフィスに所属し、副ディレクターとして、IGES全体の研究及び戦略オペレーションに関する企画調整を担当。2015年4月より現職。



Agamuthu Pariatamby アガムトゥ・パリアタンビィ Professor, Institute of Biological Sciences, Faculty of Science, University of Malaya マラヤ大学科学学部生物科学研究所 教授

Prof Dr. Agamuthu from University of Malaya Kuala Lumpur teaches environmental courses. He has authored more than 400 scientific publications and 17 Technical Reports. In 2010, Prof Agamuthu was awarded Excellent Scientist and ranked among the International Top 100 professionals. He also received the award of Fellow of Academy Science, Malaysia in 2014. He is the Editor in Chief for Waste Management and Research, and Malaysian Journal of Science. Agamuthu is the President of Malaysian Society of Waste Management and Environment. Furthermore, his membership to expert organisations and association are numerous, including being a member of International Solid Waste Association and the Vice President of Society of Solid Waste Management Experts in Asia and Pacific Islands (SWAPI). He has supervised 78 Masters and PhD students.

マラヤ大学環境系コース担当教授。これまで400以上の科学論文、17の技術報告書など数多くの著作を出版。2010年にはマレーシア政府から優秀科学者賞を受賞、国際プロフェッショナルトップ100のひとりに選ばれ、2014年にはマレーシア科学アカデミーよりフェロー称号を授与される。ウェイストマネジメント&リサーチ誌、マレーシア科学ジャーナル誌の編集長、マレーシア廃棄物処理・環境学会会長をそれぞれ務めるほか、国際廃棄物協会(ISWA)メンバー、アジア太平洋廃棄物専門家会議(SWAPI)副会長など、多くの専門機関・協会に所属。大学教授としてこれまで78名の学生(修士・博士)の指導にあたる。



Kaye Patdu ケイ・パドゥ Head of Programs, Clean Air Asia クリーン・エア・アジア プログラムリーダー

Kaye Patdu, Clean Air Asia Head of Programs, provides leadership and guidance for Clean Air Asia Programs covering Air Quality and Climate Change, Low Emissions Urban Development, Clean Fuels and Vehicles, and Green Freight and Logistics. She also oversees key air quality projects which include the Integrated Programme for Better Air Quality, Clean Air for Smaller Cities in the ASEAN Region, AQM in South China and the Pearl River Delta, and Development of an Urban AQM Program in Jakarta. Kaye also liaises with the National Environment Ministries for the Governmental Meeting on Urban Air Quality jointly organized by Clean Air Asia and United Nations Environment Programme. She is one of the key developers of the Clean Air Scorecard - an AQ management assessment tool for cities and one of the lead authors of the "Guidance Framework for Better Air Quality in Asian Cities" which aims to provide a recognized guidance for cities to improve air quality.

クリーン・エア・アジアのプログラムリーダーとして、大気質と気候変動、低排出の都市開発、クリーン燃料と車両、 地球にやさしい輸送と物流に関する助言を行っている。また、ASEAN地域における小都市のきれいな空気、中国南 部及び珠江デルタの大気質管理、ジャカルタの都市大気質管理を含む大気質の主要な統合プロジェクトを監督して いる。さらに、Clean Air Asia とUNEP共催の都市大気質に関する政府間会合のため、各国の環境省と連携している。 また都市のための大気質管理評価ツールであるClean Air Scorecard の開発者の一人でもあり、「都市のための大気 質向上ガイダンス」の筆頭著者の一人でもある。



Dickella Gamaralalage Jagath Premakumara

プレマクマラ・ジャガット・ディキャラ・ガマラララゲ

Task Manager / Senior Policy Researcher, Sustainable Cities Area, Kitakyushu Urban Centre, IGES IGES 北九州アーバンセンター 持続可能な都市領域 タスクマネージャー/主任研究員

Dr. Premakumara is a development planner, specialising in environmental planning and sustainable urban development. He holds a PhD in Management Development from the Nihon Fukushi University in 2006. He has over twenty years' experience in working with academic, government and non-governmental organisations as well as bilateral and international programmes. At the Kitakyushu Urban Centre, he focuses on participatory development and strategic planning in establishing sustainable cities, particularly on low carbon, resilient and resource circular societies in Asia and the Pacific Region.

アジアの都市における持続可能な都市開発を専門とする開発プランナー。2006年日本福祉大学にて博士号(経営開 発)取得。教育、政府機関、非政府機関、国際プログラム等様々な分野で20年以上の経験を持つ。現在はIGES北 九州アーバンセンターのタスクマネージャーとして持続可能な都市開発に向けた参加型の開発戦略を中心に、アジ ア太平洋地域の低炭素社会、レジリエント都市、循環型社会構築に関連したプロジェクトを担当している。



Jeffrey D. Sachs ジェフリー・D・サックス

Director, Sustainable Development Solutions Network (SDSN) /

Director, The Earth Institute, Columbia University

持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) ディレクター/コロンビア大学地球研究所長

Jeffrey D. Sachs is a world-renowned professor of economics, leader in sustainable development, senior UN advisor, bestselling author, and syndicated columnist whose monthly newspaper columns appear in more than 80 countries. He has twice been named among Time Magazine's 100 most influential world leaders. He was called by the New York Times, "probably the most important economist in the world," and by *Time Magazine* "the world's best known economist." A recent survey by *The Economist* ranked Professor Sachs as among the world's three most influential living economists of the past decade.

He serves as Director of The Earth Institute at Columbia University, as well as Quetelet Professor of Sustainable Development and Health Policy and Management. He is Special Advisor to United Nations Secretary-General Ban Ki-moon on the Millennium Development Goals, having held the same position under former UN Secretary-General Kofi Annan. He is co-founder and Chief Strategist of Millennium Promise Alliance, and is director of the Millennium Villages Project. He has authored several books including three New York Times bestsellers: *The End of Poverty* (2005), *Common Wealth: Economics for a Crowded Planet* (2008), *The Price of Civilization* (2011), and *To Move the World* (2013).

経済学や持続可能な開発に関する世界屈指の専門家であり、国連上級アドバイザーを務める。数々の著書がベストセラーとなっているほか、毎月寄稿している新聞のコラムは80カ国以上に配信されている。タイム誌が選ぶ世界で最も影響力のある100人に2度選出。"おそらく世界で最も重要なエコノミスト"(ニューヨーク・タイムズ紙)、"世界で最も著名なエコノミスト"(タイム誌)と称される。エコノミスト誌による最近の調査では、過去10年の最も影響力のあるエコノミストトップ3に入った。

コロンビア大学地球研究所長、持続可能な開発及び医療政策マネージメント教授のほか、コフィー・アナン前国連事務総長に続き、ミレニアム開発目標に関する潘基文国連事務総長特別顧問を務める。ミレニアム・プロミス・アライアンス共同創設者・チーフストラテジスト、ミレニアム・ビレッジ・プロジェクトのディレクター。ニューヨーク・タイムズ紙ベストセラーである「The End of Poverty」(2005年)、「Common Wealth: Economics for a Crowded Planet」(2008年)、「The Price of Civilization」(2011年)のほか、「To Move the World」(2013年)等の著書がある。



Henry Scheyvens ヘンリー・スケーブンス

Leader / Principal Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域工リアリーダー/上席研究員

Dr. Scheyvens holds a PhD in Political Science from Monash University and a MPhil in Development Studies from Massey University. He has taught at several universities in New Zealand, Australia and Japan. He joined IGES in 2004, where he now serves as the Area Leader of the Natural Resources and Ecosystems Services Area. His research interests centre around poverty, livelihoods and rights issues. In the past few years, his research has focused on timber legality and sustainability, participatory forest mapping and monitoring, REDD+ readiness, and inclusive financial services.

マッセイ大学で開発学の修士号取得後、モナッシュ大学で政治学の博士号を取得。ニュージーランド、オーストラリア、日本の大学で教鞭を執った後、2004年よりIGESで研究に従事。貧困、生計と権利の問題に研究関心を置き、ここ数年は木材の合法性と持続可能性、参加型森林マッピングとモニタリング、REDD+、包括的なファイナンシャルサービスをテーマに研究を進める。



Thierry Schwarz ティエリー・シュワルツ

Director, Political and Economic Department, Asia-Europe Foundation (ASEF) アジア欧州財団 (ASEF) 政治経済部長

Thierry Schwarz heads the Political and Economic Department of the Asia-Europe Foundation (ASEF) since 2012. Prior to his secondment to ASEF, he was Adviser to the Council for Administrative Reform in Cambodia. He was founder and Dean of the Europe-Asia Undergraduate Program at the Paris Institute of Political Studies (Sciences-Po) France from 2007 to 2010. Between 2001 and 2007, Thierry was in charge of Development projects in South-East Asia with the French Embassy in Bangkok and managed several Cooperation projects in China with the French Embassy in Beijing.

Thierry's other prior experiences include CEO Asia-Pacific Region of a Waste management Company, CEO Moulinex-Krups North America, and Senior Executive of an Aluminium conglomerate in Western Africa. He served as Commercial Counsellor in Moscow (USSR), and started his career as a Judge in the Paris Administrative Court.

2012年より現職。ASEF に出向する前はカンボジアの行政改革委員会のアドバイザーを務める。2007~2010年にかけてフランスにてパリ政治学院ヨーロッパ・アジア・プログラムの学士課程を創立し学部長を務めた。他にもアフリカ西部にて廃棄物管理会社CEO や北米 Moulinex-Krups のCEO、アルミニウムを扱う西アフリカのコングロマリットの上級役員を歴任。フランス政府商務官としてモスクワ (USSR) に赴任、パリ行政裁判所の裁判官としてキャリアを始めた。



Soichiro Seki 関 荘一郎 Vice Minister for Global Environment, Ministry of the Environment, Japan 環境省地球環境審議官

Mr. Soichiro Seki, is the Vice-Minister for Global Environment, Ministry of the Environment of Japan. He joined the Environment Agency in 1978 and since 2001 has been with the Ministry of the Environment. He has served in various positions related to environmental issues, including water environment, waste, air quality management, and coordination on global environmental policy. He served as a JICA environment expert to the Office of National Environment Board of Thailand from 1986 to 1988, and also as a senior environmental engineer in the World Bank from 1998 to 2001. He was Director-General of Global Environment Bureau of Ministry of the Environment before taking up the current position.

1978年、東京大学工学部卒業、環境庁入庁。1986年から1988年までタイ政府環境庁に環境アドバイザーとして勤務。1988年より3年間世界銀行に出向し上級環境技術専門官として勤務。2001年以降、環境省環境管理局ダイオキシン対策室長、大気環境課長、廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長、廃棄物対策課長、水環境担当審議官、放射性物質汚染担当審議官、地球環境局長等を歴任。2014年7月より現職。



Masahiko Shizawa 志澤 昌彦 Vice President, Houtoku Energy Co. ほうとくエネルギー株式会社取締役副社長

Operates an estate agent office, with a service for sales and equipment of solar energy generation. Odawara City was one of seven cities selected to take part in the MOEJ project to support local promotion of renewable energy launched in 2011, and the city started up a Committee for the study of operationalising projects for renewable energy in Odawara. Mr. Shizawa serves as the coordinator for the committee. On 11 December 2012, Houtoku Energy Co. was founded. As the Vice President of the company, he is making every effort to realise renewable energy projects focused on the local community.

小田原で家庭用太陽光発電の販売施工及び不動産会社を経営。平成23年度に環境省の「再生可能エネルギー地域推進体制構築支援事業」の全国7都市のひとつに小田原市が選ばれ、「小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会」がスタート。そのコーディネーターを務める。協議会での検討を受け、平成24年12月11日に「ほうとくエネルギー株式会社」が誕生。取締役副社長として地域が主体となった再生可能エネルギー事業の実現に向けて奔走中。



Surendra Man Shrestha スレンドラ・マン・シュレスタ

Director, United Nations Environment Programme's International Environmental Technology Centre (UNEP-IETC) 国連環境計画 国際環境技術センター(UNEP-IETC) 所長

Mr. Shrestha has served in at the Rio+20 Secretariat as the Team Leader for Institutional Framework for Sustainable Development and Focal Point for SDGs. He is a senior staff at UNEP. He has held many senior positions including: first Director of Strategic Resource Mobilization, Regional Director for Asia and the Pacific. He assumed the current post in September 2013.

Rio+20事務局にて、持続可能な開発のための制度枠組みのチームリーダー、持続可能な開発目標 (SDGs) のフォー カルポイントを務めた。 UNEP のシニアスタッフであり、 UNEP 戦略的資源動員、 アジア太平洋地域ディレクターを 歴任。2013年9月より現職。



Ho Chin Siong ホー・チン・シオン

Professor, Universiti Teknologi Malaysia / Director of UTM Low Carbon Asia Research Centre -シア工科大学教授/マレーシア工科大学低炭素アジア研究センター所長

Ho Chin Siong is currently Professor of Faculty Built Environment and Director of Office of international affairs at Universiti Teknologi Malaysia. He is a chartered member of Chartered Institute of Logistic and Transport (CILT), registered member of the Board of Town Planning Malaysia and corporate member of Malaysian Institute of Planners (MIP). He received Bachelor of Urban and Regional Planning from Universiti Teknologi Malaysia (1983), MSc Construction Management from Heriot Watt University, Edinburgh, UK (1987) and Doctor of Engineering from Toyohashi University of Technology, Japan (1994). He was a postdoctoral fellow under Hitachi Komai Scholarship to Japan (1995) and Royal Society of Malaysia / Chevening Scholarship to United Kingdom (2005), Visiting scientist under Japan Society Promotion of Science-Vice Chancellor Council Grant (2005-2010). He is also project leader for Development Low Carbon Society Scenario for Asian Regions working closely with Kyoto University, Okayama University and NIES Tsukuba sponsored under SATREPS program by JICA and JST (2011-2016). He is also Director of UTM- Low Carbon Asia Research Centre and steering committee members of MIT Massachusetts – UTM sustainable cities Program. His current research areas of interest are in low carbon and green city planning, sustainable urban development, energy efficient city, and Built Environment education. He has published many papers in international journals and books.

マレーシア工科大学 (UTM) 構築環境学部教授で、国際関係局局長も務める。交通・物流協会 (CILT: Chartered Institute of Logistic and Transport)、マレーシア都市計画委員会及びマレーシア計画者学会の会員。1983年にマ レーシア工科大学より都市・地域計画の学士号を取得し、1987年に英国エジンバラのヘリオットーワット大学よりエ 事管理の理学修士号を取得、1995年に日本の日立スカラーシップを受け博士課程を修了。また、2005年にマレー シア王立協会、英国チーヴニング奨学金を受け博士課程修了研究者、2005年から2010年に日本学術振興会にて助 成金を受けた客員研究員として勤務する。2011年から2016年まで、京都大学、岡山大学、国立環境研究所 (NIES) との共同プロジェクト「アジア地域のための低炭素社会シナリオの開発プロジェクト」のプロジェクト・リーダーを務 めている。本プロジェクトは国際協力機構(JICA)及び科学技術振興機構(JST)による地球規模課題対応国際科学 技術協力(SATREPS)プログラムの支援下にある。現在、UTMの低炭素アジア研究センター長を務めており、最も 関心のある研究分野は、低炭素都市計画及び環境に配慮した都市計画、持続可能な都市開発、エネルギー効率の 良い都市、ならびに構築環境教育である。国際的な刊行物や書籍並びに多くの論文をこれまでに発表。



Shiv Someshwar シブ・サムシュワール Earth Institute, Columbia University コロンビア大学地球研究所

Dr. Someshwar is research faculty at Columbia University, New York. At the Earth Institute, he is also Director, Climate Policy at the Center on Globalization and Sustainable Development, and Senior Advisor, Sustainable Development Solutions Network. An expert in climate and development policy, Dr. Someshwar has led numerous multidisciplinary efforts to build resilience to climate risks in developing countries. He advises governments on identifying and implementing climate and sustainable development action priorities, and served as an advisor to UNDP's Bureau of Crisis Prevention and Recovery to integrate climate adaptation and disaster risk reduction efforts. Previously, he was at the Rockefeller Foundation and at the World Bank. Dr. Someshwar received his Ph.D. in environment and public policy from the University of California, Los Angeles, and was a MacArthur Bell fellow at Harvard University.

ニューヨークにあるコロンビア大学の研究教員。同大学地球研究所では、グローバリゼーションと持続可能な開発 センターの気候政策所長及び持続可能な開発ソリューションネットワークのシニア・アドバイザーを務める。気候と 開発政策の専門家であり、発展途上国における気候変動リスクに対するレジリエンス(対応力)を構築するため多く の学際的な研究活動を牽引。諸政府に対し、気候と持続可能な開発の優先すべきアクションの特定・実施を提言。 また、国連開発計画(UNDP)では、気候変動適応と災害リスク削減努力の統合を目指す危機予防復興支援局の顧 問も務める。前職では世界銀行とロックフェラー財団に所属。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で環境・公共政 策博士号を取得。ハーバード大学では、マッカーサーベル(MacArthur Bell)奨学研究員を努めた経験も持つ。



Yoshinori Suga 須賀 義徳

Deputy Director of Office of Sound Material-Cycle Society, Ministry of the Environment, Japan 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室 課長補佐

Yoshinori Suga, Deputy Director of Office of Sound Material-Cycle Society, Ministry of the Environment, Japan, is working for international issues on waste management and 3R. He gained master degrees in Chemical Engineering from Tokyo Institute of Technology and in Geography from Royal Holloway, University of London. After joining the Ministry of the Environment in 2006, he worked for a variety of environmental issues such as international issues on chemical management, environmental impact assessment, the Eco-Point Program, Japanese greenhouse gas inventory, and biodiversity in the Fisheries Agency.

東京工業大学理工学研究科化学工学専攻修了、英ロンドン大学ロイヤルホロウェイ地理学科修士課程修了。2006 年に環境省に入省して以来、化学物質管理の国際対応、環境アセスメント、エコポイントのほか、水産庁への出向 を経て、温室効果ガスインベントリ作成などにも携わる。現在は、廃棄物・リサイクル対策部企画課・循環型社会 推進室にて、廃棄物や3R対策の国際対応を担当。



Bima Arya Sugiarto צישיאיסאיאדייאר

Mayor of Bogor, Indonesia インドネシア・ボゴール市長

After finishing School in 1991, Dr. Bima Arya majored in International Relations, University of Parahyangan, Bandung. Then, he continued his studies in Development Studies, Monash University, Melbourne in 1996. Returning from Melbourne in 1998, he returned to his alma mater and start his careers as faculty in the Department of International

Relations at Parahyangan University early 2001, he decided to go to Jakarta. He started a new career in the University of Paramadina. In 2002, he got a scholarship from the Government of Australia for the doctoral programme. In June 2002, he flew to Adelaide to begin a doctoral program in political science. Currently, Dr. Arya active teaching at Paramadina University, led the Lead Institute, a study center under the auspices of Paramadina University.

After winning the Mayor's Election, Dr. Bima Arya is currently the Mayor of Bogor for the period 2014-2019. He established the city of Bogor as a Smart City with environmentally sustainable development. At the beginning of his reign, Dr. Arya created a Program of Bogor Green Room as a control room of the city of Bogor, including monitoring energy use and environmental pollution of the city.

1991年バンドン・パラヤンガン大学卒業(国際関係学専攻)。1996年にメルボルンのモナッシュ大学にて開発学を専攻。1998年にメルボルンより帰国し、2001年初頭にパラヤンガン大学の国際関係学部で教員を務め、その後、ジャカルタに移り、パラマディナ大学に着任。2002年にオーストラリア政府の奨学金支援を通じ、同年6月に政治学の博士課程に入学。パラマディナ大学での積極的な活動により、大学後援によるリード研究所の開設に貢献した。市長選挙に当選後、2014年より現職(任期:2014~2019年)。環境面において持続可能な発展都市としてのボゴール市を築き上げる。市長就任直後、エネルギー消費量及び都市の環境汚染のモニタリングを含む管理室として、ボゴールグリーンルームプログラムを立ち上げた。



Suharto スハルト Head of Bogor City Development Planning Board, Indonesia インドネシア・ボゴール市地方開発企画庁 ヘッド

Suharto became a civil servant since 1988 to the present. He initiated his career by serving in the Ministry of Transportation of the Republic of Indonesia. Fifteen years later he moved to the city of Bogor. During the eleven years of serving in the Transportation Department of Bogor City, in September 2006 he became Assistant of Civil Administrative and Development. Then he became Head of Bogor Development Planning Board until today. During his career, he's always focusing on eco-friendly and sustainable development especially transportation programs. As evidenced by the large number of short courses and training that followed him in the Sustainable Urban Transport. Recently, Suharto is also a Chairman of the Trustees Board of Bogor City Transport Company known as PDJT. The company manages a public passenger bus named Trans Pakuan. This bus was a pioneer for Biodiesel Public Transport in Bogor. Environmentally friendly buses are expected to decrease air pollution, so as to realize the Bogor Green City.

1988年より現在まで公務員として従事。インドネシア運輸省にて15年のキャリアを積んだ後、ボゴールに移る。11年間にわたりボゴール市交通局に在職し、2006年9月に市の行政及び開発担当のアシスタントに従事。その後、ボゴール市地方開発企画庁ヘッドとなり現在に至る。キャリアを通じて、特に交通プログラムにおいて環境に配慮した持続可能な開発に焦点を当てた活動を続けており、持続可能な都市交通分野においては多くの短期コースや研修が開催されている。最近では、PDJTとして知られるボゴール市交通会社の評議員長に就任。同社は、ボゴールのバイオディーゼル公共交通機関の先駆けとなったTrans Pakuanと呼ばれる公共バスを運行しており、ボゴールグリーンシティ実現のため、これらのバス運行により大気汚染減少につながることが期待されている。



Akimasa Sumi 住 明正
President, National Institute for Environmental Studies (NIES)
国立環境研究所 (NIES) 理事長

He got Ba. (1971) and Ma. (1973) in Physics in the University of Tokyo. He joined the Japan Meteorological Agency (JMA) in 1973. He stayed at University of Hawaii from 1979 to 1981. He got a Ph.D from the University of Tokyo in 1985 and moved to the Department of Geophysics, the University of Tokyo as an associate professor. He was appointed to

be a professor in CCSR (Center for Climate System Research), the University of Tokyo. He retired the University and was appointed to be a vice president of National Institute for Environmental Studies (NIES) at 2012 and since 2013 until now he has been a president of NIES. His research field is numerical prediction, climate system dynamics and sustainability science.

昭和46年6月東京大学理学部物理学科卒業、昭和48年3月東京大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程終了、理学博士(東京大学)。昭和48年気象庁に入り、昭和54年2月より2年間ハワイ大気象学教室助手、気象庁に戻った後、昭和60年4月に東京大学理学部地球物理学教室助教授、その後、気候システム研究センター教授、センター長、サステイナビリティ学連携研究機構地球持続戦略研究イニシアティブ統括ディレクターを経て退職。平成24年10月より国立環境研究所理事、平成25年4月より同理事長、現在に至る。専門は、数値予報、気候システム学、そしてサステイナビリティ学。



Katsunori Suzuki 鈴木 克徳 Director / Professor, Environment Preservation Center, Kanazawa University 金沢大学環境保全センター長・教授

Prof. Katsunori Suzuki worked for the Ministry of the Environment, Japan for more than 30 years. Over that period, his main focus was on international environmental negotiations and international environmental cooperation, especially in Asia and education for sustainable development (ESD). He is currently serving as the Director/Professor of Environment Preservation Center in Kanazawa University. His research focuses on environmental policy, international environmental cooperation, including the development of a regional framework on atmospheric management and promotion of a co-benefits approach in East Asia.

環境庁(現在の環境省)に入庁後、30年以上にわたり、主に環境分野での国際交渉と特にアジアにおける国際協力関係に携わってきた。現在は金沢大学環境保全センター長・教授を務め、環境政策、国際環境協力及び持続可能な開発のための教育(ESD)について研究を行っている。主な研究テーマには、東アジアにおける大気環境管理に関するより適切な地域協力枠組みの構築、コベネフィット・アプローチの推進等がある。



Masachika Suzuki 鈴木 政史
Associate Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University
上智大学大学院地球環境学研究科准教授

Masachka Suzuki received Ph.D. from Erasmus Universiteit Rotterdam in the Netherlands and MAs both from Columbia University in the US and Keio University in Japan. Prior to this position, he was an Associate Professor at Kansai University (2010-2014) and an Assistant Professor (2007-2010) and Associate Dean at the Graduate School of International Management of International University of Japan. Apart from his academic career, he has work experience in the environmental and energy consultancy. His previous positions include senior analyst positions at Mitsubishi Securities in Tokyo and Innovest Strategic Value Advisors in New York as well as consultant positions at the Department of Economic and Social Affairs (DESA) at the UN headquarter in New York and at the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) in Bonn. Presently, Dr. Suzuki works as an author, reviewer, and guest editor for international journals on corporate environmental and energy strategy.

エラスムス・ロッテルダム大学 (蘭) にて博士号、コロンビア大学 (米) 及び慶応大学にて修士号を取得。関西大学准教授 (2010年~2014年)、国際大学国際管理大学院助教授 (2007年~2010年) 及び副学部長を歴任。環境経営とクリーンエネルギー技術導入戦略、持続可能な開発のための環境・社会指標などの研究に従事。



Wataru Suzuki 鈴木 渉

Senior Coordinator, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 上級コーディネーター

Mr. Wataru Suzuki joined former UNU Institute of Advanced Studies as Satoyama Initiative Coordinator in 2012 to oversee the operation of the secretariat for the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI). He was appointed as a Senior Coordinator of the new institute in April 2014. Prior to joining UNU-IAS, he was involved in various project activities relating to biodiversity, such as preparing for the Third National Biodiversity Strategy of Japan and the Guideline for the Private Sector Engagement in Biodiversity. In 2010, he was involved in organizing COP10 of the CBD held in Nagoya in October, as well as the Closing Event for the International Year of Biological Diversity (IYB) held in Kanazawa in December.

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)事務局次長として、持続可能なランドスケープ及びシースケープの利用などを目指す SATOYAMA イニシアティブの普及・推進に携わる。環境省自然環境局では、生物多様性地球戦略企画室及び生物多様性センターに勤務。第三次生物多様性国家戦略、生物多様性民間参画ガイドライン等の策定、2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議及び同年石川県金沢市で開催された国際生物多様性年クロージングイベントの開催などに携わる。主な著書として、「生物多様性・生態系と経済の基礎知識(中央法規)」「基礎から学ぶ環境学(朝倉書店)」、「儲かる農業をやりなさい!(マネジメント社)」(いずれも共著)などがある。その他、米国国立公園等に関する記事として、「アメリカ横断ボランティア紀行」をEICネット(www.eic.or.jp)にて連載。



Prabhakar SVRK プラバカール・シヴァプラム

Task Manager / Senior Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域 タスクマネージャー/主任研究員

Currently, Prabhakar works on a variety of issues relevant to climate change adaptation and disaster risk reduction. Specific topics include mainstreaming climate change adaptation concerns into sectoral development plans and policies, adaptation metrics, identifying and characterizing adaptive policies, risk insurance, loss and damage, vulnerability assessment and training needs assessment for capacity building. Earlier, as JSPS Post-Doctoral Fellow working at Kyoto University, he conducted several research projects on climate change implications for disaster risk management in South and East Asian countries. He serves as Coordinating Lead Author for the UNEP Geo-6 report and contributed to the IPCC Working Group II Fifth Assessment Report.

Prabhakar has more than 15 years of experience in participatory research and development with international and national research and developmental organizations such as ICRISAT, IARI, CIMMYT-RWC, UNDP, NIDM & Kyoto University wherein he was responsible for conception, execution and implementation of a variety of research and developmental projects covering natural resource management, climate change adaptation and disaster risk reduction. He obtained PhD in Field Crop Management from the Indian Agricultural Research Institute, New Delhi in 2001.

プラバカール研究員は国内外の研究所及び開発機関において15年以上の参加型研究・開発の経験をもつ。これまでICRISAT、IARI、CIMMYT-RWC、UNDP、NIDM 及び京都大学において、自然資源管理、気候変動の適応及び災害リスクの軽減など多岐にわたる研究及び開発事業を考案、実施してきた。同氏は2001年にニューデリーのIndian Agricultural Research InstituteにおいてField Crop Managementの博士号を取得している。現在、気候変動の適応及び災害リスクの軽減に関連する様々な問題に取り組む。また、国連環境計画「地球環境概況6」の統括執筆責任者、IPCC 第2作業部会第5次評価報告書のコントリビューティング・オーサーも務める。具体的には、各セクターの開発計画・政策における気候変動適応の主流化、適応の測定基準、適応政策の特定と特性化、リスク保険、ロス&ダメージ、脆弱性評価、また能力開発に向けたトレーニングニーズ評価が含まれる。上記以前は、

京都大学の日本学術振興会ポストドクターフェローとして、南・東南アジア各国における気候変動による災害リス ク管理に関する研究事業を行っていた。



Gen Takahashi 高橋 元 Deputy General Manager, Global Business Development, Overseas Business Sector, JFE Engineering Corporation JFE エンジニアリング株式会社 海外統括本部 部長代理

He joined Nippon Kokan Ltd. (present JFE Engineering Corporation) in April 1990. After many years' experience in various business fields in this Company; production controlling of factory, marketing of sewage treatment plant, management of sales branch, administration and secretariat of the company, etc., he has worked for management and marketing as a Director of PT. JFE Engineering Indonesia (subsidiary company of JFE) in 2011 and 2012. Since April 2013, he has been in charge of global business development with collaboration with ministry, local government, international organizations, etc. Bachelor degree of Commerce and Management from Hitotsubashi University in 1990.

1990年4月に日本鋼管株式会社(現JFEエンジニアリング株式会社)に入社。工場生産管理、水処理プラント営業、 国内営業企画、総務、秘書、国内支店等を経た後、2011年よりインドネシア現地法人にて会社運営と営業企画を 担当。2013年4月より海外本部東南アジア事業部、2015年4月より海外統括本部(現職)。官庁・自治体・国際機関 との連携による案件形成企画業務を担当。1990年一橋大学商学部卒。



Kentaro Takahashi 高橋 健太郎 Task Manager / Senior Policy Researcher, Climate and Energy Area, IGES IGES気候変動とエネルギー領域タスクマネージャー/主任研究員

Mr. Takahashi obtained his master's degree from Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo in Japan on the monitoring of land cover change in East Kalimantan, Indonesia. After serving as a consultant at the consulting company which provided CDM development services etc, he joined IGES in 2009. He started his work on the CDM/JI capacity building programme in Asian countries. He currently engages market mechanisms capacity building programme in Bangladesh, China, Indonesia and Thailand including the Joint Crediting Mechanism (JCM), ETS and voluntary carbon market. He started part-time lecturer at College of Humanities and Sciences, Nihon University in 2013.

東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了(農学修士)。コンサルティング会社にて、地球温暖化対策支援・ クリーン開発メカニズム(CDM)プロジェクト開発に従事した後、2009年よりCDM/JI能力開発事業を担当。現在、 中国・インドネシア・タイ・バングラデシュを担当し、二国間クレジット制度や自主的オフセット・クレジット、排出 量取引制度等の調査・研究に従事。2013年より日本大学文理学部非常勤講師。



Akio Takemoto 竹本 明生 Director, Research and Information Office, Global Environment Bureau, Ministry of the Environment, Japan 環境省 地球環境局研究調査室 室長 (併任: 内閣府宇宙戦略室参事官)

Dr. Akio Takemoto is Director of Research and Information Office at Global Environment Bureau, Ministry of the Environment, Japan. He is jointly appointed Director for the Office of National Space Policy at the Cabinet Office. He is engaged in formulation of the national adaptation plan and various international activities by serving as delegation to the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC), member of Adaptation Committee under United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) (until March 2015), Steering Committee member of the Asia-Pacific Adaptation Network (APAN) and Steering Committee member of the Asia-Pacific Network for Global Change Research (APN).

He started his career on Environment Administration in April 1992. He served as the first and second Secretary of the Permanent Delegation of Japan to the OECD (2000-2003), Deputy Division Directors (2003-2010) and Director of International Cooperation Office and Groundwater Office (2010) at MOEJ. He served as Secretariat Director of APN from July 2011 to July 2014. He got Ph.D. at Ibaraki University in 2010 and Master's Degree of Science at Hokkaido University in 1992.

博士 (工学) (平成22年3月茨城大学)、理学修士 (平成4年3月北海道大学)。平成4年環境庁入庁。通商産業省エネルギー技術研究開発課、外務省OECD日本政府代表部一等書記官、環境省地球環境局地球温暖化対策課国際対策室、同省総合環境政策局環境影響評価課などを経て、平成22年4月より同省水・大気環境局地下水・地盤環境室長兼水・大気環境国際協力推進室長。平成23年7月よりアジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN) 事務局長。平成26年7月より現職。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 政府代表、国連気候変動枠組条約・適応委員会委員 (2015年3月まで)、アジア太平洋適応ネットワーク (APAN) 運営委員、APN運営委員会委員。



Kazuhiko Takeuchi 武内 和彦

Senior Vice-Rector, United Nations University (UNU) / Director and Professor, Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S) The University of Tokyo 国連大学上級副学長/東京大学サステイナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 機構長・教授

Kazuhiko Takeuchi is Senior Vice-Rector of United Nations University, Director and Professor of the Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S) at the University of Tokyo. He has served, inter alia, as a member of the Science Council of Japan, and a vice-chairman of the Food, Agriculture and Rural Area Policies Council, Government of Japan, Editor-in-Chief of the journal Sustainability Science (Springer).

Educated and trained as a geographer and landscape ecologist at the University of Tokyo, he engages in research and education on creating eco-friendly environments for a harmonious coexistence of people and nature, especially focusing on Asia and Africa. He leads the *Satoyama* Initiative as well as climate/ecosystem change research in Asia and Africa.

His recent publications include Rebuilding the relationship between people and nature: The *Satoyama* Initiative (*Ecological Research*, 25, 891-897, 2010), Sustainability: Engaging in global change thorough harmonious adaptation in Asia (co-authored, *Nova Acta Leopoldina*, NF112, Nr. 384, 213-226, 2010), Sustainability Science: A Multidisciplinary Approach (co-edited, United Nations University, 2011), and *Satoyama-Satoumi* Ecosystems and Human Well-Being: Socio-Ecological Production Landscapes of Japan (co-edited, United Nations University, 2012), Using sustainability science to analyse social–ecological restoration in NE Japan after the great earthquake and tsunami of 2011(co-authored, *Sustainability Science* 9: 513-526, 2014).

1974年東京大学理学部地理学科卒業、1976年同大学院農学系研究科修士課程修了。東京都立大学助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、1997年より2012年まで同大学院農学生命科学研究科教授。2012年より同高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構長・教授。2008年より国際連合大学(UNU)副学長、2013年1月より同上級副学長、国際連合事務次長補を併任。日本学術会議会員、食料・農業・農村政策審議会会長代理、国際学術誌 Sustainability Science (Springer)編集委員長、なども務める。

専門は、緑地環境学、地域生態学、サステイナビリティ学。人と自然の望ましい関係の再構築を目指して、アジア・アフリカを主対象に研究教育活動を展開している。最近では、持続型社会の構築を目指す俯瞰的な科学としての地球持続学(サステイナビリティ学)の世界的な拠点形成に向けて奔走している。また、日本の里地里山の再生を目指すとともに、伝統的な土地利用の再構築に向けた世界の多様な取り組みとの連携を目指すSATOYAMAイニシアティブにも深く関与している。

最近の著作には、「地球持続学のすすめ」(岩波ジュニア新書、2007年)、「生態系と自然共生社会」(共編著、東京大 学出版会、2010年)、「Satoyama Satoumi Ecosystem and Human Well-Being」(共編著、UNU Press、2013年)、「世 界農業遺産-注目される日本の里地里山」(祥伝社新書、2013年)、「日本の自然環境政策-自然共生社会をつくる」 (共編著、東京大学出版会) などがある。



Rintaro Tamaki 玉木 株太郎

Deputy Secretary-General, The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) 経済協力開発機構 (OECD) 事務次長

Mr. Tamaki graduated in 1976, L.L.B. from the University of Tokyo. He was appointed Deputy Secretary-General of the OECD on August 1, 2011. His portfolio includes the strategic direction of OECD policy on Environment, Development, Green Growth, Inclusive Growth, Financial Affairs and Taxes. During his prominent 35-year career at the Japanese Ministry of Finance, he has worked on various budget, taxation, international finance and development issues. He worked as part of the OECD Secretariat from 1978 - 1980 and from 1983 - 1986. In 1994 he was posted to the World Bank as Alternate Executive Director for Japan and in 2002 as Finance Minister at the Embassy of Japan in Washington DC. He then became Deputy Director-General (2005), before becoming Director-General (2007) and subsequently Vice-Minister for International Affairs (2009) at the Ministry of Finance.

1976年東京大学法学部卒。2011年8月からOECD事務次長として環境、開発、グリーン成長、公平な成長、金融 及び税を担当。財務省での35年間の勤務において、予算、税制、国際金融、開発等の様々な政策に従事。その間、 1978年~1980年と1983年~1986年の2回にわたりOECD事務局にて勤務。1994年世界銀行理事代理、2002年 在アメリカ合衆国日本大使館公使、2005年財務省大臣官房審議官、2006年国際局次長、2007年国際局長、2009 年財務官を歴任。



Kentaro Tamura 田村 堅太郎

Deputy Director, Kansai Research Centre / Leader, Climate and Energy Area, IGES IGES 関西研究センター副所長/気候変動とエネルギー領域エリアリーダー

Dr. Kentaro Tamura received a Ph.D. in International Relations from the London School of Economics and Political Science, UK. He had been a lecturer at the Eco-Technology Laboratory at Yokohama National University and joined IGES in 2003. His research interests include post-2012 climate regime and policy-making processes in major economies.

ロンドン大学経済政治学院(LSE)大学院博士課程修了(国際関係学博士)。横浜国立大学エコテクノロジー・ラボ ラトリー講師を経て、2003年よりIGES 勤務。研究テーマは、2013年以降の国際気候変動枠組み、主要国の政策 決定プロセス。



Kiyoto Tanabe 田辺 清人

Head, Technical Support Unit for IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) インベントリータスクフォース技術支援ユニット (TSU) ヘッド

Majored in meteorology in the Graduate School of Tokyo University and got a master degree of science in 1993. After working at a private consulting company particularly for compilation of national GHG inventory of Japan for several years, joined in the Technical Support Unit of the IPCC Task Force on National Greenhouse Gas Inventories (IPCC TFI

TSU) as a Programme Officer in 1999. Engaged in various international activities including development of the 2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories, review of national GHG inventories under the UNFCCC and the Kyoto Protocol, work as a member of Consultative Group of Experts on National Communications from Parties not included in Annex I to the UNFCCC (CGE), etc.

東京大学理学系大学院にて気象学を専攻し、1993年に理学修士号を取得。民間シンクタンクにて、日本の温室効果ガスインベントリーの作成などの業務に数年間携わった後、1999年に、IPCCインベントリータスクフォース技術支援ユニット(TFI TSU)にプログラムオフィサーとして着任。その後、2006年IPCCインベントリーガイドラインの作成、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)及び京都議定書の下での温室効果ガスインベントリーの審査活動、UNFCCCの非附属書 I締約国の国別報告書に関する専門家諮問グループの活動などに従事。



Nobuo Tanaka 田中 伸男

Former Executive Director, The International Energy Agency (IEA)/ President, The Sasakawa Peace Foundation (SPF) 国際エネルギー機関(IEA)前事務局長/笹川平和財団理事長

Nobuo Tanaka is President of The Sasakawa Peace Foundation as of April 1st, 2015. He had been a former Executive Director of the International Energy Agency (IEA) from 2007 to August 2011. He began his career in 1973 in the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), and has served in a number of high-ranking positions, including Director-General of the Multilateral Trade System Department. He was Minister for Industry, Trade and Energy at the Embassy of Japan, Washington DC. He has also served twice as Director for Science, Technology and Industry (DSTI) of the Paris-based international organization, OECD.

1972年東京大学経済学部卒業、翌年通商産業省入省。経済産業研究所副所長、経済産業省通商政策局通商機構部長、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局長などを経て、2007~2011年に日本人初となる国際エネルギー機関(IEA)事務局長を務める。主著に『「油断」への警鐘』など。



Shom Wei Chin Teoh ショム・ウェイ・チン・ティオ

Task Manager / Senior Policy Researcher, IGES Regional Centre IGES バンコク地域センター タスクマネージャー/主任研究員

Shom Teoh is Programme Manager, Sustainable Cities at IGES. Her research focuses on greening urban services, community-scale GHG inventories and climate change policies in the context of multi-level governance. She also manages a small grants, capacity building and technical assistance programme (ASEAN ESC Model Cities Programme) for a network of aspiring green and low-carbon cities in the ASEAN region. Prior to joining IGES, she was an Asian Youth Fellowship scholar and conducted research on solid waste management policies and legislation in Japan and Southeast Asia. She previously worked as a journalist and then as a Communications Officer for Energy and Environment for UNDP in Malaysia. She holds a Masters in Global Environmental Studies (Ecological Economics) from Kyoto University, Japan.

IGES において持続可能な都市研究を担当。都市サービスのグリーン化、地域規模の GHG インベントリ、マルチレベルガバナンスの観点における気候変動政策を中心に研究し、ASEAN 地域で低炭素都市の構築を促すネットワーク化に向けて、ASEAN ESC モデル都市プログラムを担当。 IGES 以前には、アジアユースフェローショップの学生として日本と東南アジアの固形廃棄物管理政策・法を研究。ジャーナリストとして活躍したほか、マレーシアの国連開発計画 (UNDP) にてエネルギー・環境問題のコミュニケーション担当官等を歴任。京都大学大学院修了。



Prasert Trakansuphakon プラサート・トゥラカンスパコーン

President, Indigenous Knowledge and Peoples (IKAP) Network, Thailand タイ 先住民族・知識基金 (IKAP) 代表

Prasert Trakansuphakon received his Ph.D. in Social Science from Chiang Mai University, Thailand. He has been long involved in Indigenous Organization (NGO) as President of Indigenous Knowledge and Peoples Foundation (IKAP), and also used to Regional Director of IKAP. Now, he is Chair of Inter Mountain People Education and Culture Association in Thailand (IMPECT) and used to Director of IMPECT for ten years. And he is also Chair of Pgakenyaw Association for Sustainable Development (PASD) and also the Director of PASD. He has long experiences on community development work among indigenous Peoples in Thailand more than 20 years. He has done both research and community development in indigenous communities on Indigenous Knowledge, Environment (Natural Resource Management), Rotational Farming (Shifting Cultivation) and also alternative Education or Indigenous Education, and he also has worked many years with indigenous peoples in Burma, Lao, South west China, Cambodia and Vietnam.

チェンマイ大学(タイ)において社会科学博士号を取得。先住民族・知識基金(IKAP)代表・タイ山岳民族教育文化協会(IMPECT)会長。また、持続可能な開発のためのPgakenyaw協会において会長及びディレクターを兼務。これまでにIKAP地域ディレクター及びIMPECTディレクターを10年間務めるなど、先住民知識、自然資源管理、焼畑(移動)耕作及び先住民教育等のテーマについて、研究とコミュニティ開発の両方の立場から20年以上にわたりタイの先住民族に関わる。また、ミャンマー、ラオス、中国南西部、カンボジア及びベトナムの先住民族とも長年にわたる協働関係にある。



Kazuto Tsuji 社 -人

Executive Committee Chair of the Consultative Group to Assist the Poor (CGAP) / Visiting Senior Advisor to Japan International Cooperation Agency (JICA) / Professor, Saitama University CGAP経営委員会議長/国際協力機構 (JICA) 客員専門員/埼玉大学教授

Prof. Tsuji is the Director/Professor of the Center for Research and Training on International Development of Saitama University, which manages a programme for selected undergraduate students to study in universities in USA and experience an internship in developing countries. He is also a Visiting Senior Advisor to JICA, specialising in inclusive finance, poverty reduction and governance. Since July 2013 he has been the Chairperson of the Executive Committee of CGAP (Consultative Group to Assist the Poor), promoting financial inclusion for the poor. In addition, he sits as a guest advisor on financial inclusion, at the Advisory Group on APEC Financial System Capacity-Building attached to the APEC Business Advisory Council. He had worked at Japan's development assistance agencies (JICA and its predecessors, JBIC/OECF) for 33 years and assumed several director-general posts before joining Saitama University in 2012. He studied law and political science (BA) at the University of Tokyo and political science (MA) at the University of Michigan, Ann Arbor, and has published a number of books and articles on international development both in Japanese and English.

東京大学法学部政治学科卒、米国ミシガン大学大学院政治学修士修了。OECF(海外経済協力基金)、JBIC(国際協力銀行)、JICA(国際協力機構)で様々な役職を担当。現在、埼玉大国際開発教育研究センター長・教授として社会経済と政治開発学及び金融包摂とマイクロファイナンスについて教鞭をとり、またJICAでは客員専門員(マイクロファイナンス等担当)を行っている。2013年6月より、CGAP(Consultative Group to Assist the Poor、金融包摂推進の為の国際シンクタンク)の取締役会長を務める傍ら、APEC金融システム能力強化アドバイザーとしての活動も行っている。政策金融や開発政策・援助に関する多くの論文(日・英)執筆を行っている。



Naoya Tsukamoto 塚本 直也 Principal Researcher / Secretary General, IGES IGES統括研究プログラムマネージャー/事務局長

Mr. Tsukamoto has a Masters in Environmental Science from Johns Hopkins University, and Bachelor of Physics from the University of Tokyo. He started research at IGES from 2014, focusing on climate-change issues and bilateral relations with China. Having entered the Ministry of the Environment, Japan in 1985, he has wide experience of pollution control, regional environment management, and global environment affairs. In 2011 he launched National Children Study of Japan, an environmental cohort study, with more than 100,000 participating mothers and children. Internationally, he worked for the Delegation of Japan to the OECD (Paris) from 1994-1997. From 2001-2005 he served as senior Environment Engineer at the World Bank (Washington D.C), responsible for environment assessment of infrastructure development in China and Indonesia. He also served as a task team leader for a CDM project. From 2005-2008 he was head of the national delegation to the IPCC/AR4. Under the UNFCCC he served as Vice Chair and board member of the Adaptation Fund from 2006-2008, as well as a member of the Adaptation Committee from 2011-2013.

1985年東京大学理学部物理学科卒、2005年Johns Hopkins大学環境科学修士。1985年環境庁に入庁。大気汚染、水質汚濁、地域環境管理、地球環境保全など幅広く環境行政に携わる。OECD日本政府代表部、世界銀行本部(ワシントンDC) 勤務を経て、2005年から環境省研究調査室長、IPCC/AR4日本政府代表、UNFCCC適応基金理事会メンバー(理事及び副議長)。2008年環境リスク評価室長:10万人の子供を妊娠期間から12歳まで追跡して化学物質がこどもの健康へ与える影響を解明する「エコチル調査」を立上げ。2010年国際連携課長、UNFCCC適応委員会のメンバー。2013年産業廃棄物課長。2014年7月から現職。



Arnold Tukker アーノルド・タッカー

Professor of Industrial Ecology / Scientific Director of the Institute of Environmental Sciences, Leiden University

ライデン大学産業エコロジー教授/環境科学センター科学ディレクター

Arnold Tukker is since 1 October 2013 the Professor of Industrial Ecology and Scientific director of the Institute of Environmental Sciences (CML) at Leiden University for 70% of his time. He retains a 30% position as senior researcher at TNO, a large Dutch not for profit research organisations. Arnold set up prominent EU projects in the field of sustainable product design (SusProNet) and sustainable consumption and production (SCORE!) and was core member of the 10 Million Euro Dutch Knowledge Network on Sustainable System Innovations. He currently co-ordinates a string of major programs of some 15 million Euro with some 20 key European research institutes in the field of resource-efficiency, a.o. constructing the world's most ambitious and detailed global energy/resource/economic input-output databases and models (EXIOBASE). He authored 6 books, over 50 refereed papers and 7 special issues on sustainability research. He has been engaged with work of the UN on the Green Economy Initiative, the Resources Panel, the Ten Year Framework of Programs on Sustainable Consumption and Production, and Sustainable Development Goals.

2013年10月よりライデン大学産業エコロジー教授、環境科学センター科学ディレクター。時間の七割を同大学での職務に費やすほか、残り三割はTNO応用科学研究機構(オランダの大型非営利研究機関)上級研究員として活動。持続可能な商品デザインや持続可能な消費と生産(SCP)などの分野で、SusProNetやSCORE!など、広く知られるEUプロジェクトの立ち上げに貢献。1千万ユーロの活動費を有する「持続可能なシステムイノベーションに関するオランダ知識ネットワーク」の中核メンバー。現在、20余りの欧州研究機関と共同で、資源効率などの分野を中心に、計1,500万ユーロ相当の主要プログラム数本を管轄。世界最大級のグローバルエネルギー・資源・経済投入/産出データベース・モデル「EXIOBASE」はその一例。書籍6冊、査読論文50点、及びサステイナビリティ研究で7つの特別研究論文を執筆。国連システムでは、グリーン経済イニシアチブ、国際資源パネル、持続可能な消費と生産に関する「10カ年計画枠組み」、持続可能な開発目標(SDGs)などの活動にも関わる。



Nguyen Trung Viet グェン・チュン・ヴェト Head of the Ho Chi Minh City Climate Change Bureau, Department of Natural Resources and Environment ホーチミン市天然資源環境局気候変動事務局長

Mr. Nguyen Trung Viet is the Director of the Ho Chi Minh City Climate Change Bureau. He obtained BE degree in Wastewater and Water Supply Engineering from Ha Noi Construction University, Vietnam (1979), MSc degree in Environmental Science from Asian Institute Technology (AIT), Bangkok, Thailand (1987) and PhD in Environmental Technology from Wageningen University and Research Center, The Netherlands (1999).

He was a lecturer in Ho Chi Minh University of Technology from 1980 to 1995, and has been a lecturer at Van Lang University since 1995. In 2003 he was pointed the head of the Solid Waste Management Division, Department of Natural Resources and Environment (DONRE) of Ho Chi Minh City and since 2012 has been working for the HCMC Climate Change Bureau. He has been involved in many projects and much research in the environment and climate change fields.

1979年ハノイ工科大学にて学士号(水処理工学)、1987年タイ・アジア工科大学院にて理学修士号、1999年オランダ・ヴァーへニンゲン大学にて博士号(環境工学)取得。1980年から1995年までホーチミン工科大学にて、1995年からはヴァン・ラン大学にて教鞭を執る。2003年ホーチミン市天然資源環境局廃棄物管理課長、2012年より現職。気候変動及び環境に関する様々な事業、調査プロジェクトに数多く携わっている。



Taisuke Watanabe 渡辺 泰介 Executive Consultant, International Consulting Division, EX Research Institute Ltd. エックス都市研究所国際コンサルティング事業本部 主席研究員

Mr. Taisuke Watanabe was responsible for the Disaster Risk Reduction (DRR) and Environmental Management area within JICA, which is included in a global agenda for developing countries. Prior to this, he has been previously stationed in the Malaysia and India Offices. Before joining JICA in 1993, he worked in the Ministry of Health & Welfare and Environment Agency. He holds a B.S. in Engineering from the University of Tokyo and M.S. in Policy Sciences from Hosei University.

JICAで、開発途上国にとって地球規模の課題である、防災、環境管理に携わり、現職。JICAでは、マレーシア、インドに駐在。JICA所属前には、厚生省、環境庁(当時)に勤務。政策科学修士(法政大学)、工学士(東京大学)。



Yoko Watanabe 渡辺 陽子 Asia Regional Coordinator of Programs, Global Environment Facility (GEF) 地球環境ファシリティ(GEF) アジア地域マネージャー/上席生物多様性専門官

Yoko Watanabe principally manages the Global Environment Facility (GEF)'s operation in Asia region. In her position she supervises the entire GEF portfolio in Asia, including biodiversity, climate change, sustainable land and forest management, international waters, and chemical and wastes issues. She also manages the Gender and Social Issues Team at the GEF, engaging in gender equality and women's empowerment as well as indigenous peoples issues. Prior to the GEF, she worked at the United Nations Development Programme (UNDP) as an environmental specialist at its Nepal and Mongolia Offices from 1996 to 1999, then at the World Wildlife Fund for Nature (WWF) as the deputy country director and led its operation at the Mongolia Office as well as the international organisations coordinator at its United States Office from 1999 to 2004.

GEFのアジア地域チームを統括。生物多様性・気候変動・土壌や森林管理・国際水域・化学物質や廃棄物(水銀を含む)と幅広い分野のプロジェクトをアジア地域全域で展開。また、GEFのジェンダー及びソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)チームも率いる。専門は生物多様性の保全、途上国の自然保護・保護地区の管理等に長年関わってきた。1996年から99年まで国連開発計画(UNDP)のネパール事務所とモンゴル事務所で環境担当官、1999年から2004年までWWF(世界自然保護基金)のモンゴル事務所で副所長兼自然保護部長、アメリカ事務所で国際機関担当調整官を歴任。2004年より現職。



Koji Yamada 山田 浩司 Senior Advisor to the Director General, Operations Strategy, Japan International Cooperation Agency (JICA) 国際協力機構 (JICA) 企画部参事役

Koji Yamada is a strong advocate for mainstreaming SDGs in JICA's development cooperation operations for the Post-MDGs era. During the discussions in the SDGs Open Working Group, he has compiled JICA's perspectives and had them reflected in the formulation of Post-2015 framework. Joining in JICA in 1993, he has served for various ODA operations mainly for South Asia and research projects at the JICA Research Institute. While he was in the residential missions in Nepal and India, Yamada was engaged in the projects for micro-watershed conservation and for promotion of organic farming. He earned master's degrees in Economics at Sophia University and in Development Studies at Nihon Fukushi University. He has also worked as co-financing officer at the World Bank in 2000-2003.

開発協力実施経験に基づくJICAの知見をSDGs検討過程で発信し、現在はSDGsの組織内での普及と目標達成に向けた事業実施体制の整備に携わる。1993年JICA入構。これまで主に南アジア事業と調査研究に従事し、駐在したネパールとインドでは小規模流域管理や有機農業の普及に携わった。



Kazuo Yamamoto 山本 和夫

Vice President for Resource Development at the Asian Institute of Technology (AIT) / Professor, Environmental Science Center, The University of Tokyo アジア工科大学 (AIT) 副学長/東京大学環境安全研究センター教授

Prof. Kazuo Yamamoto graduated from Department of Urban Engineering, Faculty of Engineering, University of Tokyo in 1977, and received his Master's in 1979 and his PhD in 1983. In 1985, he was appointed as Associate Professor of the Faculty of Engineering, University of Tokyo and seconded to Asian Institute of Technology (AIT) for two years from 1987. He had served as Professor, the Faculty of Engineering and then Environmental Center, University of Tokyo since 1995, Director, Environmental Science Center (2003-2007), and Visiting Professor & Senior Advisor to the AIT President (October to December, 2013). In January 2014, he was appointed as Vice President for Resource Development at the AIT and currently also serve as Professor in the Environmental Science Center, as well as Professor in charge of graduate program, Department of Urban Engineering, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo.

1977年東京大学工学部都市工学科卒業。79年修士号、83年博士号取得。85年東京大学工学部都市工学科助教授。87年から2年間、アジア工科大学院(タイ)の助教授に派遣。95年東京大学教授に就任。2003年~07年東京大学環境安全研究センター長を兼任。2013年10月~12月アジア工科大学客員教授兼学長顧問、2014年1月より同大学副学長。東京大学環境安全研究センター教授、東京大学大学院都市工学専攻課程担当教授。



Tatsuya Yokota 横田 達也

Head, Satellite Remote Sensing Research Section, Center for Global Environmental Research, National Institute for Environmental Studies (NIES)

国立環境研究所 (NIES) 地球環境研究センター衛星観測研究室 室長

Tatsuya Yokota received B.S., M.S., and Ph.D. degrees in Measurement and Information Systems Engineering from the University of Tokyo in 1979, 1981, and 1987, respectively. Since 1981, he has been working for the National Institute for Environmental Studies (NIES), Japan. After belonging to Environmental Information Division, Global Environment Research Group, Center for Global Environmental Research (CGER), Social and Environmental Systems Research Division of NIES, he is currently the head of Satellite Remote Sensing Research Section, CGER, and has been promoting NIES Greenhouse gases Observing Satellite (GOSAT, "IBUK!") Project as the NIES GOSAT project leader since 2006.

1979年東京大学工学部計数工学科卒業。1981年同大学院修士課程修了後、環境庁国立公害研究所環境情報部 に入所。工学博士。所内の地球環境研究グループ、地球環境研究センター、社会環境システム研究領域を経て、 2006年より国立環境研究所地球環境研究センター衛星観測研究室長。以降、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」 (GOSAT) プロジェクトを国環研 GOSAT プロジェクトリーダーとして担当している。



Shinji Yoshikawa 吉川 伸治 Vice Governor, Kanagawa Prefectural Government 神奈川県副知事

After graduating from Chiba University, Mr. Yoshikawa entered the Kanagawa Prefectural Government in April, 1975. He worked his way up to the position of Executive Director, Public Health and Welfare Department, and then Special Assistant to the Governor and Director General, Policy Bureau. He was assigned to the current position, Vice Governor, in April 2012.

千葉大学卒業後、1975年4月に神奈川県庁に入庁。 保健福祉部長、理事兼政策局長を経て、2012年4月より現職。



Abdul Hamid Zakri アブドゥル・ハミド・ザクリ

Science Adviser to the Prime Minister of Malaysia / Chair, Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES) マレーシア首相科学顧問/生物多様性及び生態系サービスに関する 政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) 議長

Dr. A. H. Zakri is the Science Advisor to the Prime Minister of Malaysia. He is a prominent Malaysian biologist who was named as the first Chair of the Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES). In September 2013, he was appointed by Ban Ki-moon as a member of the Scientific Advisory Board to the UN Secretary General. Educated in Malaysia and the United States, where he specialized in plant genetics, Dr. Zakri has long experience of negotiations in international biodiversity governance.

ザクリ氏は、マレーシア首相科学顧問を務める。マレーシアの傑出した生物学者であり、生物多様性及び生態系サー ビスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) の初代議長に就任している。2013年9月には、パン・ギムン 国連事務総長より、国連科学諮問委員会メンバーに任命された。マレーシアと米国で植物遺伝学を専攻し、生態系 ガバナンスにおける国際交渉に長く従事する。



Eric Zusman エリック・ザスマン

Leader / Principal Policy Researcher, Integrated Policies for Sustainable Societies Area, IGES IGES 持続可能な社会のための政策統合領域エリアリーダー/上席研究員

Eric Zusman leads the Integrated Policies for Sustainable Societies area at IGES. Dr. Zusman holds a bachelor degree in Mandarin Chinese from Rutgers University, a dual Masters Degree in public policy and Asian studies from the University of Texas at Austin and a Ph.D. in political science from the University of California, Los Angeles. For much of the past decade he has conducted research on environmental issues in Asia. This has included publishing articles and book chapters on water scarcity, air pollution regulation, environmental law and state capacity. His current research focuses on the political economy of low carbon development in Asia. He will be presenting findings from a recent study on governance and the Sustainable Development Goals at this year's ISAP.

ラトガース大学中国語学士号、テキサス大学オースティン校公共政策・アジア研究共同修士号、カリフォルニア大学ロサンゼルス校政策科学博士号。10年以上にわたりアジアの環境問題に関する研究に従事し、水不足、大気汚染防止規制、環境法、中国各省の環境対策キャパシティに関する各種記事や書籍(章)を執筆。現在の研究の中心テーマはアジアの持続可能な低炭素型発展。今回のISAPでは、ガバナンス及び持続可能な開発目標(SDGs)に関する研究発表を行う予定。

*Speakers are subject to change. スピーカーは変更となる場合があります。 *日本語の略歴はIGES 仮訳を含みます。

協力団体一覧 Partners

主 催 Organisers

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) Institute for Global Environmental Strategies (IGES) United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

協力 Collaborators

国連環境計画 (UNEP)

国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)

アジア開発銀行 (ADB) 経済協力開発機構(OECD) 国立環境研究所(NIES)

United Nations Environment Programme (UNEP) United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP)

Asian Development Bank (ADB)

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD)

National Institute for Environmental Studies (NIES)

援 Supporters

環境省

神奈川県

兵庫県

横浜市

川崎市

北九州市

国際協力機構(JICA)

エネルギー資源研究所 (TERI)

横浜国立大学

横浜市立大学グローバル都市協力研究センター 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム イクレイ日本

Ministry of the Environment, Japan Kanagawa Prefectural Government Hyogo Prefectural Government

City of Yokohama Kawasaki City City of Kitakyushu

Japan International Cooperation Agency (JICA) The Energy and Resources Institute (TERI)

Yokohama National University

Global Cooperation Institute for Sustainable Cities,

Yokohama City University

Graduate School of Media and Governance, Keio University

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)

Sustainability Science Consortium

ICLEI Japan Office, ICLEI-Local Governments for Sustainability

展示団体一覧 Exhibitions

展示団体 Exhibiting Organisations

環境省

神奈川県庁

横浜市

川崎市

北九州市

横浜市立大学グローバル都市協力研究センター

一般社団法人海外環境協力センター

Ministry of the Environment, Japan Kanagawa Prefectural Government

City of Yokohama Kawasaki City City of Kitakyushu

Global Cooperation Institute for Sustainable Cities,

Yokohama City University

Overseas Environmental Cooperation Center, Japan

IGES 賛助会員 <法人会員・NGO会員>

IGES Affiliate Members < Foundations/Corporations and NGOs>



ATGREEN Co., Ltd. 株式会社 ATGREEN



Biso Co. Ltd. 株式会社美装 DOWA エコシステム

DOWA ECO-SYSTEM Co., Ltd. DOWA エコシステム株式会社



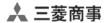
InterRisk Research Institute & Consulting, Inc. 株式会社インターリスク総研



J WORLD TRAVEL 株式会社ジェイワールドトラベル



Kawasaki City 川崎市



Mitsubishi Corporation 三菱商事株式会社



MITSUI & CO., LTD. 三井物産株式会社



myclimate Japan Co., Ltd. マイクライメイトジャパン株式会社



NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc. 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 経営研究所



Overseas Environmental Cooperation Center (OECC) 一般社団法人 海外環境協力センター (OECC)



SHIMIZU CORPORATION 清水建設株式会社



Shiseido Company, Limited

株式会社資生堂



Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc. 損害保険ジャパン日本興亜株式会社



Tokyo Gas Co., Ltd. 東京ガス株式会社

TOTO

TOTO Ltd. TOTO 株式会社



ISAP2015: 持続可能なフォーラムにするために

ISAP2015: Actions for a Sustainable Forum

IGESは、2012年3月にエコアクション21の認証登録を取得しました。 ISAPを低炭素で環境に配慮したフォーラムにするために、以下の取り組みを行います。

IGES obtained certification of Eco Action 21 in March 2012 and in an effort to make ISAP a carbon neutral event, we are promoting the following actions. We encourage participants to take action too:

公共交通機関の利用

ISAPで参加の皆様には、環境への負荷が少ない公共交通機関をできるだけ利用してご来場いただくようお願いしています。

カーボンオフセット・フライトの推奨

ISAPでは、フォーラムに出席するスピーカーやパネリストに、カーボン・オフセットのオプションがあるエアラインの利用を 推奨しています。

クールビズの推奨

ISAP会期中、会議場の室温は28℃に設定され、「スーパークールビズ」を推奨いたします。室温に応じて、上着やネクタイなどを外されたスタイルでご参加ください。

持続可能な紙の使用

ISAPでは、すべての書類にFSC (森林管理協議会) 認証紙も しくは再生紙が使用されます。

フォーラムのペーパーレス化

ISAPでは、ペーパーレス化を目指します。発表資料については、同コピーを当日会場で配布する代わりに、ウェブ上にアップロードして参加者とシェアすることで、ISAP会期中の紙の使用量をできるだけ抑えるよう努めます。

廃棄物のマネージメント

ISAP会場 (パシフィコ横浜) では、会場から出る廃棄物の100%リサイクルを目指しています。会場には以下のような分別リサイクルBOXが設置され、参加者の皆様にもゴミの分別に協力いただきます。

- ビン、カン、ペットボトル
- 生ゴミ&紙コップなど
- よごれのついたプラスチック
- きれいなプラスチック (包装フィルムなど)
- 新聞、雑誌、パンフレット
- その他のゴミ

省エネルギー

ISAP会場 (パシフィコ横浜) は省エネルギーな建物です。一例として建物の照明設備にはLED照明をほぼすべての箇所で導入。トイレ・階段・エスカレーターには人感センサーを設置しています。

Public Transportation

As the organiser, IGES encourages ISAP participants to use public transportation as much as possible to have less impact on the environment.

Carbon Offset Flight

IGES recommends that speakers and panelists at ISAP choose airlines providing a carbon offset option for their travel.

CoolBiz

The meeting rooms will be kept at 28 degrees Celsius during the forum to promote "Super CoolBiz" — It is suggested that dress-code should be semi-formal, and men should not be required to wear a necktie.

Sustainable Papers

All the paper used for ISAP is FSC paper or recycled paper to support sustainable forest management.

Less Documentation

To minimise paper consumption during the forum, IGES will make every effort to share the presentation materials by uploading them onto the Internet, as opposed to the distribution of documents in hard copy.

Waste Management

The ISAP venue (Pacifico Yokohama) pursues 100% recycling of waste produced in the building. It requests that all participants should separate any garbage so that it can be appropriately treated according to the local waste management system. The following types of waste bins are set at the venues.

- Bottles, cans, and "Pet" plastic bottles for recycling
- Raw garbage (e.g. leftover food, etc.) and dirty paper (e.g. paper cups)
- Dirty plastic
- Clean plastic (e.g. wrap film)
- Newspapers, magazines and brochures
- Others

Energy Conservation

The ISAP venue is an energy-saving building, using LED lights in most parts of the building and the lights operated by sensor in washrooms, escalators and stairs.

PACIFICO YOKOHAMA International Conference Center 5F

パシフィコ横浜 国際会議センター 5階



お問い合わせ Contact

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

Institute for Global Environmental Strategies (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11 2108-11, Kamiyamaguchi, Hayama, Kanagawa, 240-0115, Japan Tel: 046-855-3700 Fax: 046-855-3709 E-mail: iges@iges.or.jp URL: http://www.iges.or.jp/





